

修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした 追跡調査

(2020年度修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者に関する報告)

2021年6月

文部科学省 科学技術・学術政策研究所

第1調査研究グループ

治部 眞里 星野 利彦

【調査研究体制】

星野 利彦 文部科学省 大臣官房付 (併任) 科学技術・学術政策研究所 第1 調査研究グループ 総括上席研究官

[報告書確認]

治部 眞里 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第1 調査研究グループ 上席研究官
[調査設計、実施、報告書執筆]

土屋 隆裕 横浜市立大学 データサイエンス推進センター 教授
[データウエイトの作成]

【Contributors】

HOSHINO Tohihiko

Director

1st Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP),
MEXT

JIBU Mari

Senior Research Fellow

1st Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP),
MEXT

TSUCHIYA Takahiro

Professor

Center for Data Science, Yokohama City University

本報告書の引用を行う際には、以下を参考に出典を明記願います。

Please specify reference as the following example when citing this NISTEP RESEARCH
MATERIAL.

修士課程(6 年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査(2020 年度修了(卒業)者及び修了
(卒業)予定者に関する報告) *NISTEP RESEARCH MATERIAL*, No.310, 文部科学省 科学技
術・学術政策研究所.

DOI: <https://doi.org/10.15108/rm310>

The 2020 Survey of Japan Master's Human Resource Profiling", *NISTEP RESEARCH MATERIAL*
No.310, National Institute of Science and Technology Policy, Tokyo.

DOI: <https://doi.org/10.15108/rm310>

修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査(2020年度修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者に関する報告)

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ

要旨

博士後期課程への進学率は、2000年度の16.7%以降、減少傾向にあり、2020年度には9.4%となった。このような状況の中で、「第6期科学技術・イノベーション基本計画¹⁾」が2021年3月26日に閣議決定された。「優秀な学生が経済的な側面やキャリアパスへの不安、期待にそわない教育研究環境等の理由から、博士後期課程への進学を断念する現況」を指摘し、「優秀な若者が、アカデミア、産業界、行政など様々な分野において活躍できる展望が描ける環境の中、経済的な心配をすることなく、自らの人生を賭けるに値するとして、誇りを持ち博士後期課程に進学し、挑戦に踏み出す」ことを目標として掲げている。

科学技術・学術政策研究所(NISTEP)は、平成26年(2014年)から「博士人材追跡調査」を実施してきた。これに加え、本調査は、対象を2020年度の修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者²⁾を対象とし、在籍中における経済的支援状況、進路状況、博士課程に進学しない理由、在籍者の視点から博士課程への進学率を向上させるための政策等について悉皆調査を行った。

本調査から、就職を選択した主な理由は、「経済的に自立したい」、「社会に出て仕事がしたい」であった。また、博士課程進学を検討する重要な条件としては、「博士課程在籍者に対する経済的支援を拡充する」、「賃金や昇進が優遇されるなど、博士課程修了者の民間企業などにおける雇用条件が改善する」、「民間企業などにおける博士課程修了者の雇用が増加する」であった。さらに、在籍者の視点から博士課程への進学者を増加させるための政策としては、「博士課程での給与支給」、「若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善」、「産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善」が挙げられた。

The 2020 Survey of Japan Master's Human Resource Profiling (JM-Pro)

National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT

ABSTRACT

"The 6th Science, Technology and Innovation Basic Plan" was approved by the cabinet on 26. March 2021. Excellent students have surrendered enrolling in the doctoral course due to concerns caused by financial supports, career prospects, disappointing expectations for the educational and research

¹⁾ <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf>

²⁾ 概要及び本文では、「(6年制学科を含む)」を省略し、「修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者」を「在籍者」する。

environment, therefore the government is aimed to solve their concerns and increase the enrollment rate of the graduate school. The enrollment rate of the doctoral course decreased from 16.7% (FY2000) to 9.4% (FY2020).

The National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP) has conducted the Japan Doctoral Human Resource Profiling (JD-Pro) since FY2014. Moreover, in 2020 NISTEP started another survey, the Japan Master's Human Resource Profiling (JM-Pro), that provides data on the characteristics of students in master's course and 6th year of six-year course at university.

This report reveals as follows: (1) The reasons for taking employment instead of going to the doctoral course: they want to be independent; they want to get hired. (2) Under conditions of considering going to the doctoral course are as following: expanding financial supports, improving terms of employment for Ph.D. holders in the private sector, increase in employment of private sector. (3) The government policies of the enrollment rate of going to the doctoral course from the views of Master's candidate are: paying salary in the doctoral course, improving the educational and research environment for young researchers including students in the doctoral course, improving terms of conditions for Ph.D. holders in the private sector.

目 次

概 要.....	1
概要 1. 在籍者を起点とした追跡調査の概要	1
概要 2. 経済的支援(授業料の減免措置).....	2
概要 3. 経済的支援(借入金).....	3
概要 4. コロナ禍による環境変化に伴う研究時間の変化	4
概要 5. 進路予定.....	5
概要 6. 就職先の事業内容.....	6
概要 7. 博士課程進学ではなく就職を選択した理由	7
概要 8. 在籍者の観点から博士課程進学者を増加できる最も効果的な政策.....	8
本編	1
1. 調査の目的と概要.....	1
1-1 調査の目的	1
1-2 調査概要	2
主要な結果	6
2. 修士課程について.....	6
2-1 修士課程進学理由.....	6
2-2 修士課程に進学を決めた時期	8
2-3 自校出身率について	9
3. 経済的支援	10
3-1 ティーチングアシスタント	10
3-2 授業料減免措置.....	13
3-3 借入金	14
4. インターンシップ.....	15
4-1 インターンシップ先の機関	16
4-2 インターンシップ先の選択理由	17
4-3 インターンシップの期間	18
4-4 インターンシップの給与	19
4-5 インターンシップの内容	22
4-6 インターンシップ先への就職	23
4-7 インターンシップ不参加の理由	25
5. 海外経験	26
6. 満足度	27

7. 今後役に立つと考えられること.....	28
8. 研究時間	38
9. 研究成果	44
10. 進路	46
10-1 進路の状況	46
10-2 就職先	48
10-3 就職先の仕事	51
10-4 雇用先の企業区分.....	52
10-5 在学中に希望していた仕事.....	53
10-6 就職先選択の理由.....	54
10-7 雇用先の入職経路.....	55
10-8 進学ではなく就職を選んだ理由	56
10-9 博士課程への進学検討.....	57
10-10 博士課程への進学理由.....	58
11. 博士課程進学に対する政策への提言	59
12. 自由記述より	63
13. 課題と展望	80
参考資料	82

図表目次

図 1-1 修士課程修了者の進学率	1
図 1-2 調査方法	2
図 1-3 2020 年度修士課程の 2 年次在籍者数及び 6 年制学科の 6 年次在籍者数	4
図 1-4 分野別 2020 年度修士課程の 2 年次在籍者数及び 6 年制学科の 6 年次在籍者数	5
図 2-1 修士課程進学理由(複数回答)	7
図 2-2 修士課程進学を決めた時期	8
図 2-3 自校出身率	9
図 3-1 ティーチングアシスタント(TA)の経験	10
図 3-2 ティーチングアシスタント(TA)としての 1 年間の従事時間	11
図 3-3 ティーチングアシスタント(TA)の職務内容	12
図 3-4 授業料の減免措置	13
図 3-5 借入金	14
図 4-1 インターンシップの経験	15
図 4-2 インターンシップ先の機関	16
図 4-3 インターンシップ先の選択理由(複数回答)	17
図 4-4 インターンシップの期間	18
図 4-5 インターンシップの給与	19
図 4-6 給与相当(日給)の支給額	20
図 4-7 給与相当(時給)の支給額	21
図 4-8 インターンシップの主な内容	22
図 4-9 インターンシップ先への就職	23
図 4-10 インターンシップ不参加の理由	25
図 5-1 海外経験の有無	26
図 6-1 満足度	27
図 7-1 今後役に立つと考えられること(複数回答)	28
図 8-1 平日 1 日当たりの平均研究時間	39
図 8-2 コロナ禍の環境変化に伴う研究時間の変化	40
図 9-1 論文数の有無	44
図 9-2 国際共著論文の有無	45
図 10-1 進路予定	46
図 10-2 医師臨床研修後の博士課程進学について	47
図 10-3 就職先の事業内容	49
図 10-4 就職先の事業内容(2009 年調査報告と本調査の比較)	50

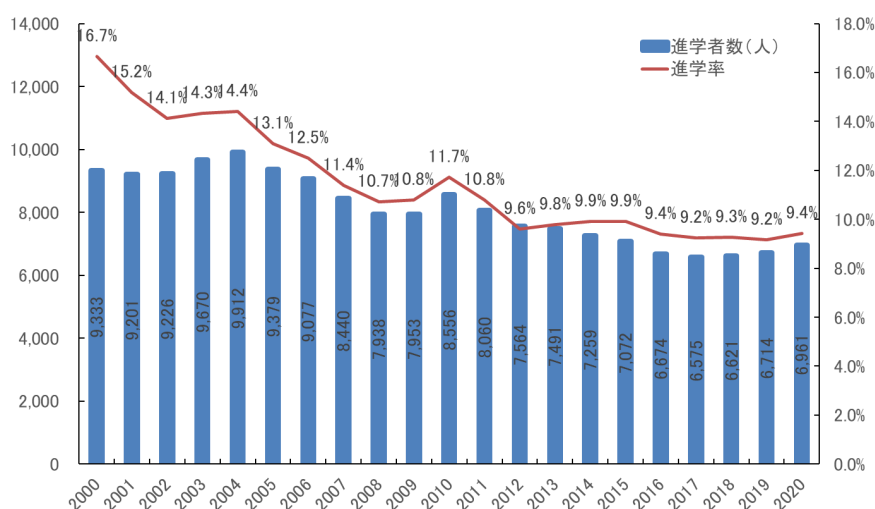
図 10-5 就職先の企業区分	52
図 10-6 就職先を選択する際に重視した(する)事項(複数回答)	54
図 10-7 雇用先の入職経路	55
図 10-8 就職を選んだ理由	56
図 10-9 博士課程への進学検討の有無	57
図 10-10 博士課程への進学理由(複数回答)	58
図 11-1 博士課程進学を検討する条件	59
図 11-2 博士課程進学者を増加させるための重要な政策	60

概 要

概要1. 在籍者を起点とした追跡調査の概要

修士課程修了者の進学率は、2000年度の16.7%以降、減少傾向にあり、2020年度には9.4%となった(概要図表1-1)。このような状況の中で、2021年3月26日に閣議決定された「第6期科学技術・イノベーション基本計画³」では、「優秀な学生が経済的な側面やキャリアパスへの不安、期待にそわない教育研究環境等の理由から、博士後期課程への進学を断念する現況」が指摘され、「優秀な若者が、アカデミア、産業界、行政など様々な分野において活躍できる展望が描ける環境の中、経済的な心配をすることなく、自らの人生を賭けるに値するとして、誇りを持ち博士後期課程に進学し、挑戦に踏み出す」ことが目標として掲げられている。

概要図表 1-1 修士課程修了者の進学率⁴



科学技術・学術政策研究所(NISTEP)は、客観的根拠に立脚した政策策定に貢献することを目的として、2014年から「博士人材追跡調査」を実施してきた。これに加え、本調査は2020年度修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者を対象⁵とし、在籍中における経済的支援状況、進路状況、博士課程に進学しない理由、在籍者の視点から博士課程への進学率を向上させるための政策等について、2020年11月16日から2020年12月28日にかけて悉皆調査を実施した。回収状況は、対象者数125,418名⁶、回答数(有効回答数)16,311名、回答率(有効回答率)13.0%であった。

³ <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf>

⁴ 文部科学省「科学技術・学術分野における人材の育成・確保をめぐる現状と課題」科学技術・学術審議会人材委員会(第91回)令和3年4月28日資料2 https://www.mext.go.jp/content/20210427-mxt_kiban03-000014622_4.pdf

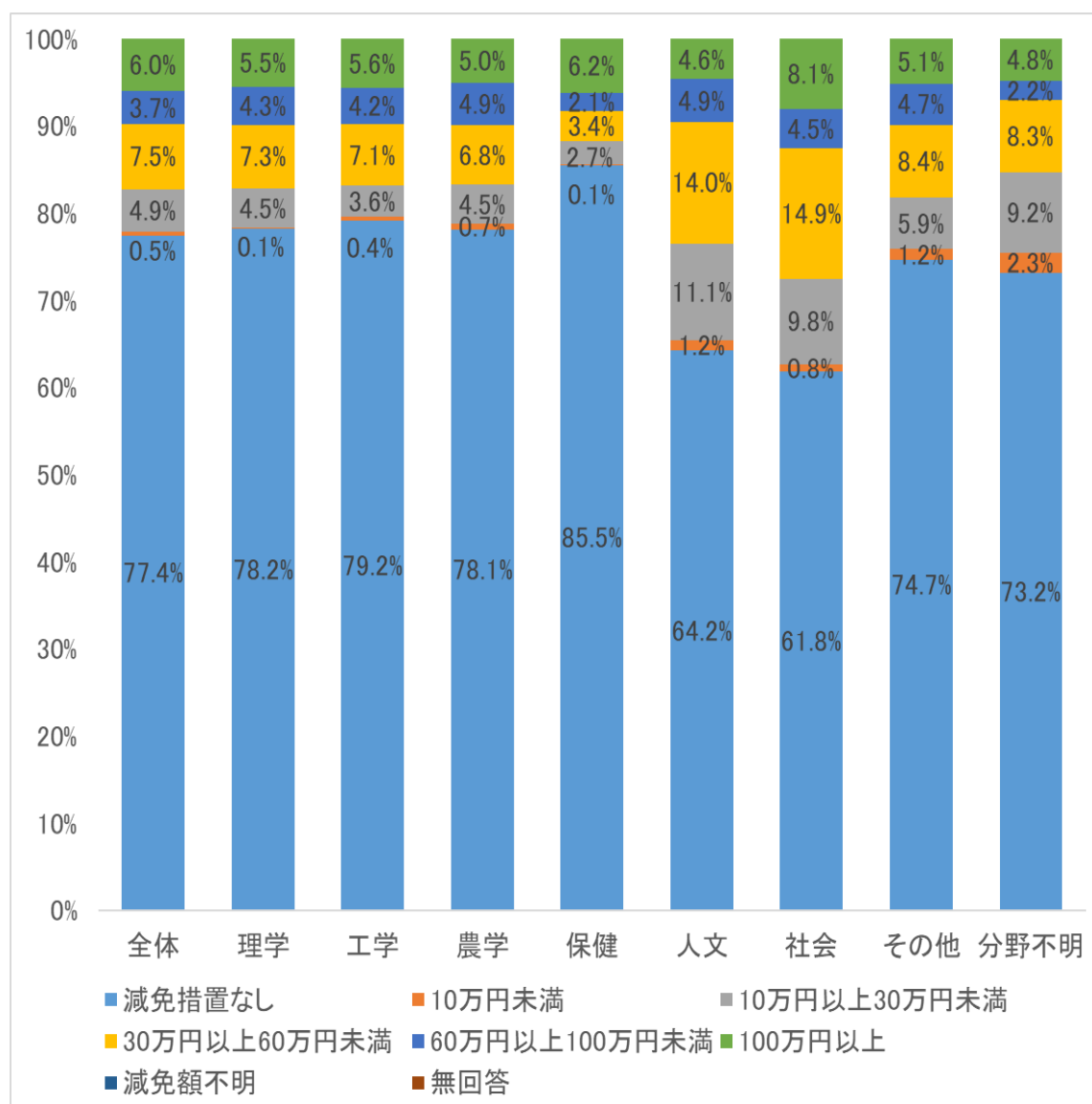
⁵ 以下、概要では、「(6年制学科を含む)」を省略し、「修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者」を「在籍者」する。

⁶ 「学校基本調査」より集計

概要2. 経済的支援(授業料の減免措置)

在籍中の授業料減免措置に関しては、全体で 22.6%が減免措置を受け、うち 30 万円以上から 60 万円未満の減免が 7.5%と最も高かった。分野別にみると、人文・社会科学が、自然科学(理学、工学、農学、保健)に比べて減免措置を受けている割合が高かった(概要図表 1-2)。

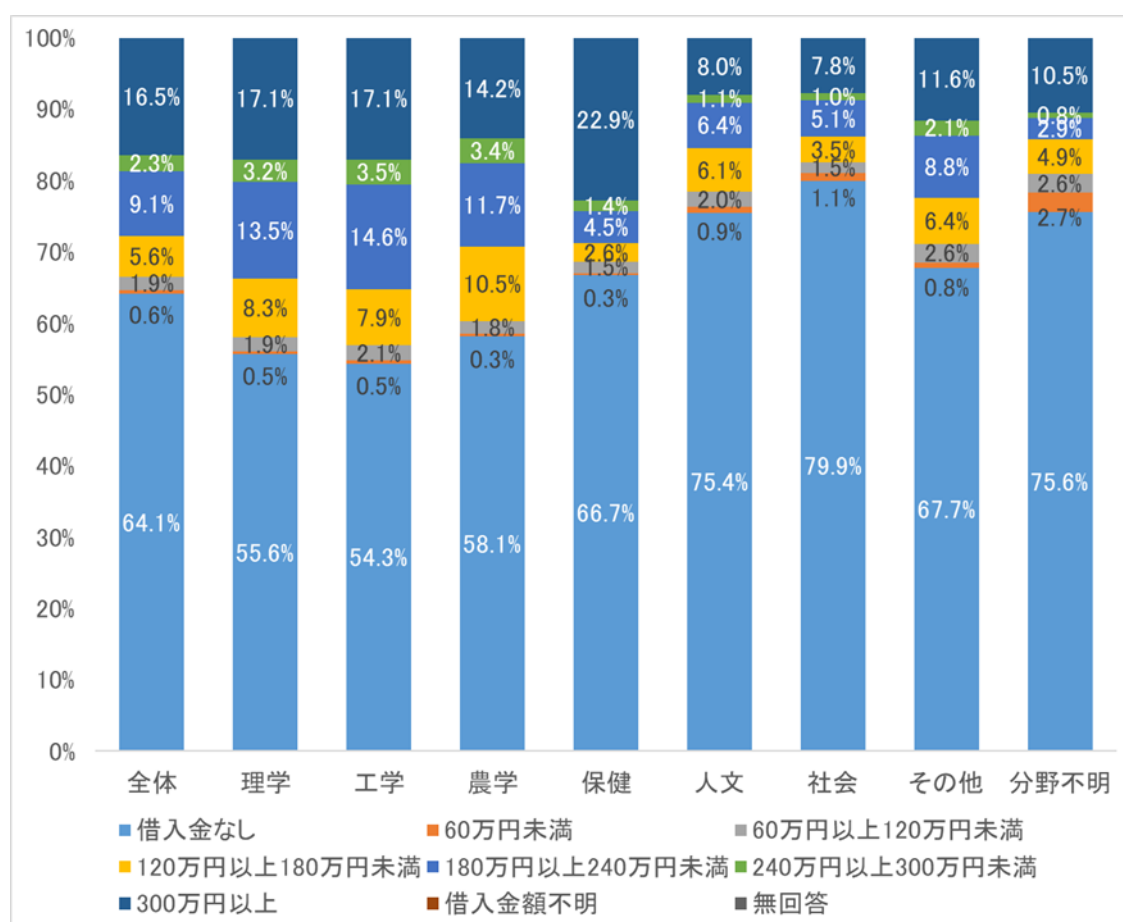
概要図表 1-2 授業料の減免措置



概要3. 経済的支援(借入金)

返済義務のある奨学金・借入金に関しては、借入金有と回答した者は35.9%で、借入金額は300万円以上が16.5%で最も高く、これを分野別にみると、最も高かったのは保健の22.9%、次に理学、工学のそれぞれ17.1%と続いた。人文・社会科学に比べて、自然科学で借入金額300万円以上と回答した者の割合が顕著に高かった(概要図表1-3)。

概要図表 1-3 借入金

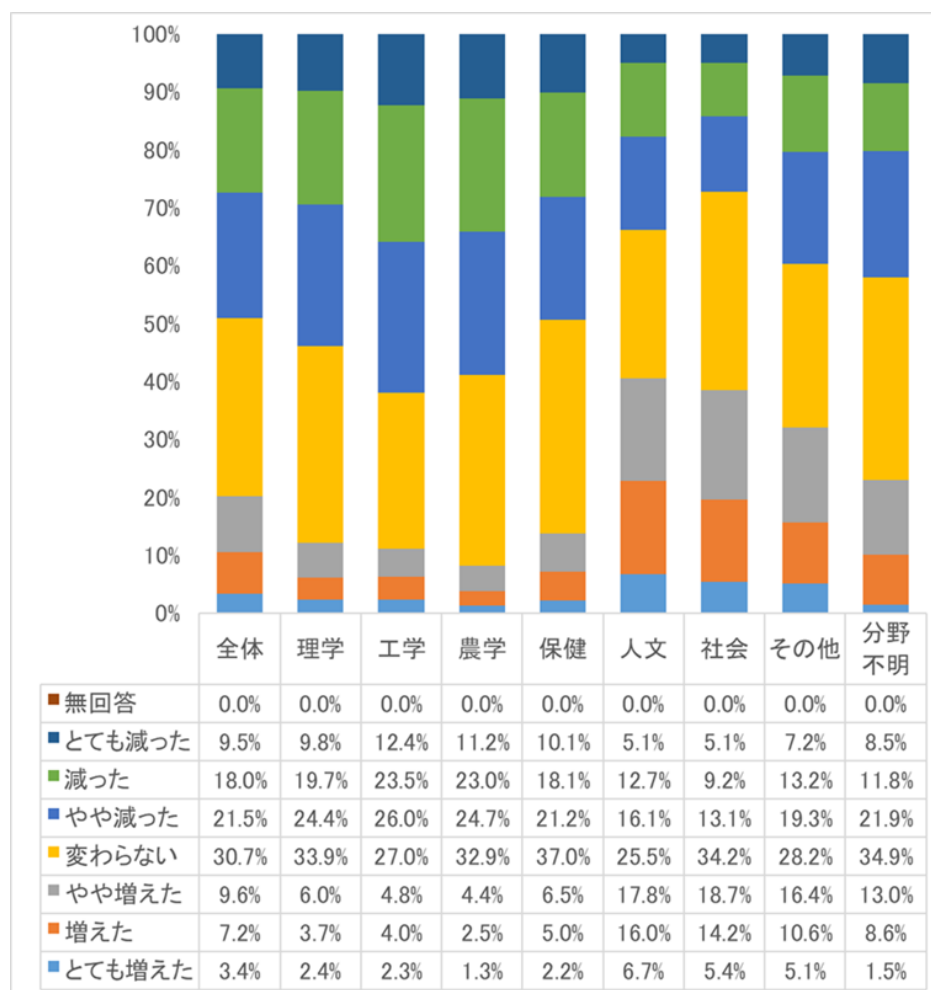


概要4. コロナ禍による環境変化に伴う研究時間の変化

2020年からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延により、我々の生活は一変した。本調査時にもその脅威が継続していた。そこで、コロナ禍による環境変化に伴う研究時間への影響について尋ねたところ、全体では「変わらない」が30.7%で最も高く、次いで「やや減った」が21.5%と続いた。分野別にみると、各分野とも「変わらない」が最も高い点で共通していたが、自然科学(理学、工学、農学、保健)で「やや減った」が次に高く、「減った」がその次に高く、総じて研究時間は減少していたのに対し、人文・社会科学は「やや増えた」が高く、「増えた」と「減った」の割合に大差が付かなかった点で、大きな相違がみられた(概要図表 1-4)。

回答者の自由記述では、コロナ禍による環境変化に伴い、研究効率の低下、研究協力先や現地調査の確保ができなくなったこと、進学・留学の断念、研究対象の変更、研究者との交流ができなくなった等の影響を訴える声があり、研究時間に留まらない研究活動への影響について対応が求められていることがわかった。

概要図表 1-4 コロナ禍による環境変化に伴う研究時間の変化

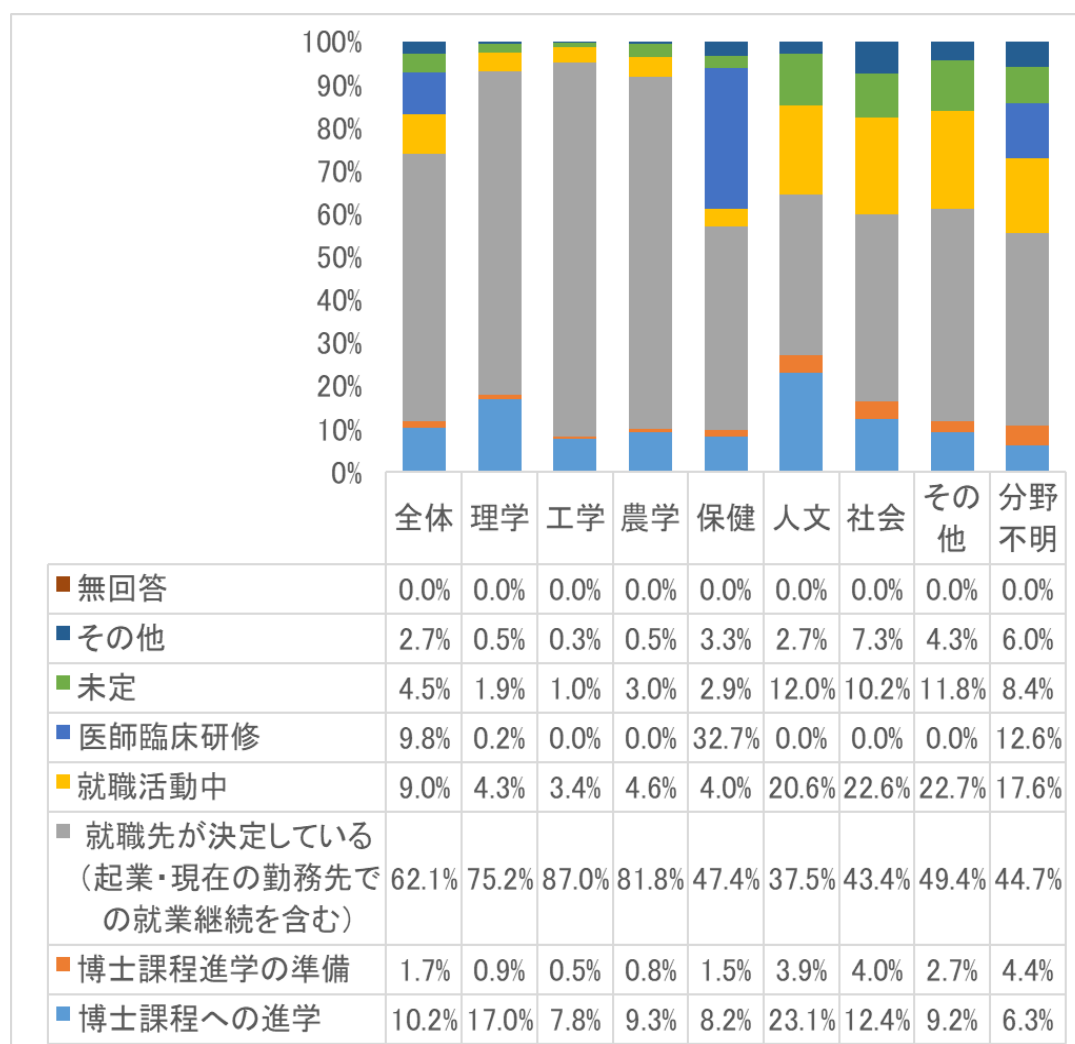


概要5. 進路予定

在籍者に進路予定に尋ねたところ、全体では「就職先が決定している」が62.1%で最も高く、次いで「博士課程への進学」が10.2%と続いた。「就職先が決定している」は、工学が87.0%で最も高く、次いで農学が81.8%であった。「博士課程への進学」は、人文が23.1%で最も高く、次いで理学17.0%であった(概要図表1-5)。

「日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査(2009年3月)」(以下、「2009年調査報告」とする。)では、博士課程への進学者は12.8%となっていた。分野別で見ると、理学は工学と比較して進学率が高い傾向があったが、12年後の現在においてもその傾向に変化はなかった⁷。

概要図表 1-5 進路予定

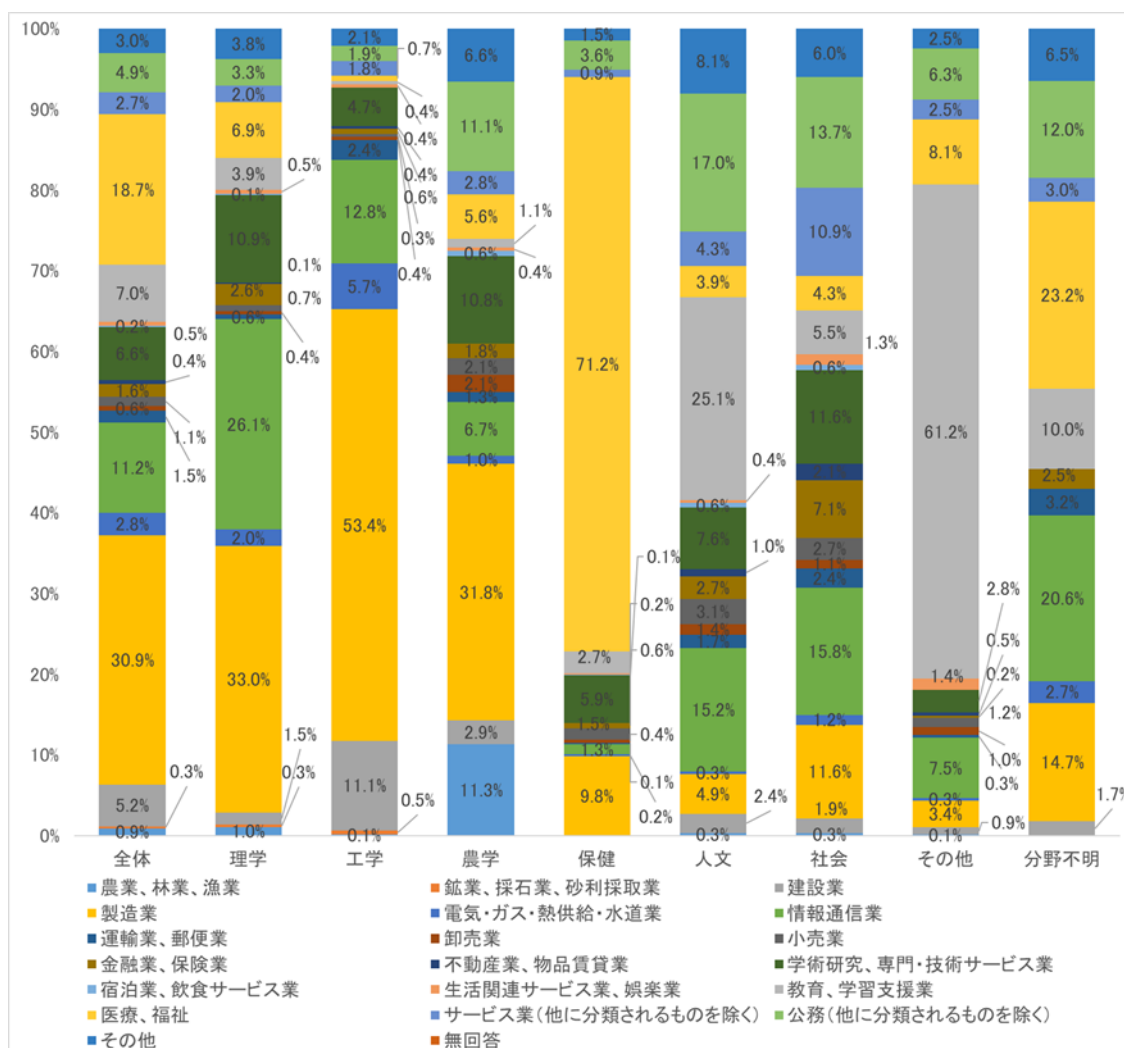


⁷ 文部科学省 科学技術政策研究所「日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査」 調査資料 No.165 2009年3月

概要6. 就職先の事業内容

「就職先が決定している」と回答した者に、就職先の事業内容を尋ねたところ、全体では製造業が30.9%で最も高く、次いで医療、福祉18.7%、情報通信業11.2%と続いた。分野別では、理学、工学、農学は製造業、保健は医療、福祉、人文は教育、学習支援業、社会は情報通信業を就職先とする割合が、それぞれ最も高かった(概要図表 1-6)。

概要図表 1-6 就職先の事業内容

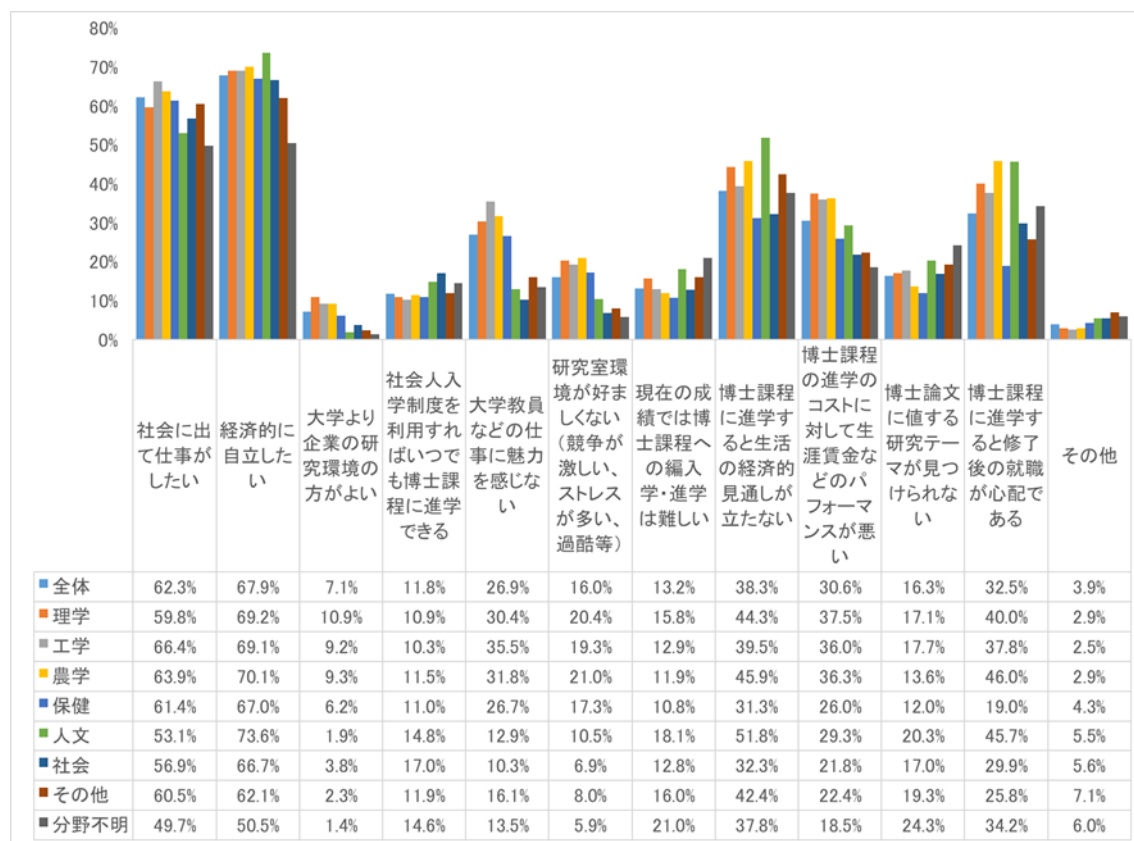


概要7. 博士課程進学ではなく就職を選択した理由

「就職先が決定している」または「就職活動中」と回答した者に、博士課程への進学ではなく、就職を選択した理由について複数回答可で尋ねたところ、全体では、主な理由として「経済的に自立したい」(67.9%)と「社会に出て仕事がしたい」(62.3%)であった。また、これらに続いて、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」(38.3%)、「博士課程に進学すると修了後の就職が心配である」(32.5%)、「博士課程の進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪い」(30.6%)であった(概要図表 1-7)。

2009 年調査報告においても、就職を選択した主な理由は、「経済的な理由や就職志望等(経済的に自立したい)」、「博士課程に進学すると修了後の就職が心配である」、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」で、12 年後の現在も就職を選択した理由に変化はなかった⁸。

概要図表 1-7 就職を選択した理由



⁸ 前掲 6

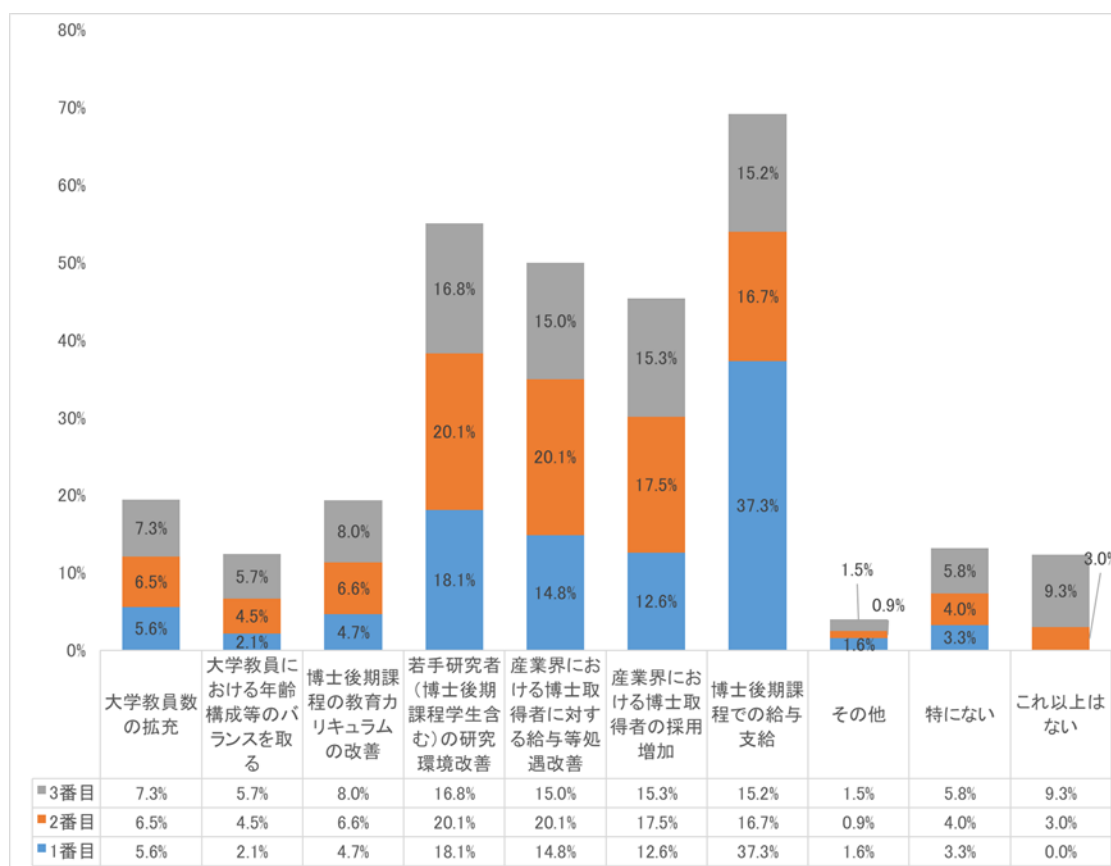
概要8. 在籍者の観点から博士課程進学者を増加できる最も効果的な政策

在籍者の観点から博士課程進学者を増加できる一番効果的な政策を尋ねると、回答率の高い順に「博士課程での給与支給」、「若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善」、「産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善」、「産業界における博士取得者の採用増加」であった(概要図表 1-8)。

内閣府が公表した「博士入社社員を対象としたアンケート集計結果」⁹における同じ質問の結果では、「博士後期課程での給与支給」「産業界での給与改善」が効果的との意見が多数を占めた。

本調査、内閣府公表資料とも、博士課程進学者を増加できる効果的な政策としては、博士課程での給与支給や就職後の給与改善が求められていることがわかった。

概要図表 1-8 博士課程進学者を増加できる効果的な政策



⁹ 日本電信電話株式会社(NTT)、富士通株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングス「博士入社社員を対象とした集計結果」<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20200806/siry3.pdf>

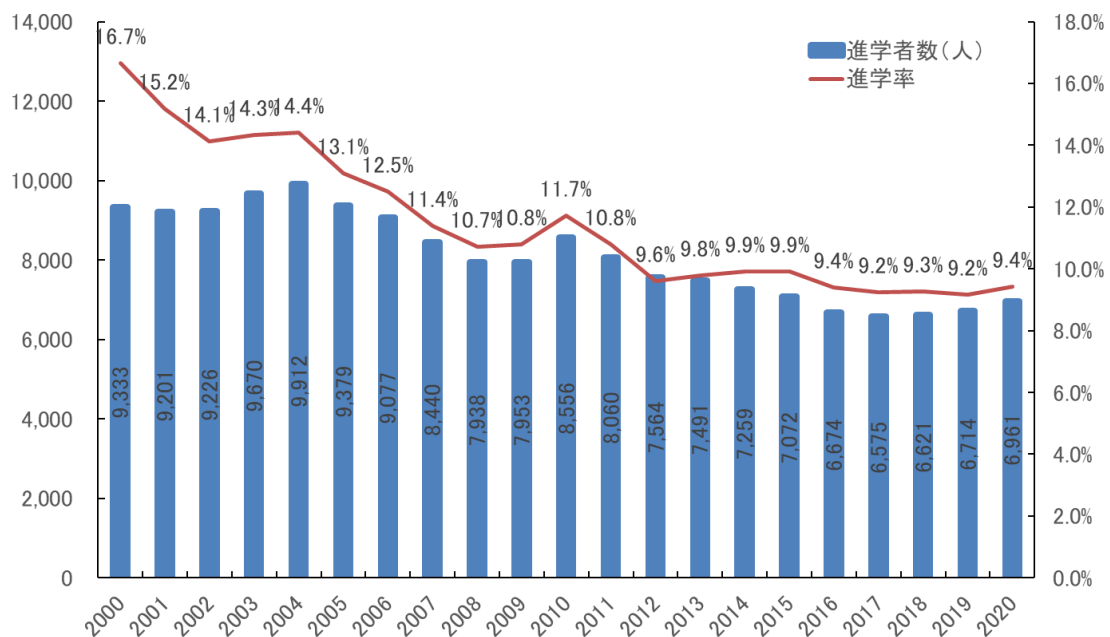
本編

1. 調査の目的と概要

1-1 調査の目的

我が国における修士課程修了者の進学率は、2000年度の16.7%以降、減少傾向にあり、2020年度には9.4%まで低下した(図1-1)。2021年3月26日に閣議決定された「第6期科学技術・イノベーション基本計画¹⁰」では、「優秀な学生が経済的な側面やキャリアパスへの不安、期待にそわない教育研究環境等の理由から、博士後期課程への進学を断念する現況」が指摘され、「優秀な若者が、アカデミア、産業界、行政など様々な分野において活躍できる展望が描ける環境の中、経済的な心配をすることなく、自らの人生を賭けるに値するとして、誇りを持ち博士後期課程に進学し、挑戦に踏み出す」ことが目標として掲げられている。

図 1-1 修士課程修了者の進学率



(出典) 文部科学省 文部科学省「科学技術・学術分野における人材の育成・確保をめぐる現状と課題」科学技術・学術審議会人材委員会(第91回)令和3年4月28日資料²¹

科学技術・学術政策研究所(NISTEP)は、客観的根拠に立脚した政策策定に貢献することを目的として、2014年から「博士人材追跡調査」を概ね3年毎に実施してきたが、これに加え、本調査

¹⁰ <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf>

¹¹ https://www.mext.go.jp/content/20210427-mxt_kiban03-000014622_4.pdf

は2020年度に修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者¹²の全員に対する調査(悉皆調査)として、在籍中における経済的支援状況、進路状況、博士課程に進学しない理由、在籍者の視点から博士課程への進学率を向上させるための政策等に関するアンケートを実施した。

1-2 調査概要

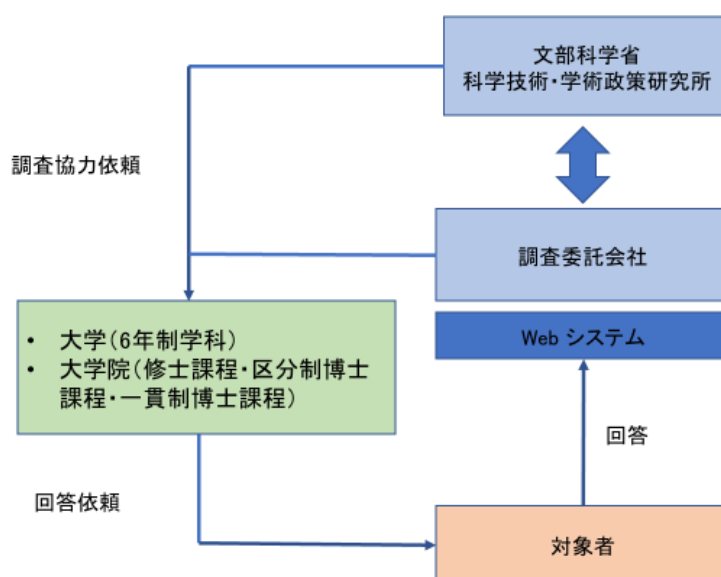
1) 調査対象者

令和2年度(2020年度)に修士課程(6年制学科を含む)を修了(卒業)した者及び修了(卒業)予定の者¹³

2) 調査方法

本調査は、対象者個人の連絡先を把握できていない為、大学経由で、対象者にメール等により、回答用のWebシステムのURLを知らせた。対象者は回答用Webサイトにアクセスすることによって、回答した。各大学から、回答依頼数及びその方法について、報告を受けた(図1-2)。

図 1-2 調査方法



¹² 以下、本文では、1-2 調査概要 1) 調査対象者を除き、「(6年制学科を含む)」を省略し、「修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者」を「在籍者」する。

¹³ 以下、「(6年制学科を含む)」を省略し、「修了(卒業)した者及び修了(卒業)予定の者」を「在籍者」する。

調査期間

2020 年 11 月 16 日～2020 年 12 月 28 日

調査内容

経済支援状況、満足度、インターンシップの状況、進路状況、博士課程に進学しない理由、在籍者の視点から博士課程への進学率を向上させるための政策等

調査業務支援

(株) インテージリサーチ 公共サービス事業部 ソーシャル事業推進部

回収状況

対象者数 125,418 名 (学校基本調査)

回答数 16,311 名、有効回答数 16,311 名 (回答率:13.0%、有効回答率 13.0%)

分野別には、以下のとおりである(表 1-1)。

表 1-1 分野別対象者数、回答者数、回答率(有効回答率)

研究分野	対象者数		回答者数		回答率(有効回答率)	
	修士課程	6年制学科	修士課程	6年制学科	修士課程	6年制学科
理学	10,074		3,165	178	31.4%	
工学	33,619		4,670	14	13.9%	
農学	4,481	1,032	727	78	16.2%	7.6%
保健	12,308	24,119	1,194	1,631	9.7%	6.8%
人文	7,292		874	2	12.0%	
社会	16,528		1,945	6	11.8%	
その他	15,965		1,695	6	10.6%	
分野不明	0		105	21		
無回答	0		0	0		
合計	100,267	25,151	14,375	1,936	14.3%	7.7%

注) 対象者の研究分野は「学校基本調査」、回答者の研究分野は自己申告による。

調査協力は回答者個人の意思によるものであるため、回答バイアスが存在している可能性がある。そこでできる限りこのバイアスを排除するためのキャリブレーションウェイトを構築し¹⁴、これを用いた集計分析を行った。

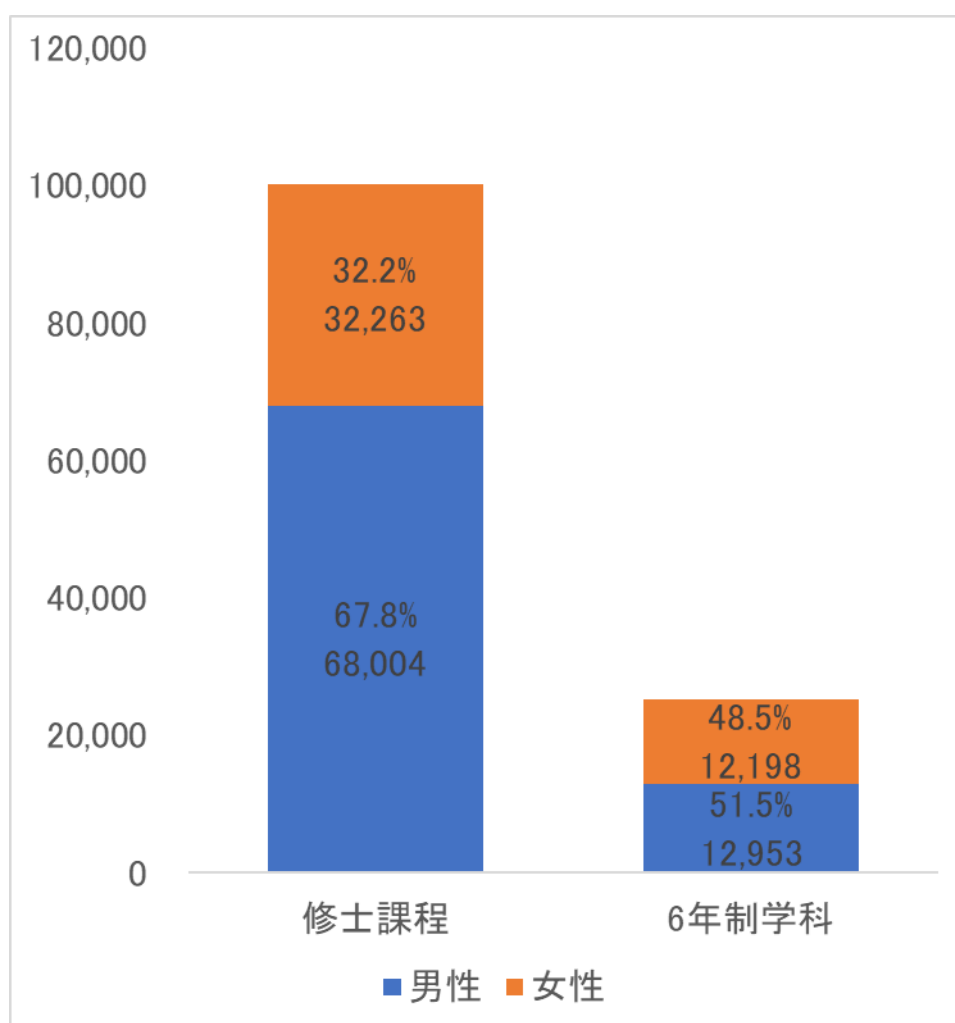
¹⁴ キャリブレーションウェイトは横浜市立大学データサイエンス学部の土屋隆裕教授により構築。

本調査の対象者について

令和2年度学校基本調査によると、2020年度修士課程¹⁵の2年次在籍者、6年制学科の6年次在籍者(うち女性の人数と割合)は、それぞれ100,267名(32,263名、32.2%)、25,151名、(12,198名、48.5%)であった(図1-3)。

分野別修士課程2年次在籍者は、工学が33,619名(4,589名、13.7%)で最も多く、次いで社会が16,528名(6,319名、38.2%)であった。分野別6年制学科6年次在籍者数は、医学が24,119名(11,653名、48.3%)、農学が1,032名(545名、52.8%)であった(図1-4)。

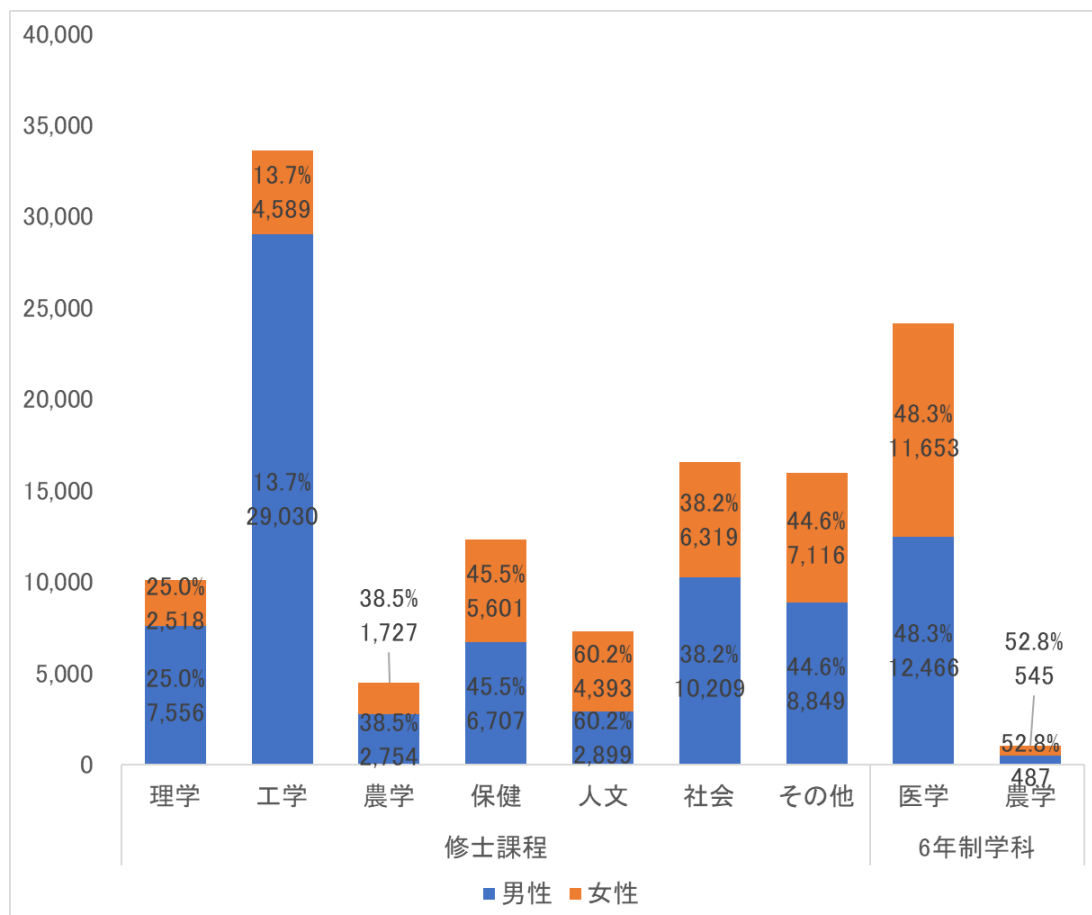
図 1-3 2020 年度修士課程の 2 年次在籍者数及び 6 年制学科の 6 年次在籍者数



出典) 学校基本調査

¹⁵ 修士、博士前期、一貫前期、修士夜間、博士前期夜間、専門職学位、専門職学位夜間、専門職学位(法科大学院)、専門職学位夜間(法科大学院)、専門職学位(教職大学院)、専門職学位夜間(教職大学院)の合計

図 1-4 分野別 2020 年度修士課程の 2 年次在籍者数及び 6 年制学科の 6 年次在籍者数



出典) 学校基本調査

主要な結果

2. 修士課程について

2-1 修士課程進学理由

修士課程に進学した理由を見ると、全体としては「自分自身の能力や技能を高めることに興味があった」との回答率が 56.3%で最も高かった。

分野別に詳細を見ると次のような結果が得られた(図 2-1)。

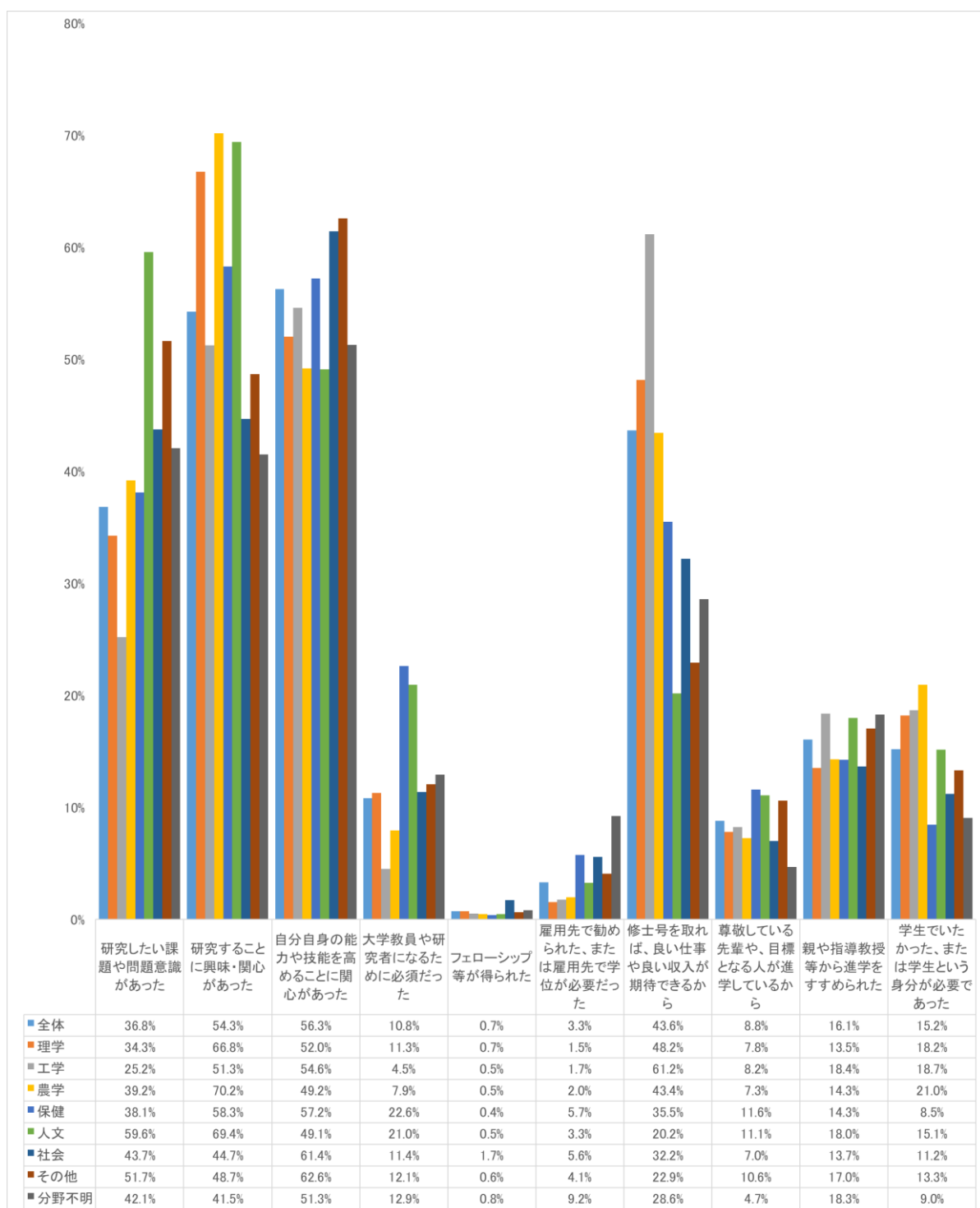
理学、農学、保健の各分野の修士課程への進学理由としては、最も高かったのが「研究することに興味・関心があった」との回答で、それぞれ 66.8%、70.2%、58.3%、次に高かったのが「自分自身の能力や技能を高めることに興味・関心があった」との回答で、それぞれ 52.0%、49.2%、57.2%であった。理学、農学、保健の各分野では、研究そのものへの興味が強く意識されているものと考えられる。ただし、保健分野は第一位と第二位の差が小さく、研究そのものへの興味に加え、自身の能力向上についても意識されているものと考えられる。

人文分野への修士課程への進学理由としては、最も高かったのが「研究することに興味・関心があった」との回答で 69.4%、次に高かったのが「研究したい課題や問題意識があった」との回答で 59.6%であった。人文分野では、研究そのものへの興味と研究課題への問題意識の強さがあると考えられる。

社会分野の修士課程への進学理由としては、最も高かったのが「自分自身の能力や技能を高めることに興味・関心があった」との回答で 61.4%、次に高かったのが「研究することに興味・関心があった」との回答で 44.7%であった。社会分野では、自身の能力向上が強く意識されているものと考えられる。

工学分野の修士課程への進学理由としては、最も高かったのが「修士号を取れば、良い仕事やよい収入が期待できるから」という回答で 61.2%、次に高かったのが「自分自身の能力や技能を高めることに興味・関心があった」との回答で 54.6%であった。工学分野では修士修了後の処遇や自身の能力向上が強く意識されているものと考えられる。

図 2-1 修士課程進学理由(複数回答)

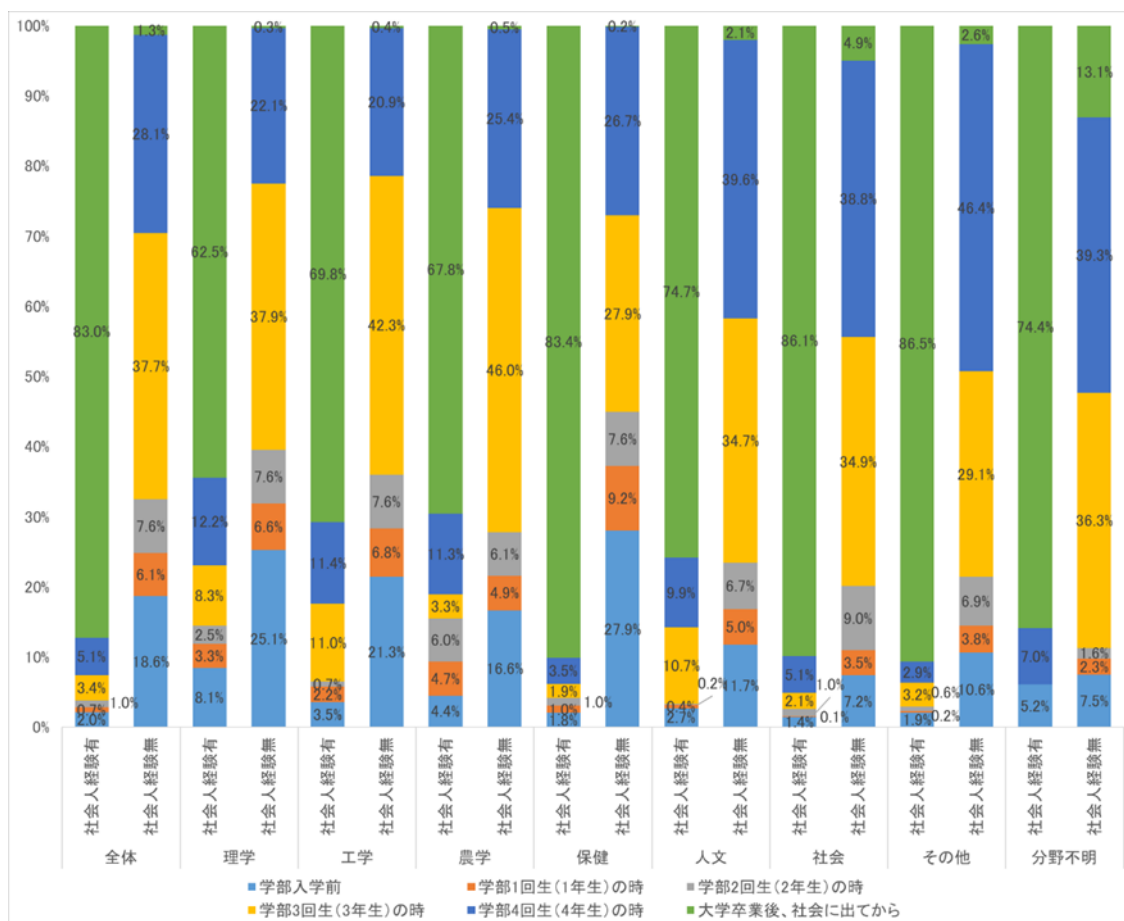


2-2 修士課程に進学を決めた時期

修士課程に進学を決めた時期は、社会人経験がない者は、自然科学(理学、工学、農学、保健の各分野)は、学部3年次とする回答率が高く、それぞれ37.9%、42.3%、46.0%、27.9%であった。人文、社会の各分野においては、大学4年次とする回答率が高く、それぞれ39.6%、38.8%であった(図2-2)。なお、保健分野は、学部1年次とする回答率が27.9%と他分野より高かったが、これは6年制学科が含まれているためと考えられる。

人文・社会科学は、自然科学に比較して、修士課程進学を決めた時期が遅い傾向にあった。社会人経験がある者は、全ての分野で「大学卒業後、社会に出てから」との回答率が最も高く、全体では83.0%となった。

図 2-2 修士課程進学を決めた時期

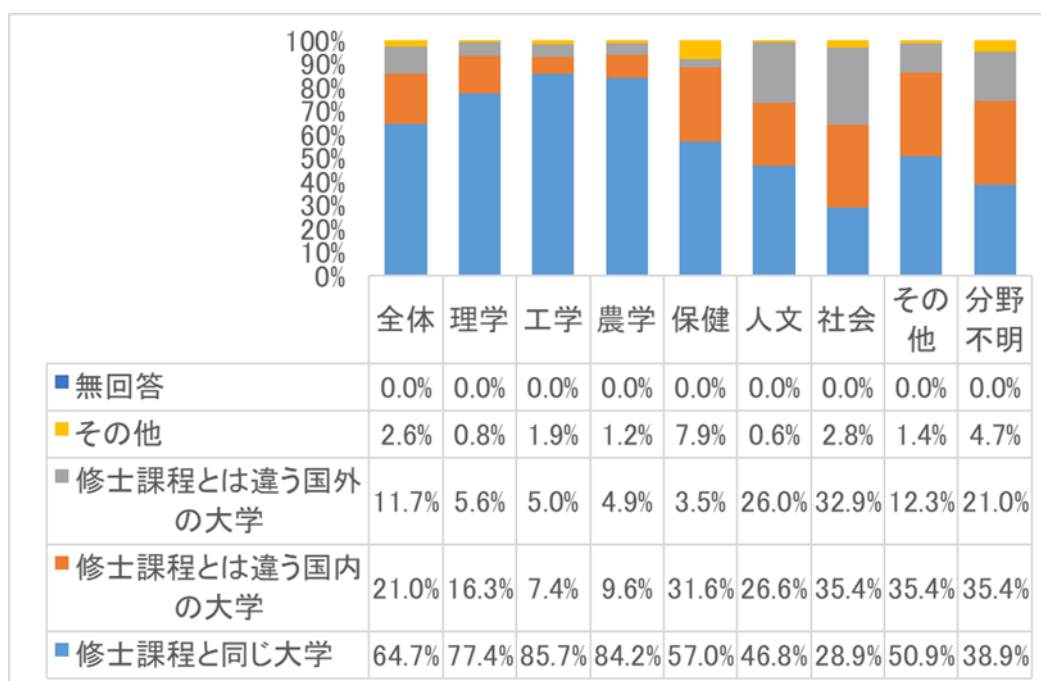


2-3 自校出身率について

自校出身率を見てみると、全体では修士課程と同じ大学と回答した者が 64.7%で最も高かった。分野別にみると、理学、工学、農学は修士課程と同じ大学と回答した者が、それぞれ 77.4%、85.7%、84.3%と 8 割前後が自校出身であった。保健、人文はそれぞれ 57.0%、46.8%と 5 割前後であった。自校出身率が最も低いのは社会で、修士課程と同じ大学の者は、28.9%と 3 割に満たなかった。また、人文、社会は、国外の大学の出身が、それぞれ 26.0%、32.9%と他の分野よりも顕著に高く、国内の違う大学出身者が、それぞれ 26.6%、35.4%であったのと大差がなかった(図 2-3)。

特色をまとめると、自然科学(理学、工学、農学、保健)は自校出身率が高い傾向が見られ、人文・社会科学は自校出身率が低い傾向が見られ、他大学出身者のうち半数近くが国外の大学出身者であった。

図 2-3 自校出身率



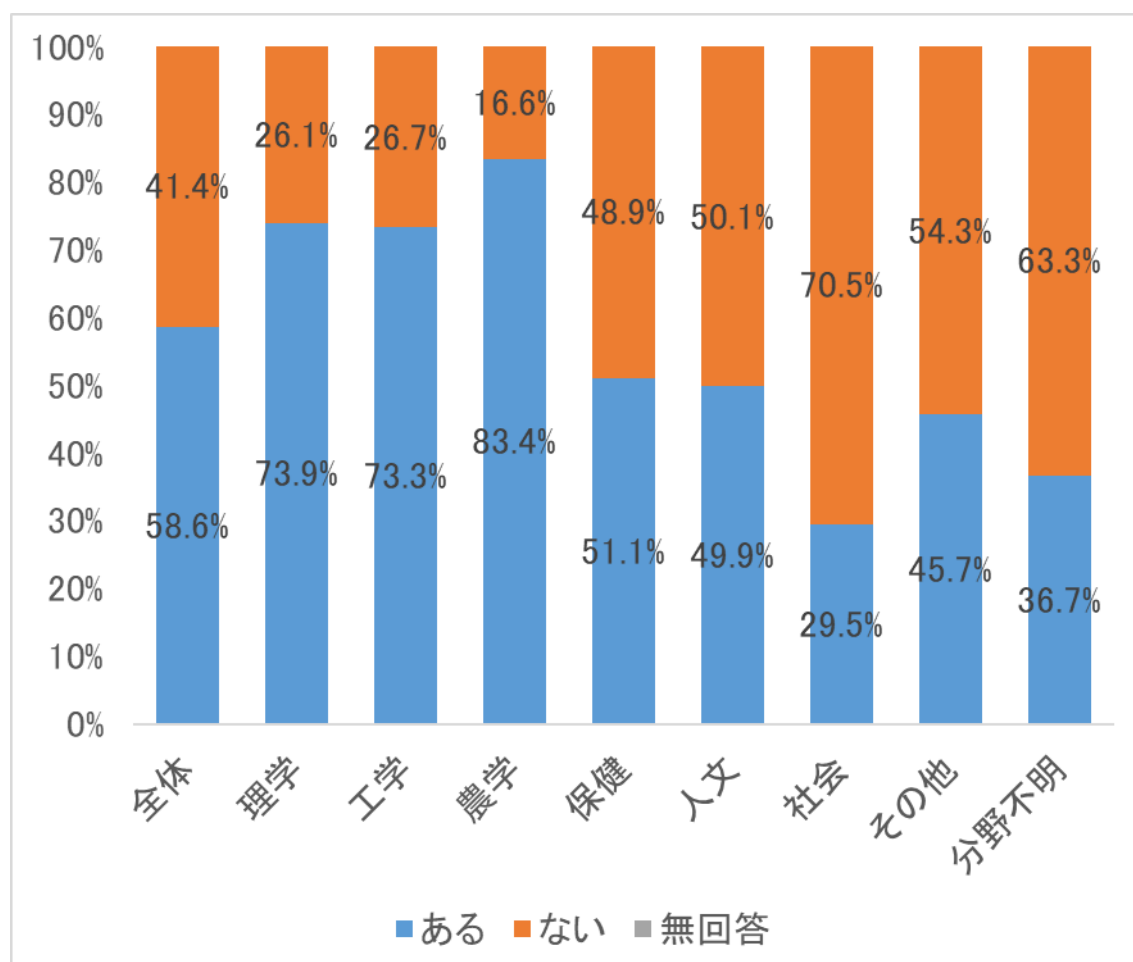
3. 経済的支援

3-1 ティーチングアシスタント

ティーチングアシスタント(TA)は、「優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対するチュータリング(助言)や実験、演習等の教育補助業務を行わせ、大学教育の充実と大学院学生のトレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当の支給により、大学院学生の処遇の改善の一助とすることを目的とした制度」である¹⁶。

修士課程における TA の経験を分野別に見てみると、自然科学(理学、工学、農学、保健)の各分野はそれぞれ 73.9%、73.3%、83.4%、51.1%と過半数を超え、とりわけ保健を除く自然科学 3 分野(理学、工学、農学)は 7 割を上回る高さであったが、人文、社会はそれぞれ 49.9%、29.5%と過半数を下回った(図 3-1)。

図 3-1 ティーチングアシスタント(TA)の経験

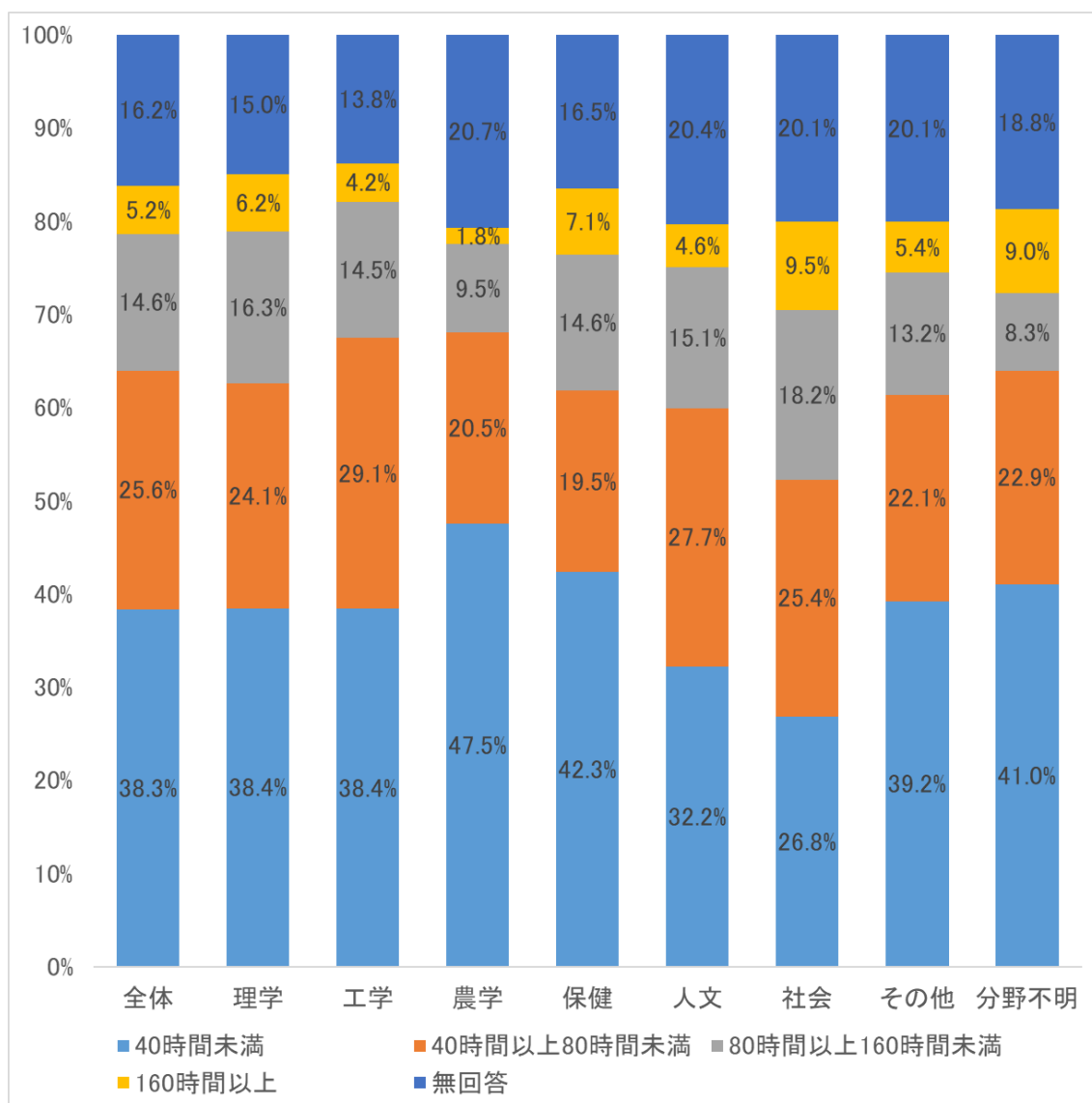


16

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/07011713/001/002.htm

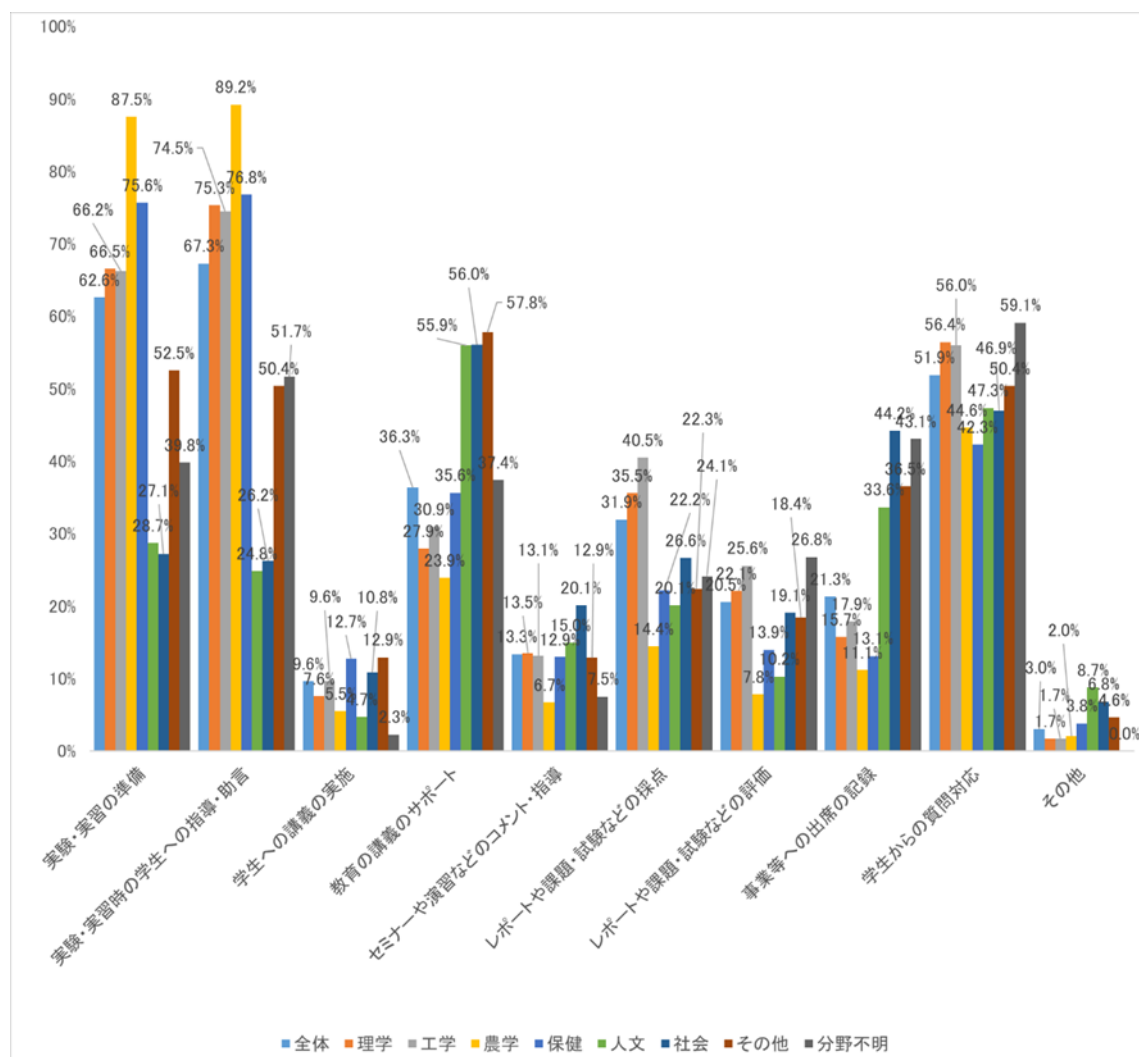
TA 経験が「ある」と回答した者に、1年間の従事時間を尋ねると、全体では 40 時間未満が 38.3%と最も高く、次いで 40 時間以上 80 時間未満が 25.6%であった。分野別で見ても全ての分野で 40 時間未満が最も高く、次いで 40 時間以上 80 時間未満であった(図 3-2)。

図 3-2 ティーチングアシスタント(TA)としての1年間の従事時間



TAの職務内容としては、全体では「実験・実習時の学生への指導・助言」が67.3%で最も高く、次いで「実験・実習の準備」が62.6%、「学生からの質問対応」が51.9%と続いた。分野別でみると理学、工学、農学、保健においては、「実験・実習時の学生への指導・助言」が最も高く、人文、社会、その他においては、「教育の講義のサポート」が高かった(図3-3)。

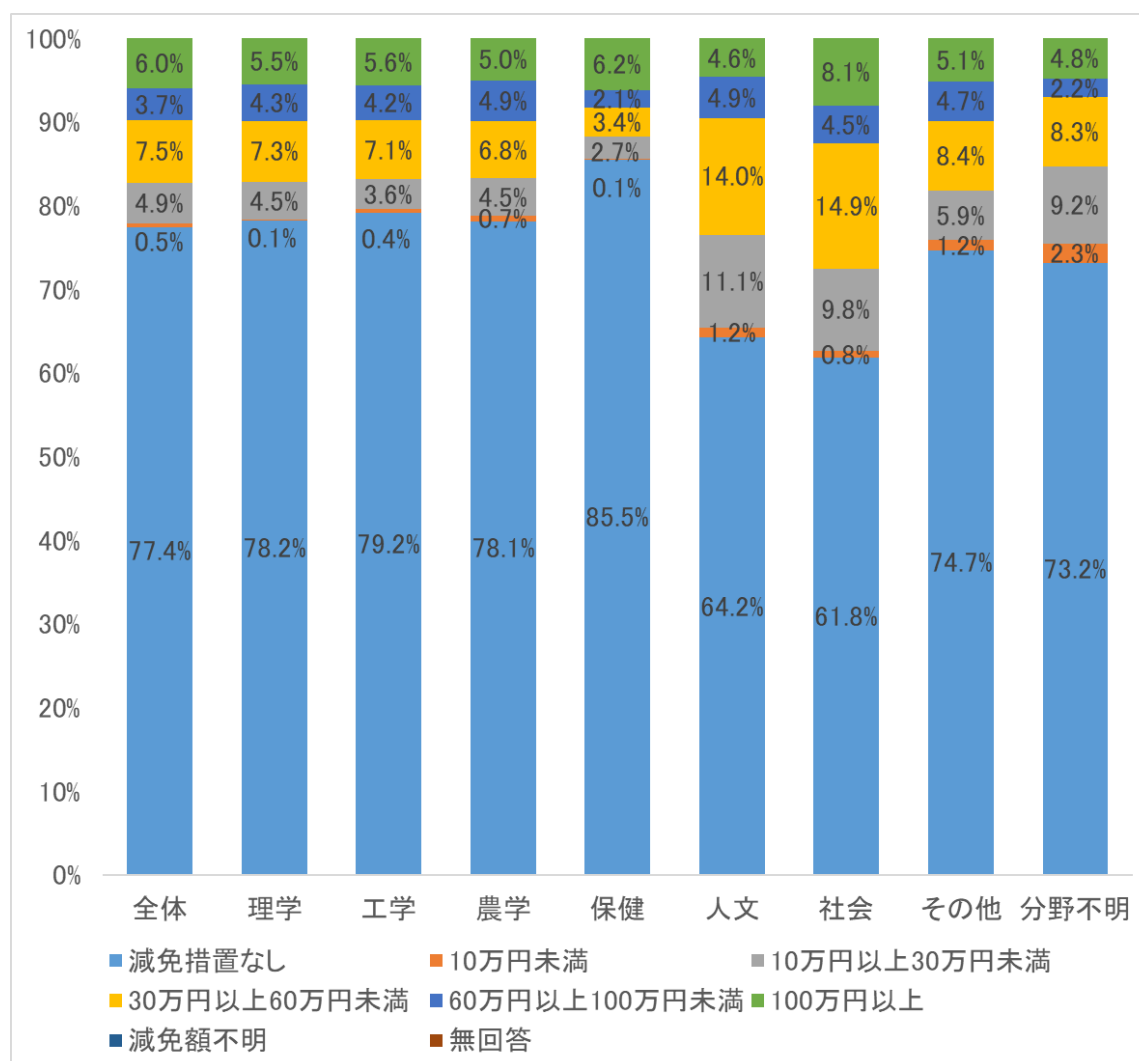
図 3-3 ティーチングアシスタント(TA)の職務内容



3-2 授業料減免措置

授業料の減免措置について尋ねたところ、全体では 22.6%が減免措置を受けていた。分野別にみると、自然科学(理学、工学、農学、保健)で減免措置を受けていない者が 8 割程度と圧倒的多数であったのに対し、人文、社会では、減免措置を受けている者が 4 割近くとなっていた(図 3-4)。

図 3-4 授業料の減免措置

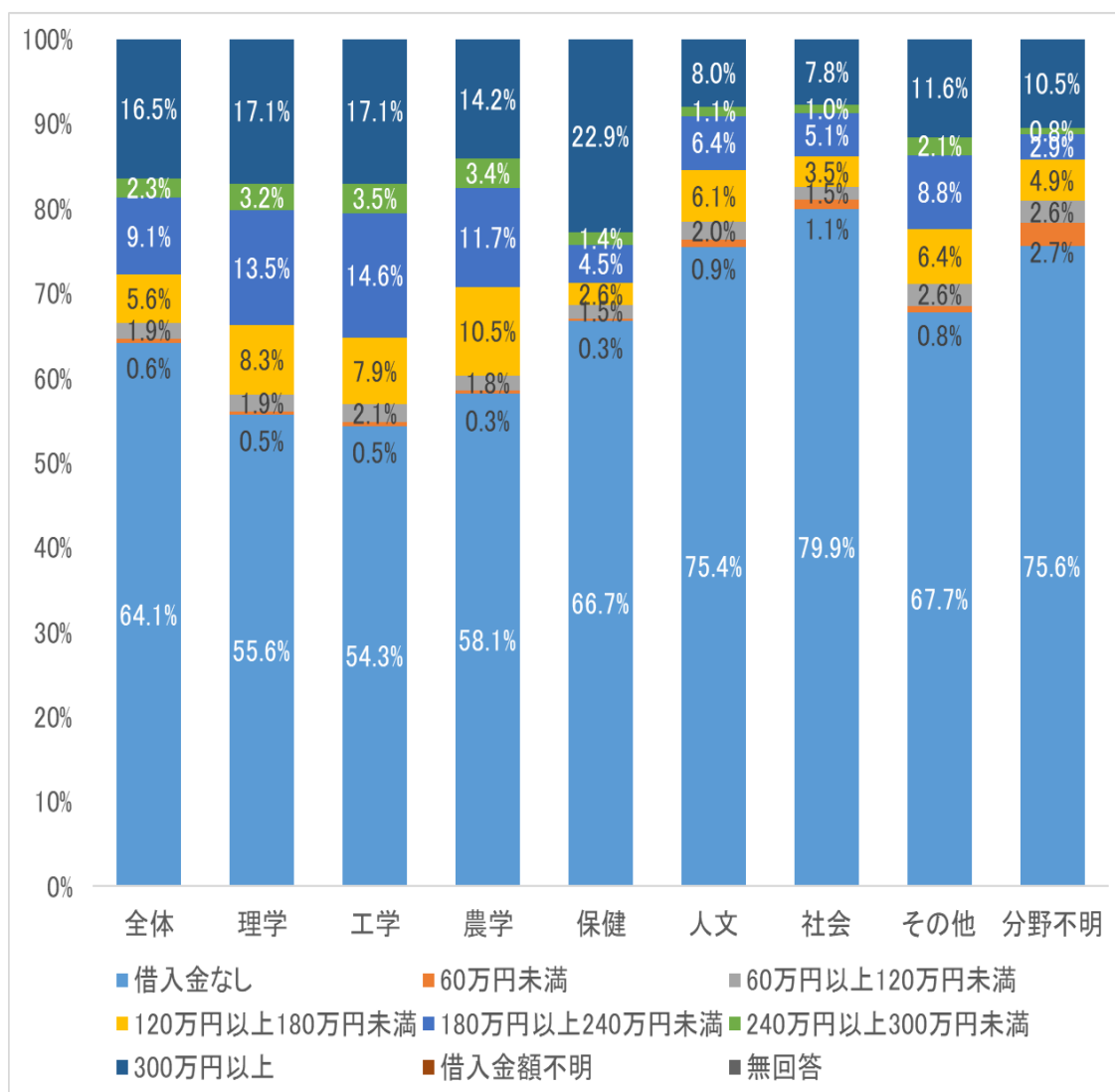


3-3 借入金

返済業務のある奨学金、借入金について尋ねると、全体では 64.1%が借入金無であった。また借入金有の者の借入金額は 300 万円以上が 16.5%と、借入金有の者の半数近くを占めた。分野別にみると、借入金が 300 万円以上と回答した者の割合が最も高かった分野は保健で 22.9%、次に理学と工学の 17.1%、そして農学の 14.2%であった。また、人文、社会で 240 万円以上の借入金がある者は 1 割に満たなかったのに対し、自然科学では 240 万円以上の借入金がある者の割合が 2 割近くになっていた(図 3-5)。

3-2 の授業料減免措置と合わせて考察すると、自然科学は減免を受けにくく、借入金が高額となる状況がみられた。

図 3-5 借入金



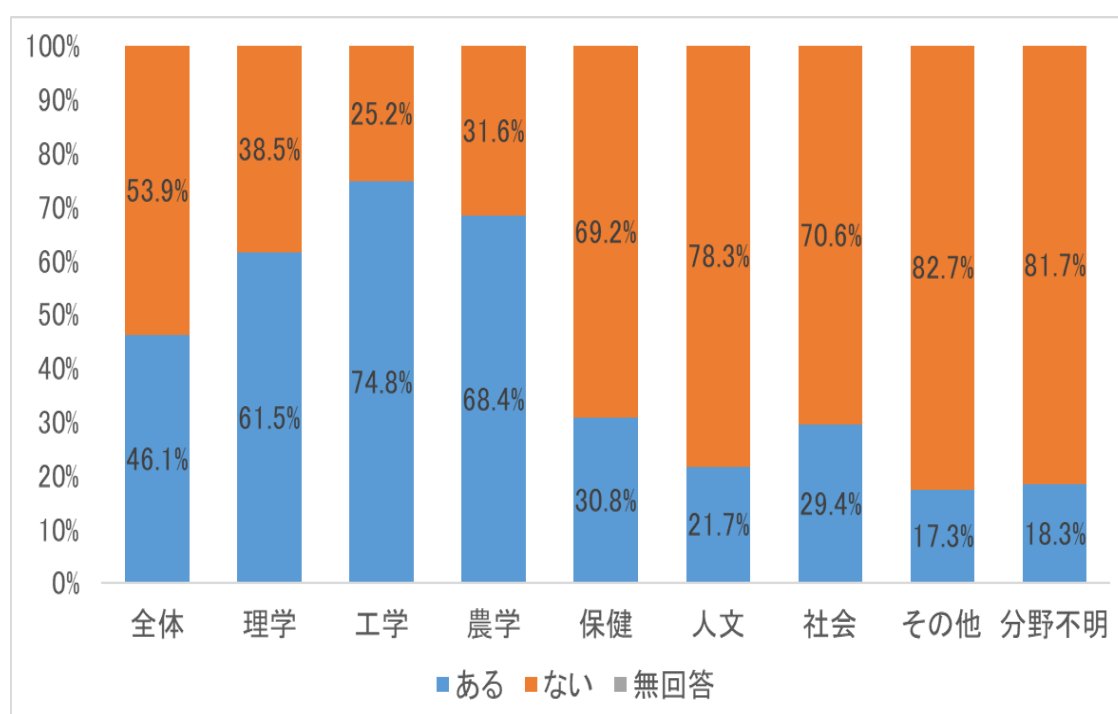
4. インターンシップ

インターンシップの経験について尋ねると、全体としては経験があると回答した者は、46.1%となっていた。分野別にみると、理学、工学、農学は、それぞれ61.5%、74.8%、68.4%と6割以上となっており、人文、社会は、それぞれ21.7%、29.4%となっていた(図4-1)。

理学、工学、農学に比べて、人文、社会は、インターンシップ経験の割合が低い傾向がみられた。

なお、保健については、6年制学科等で長期の臨床実習や実務実習があるため、カリキュラムの一環としてインターンシップと同様の社会経験を得る機会があることを考慮し、比較は行わなかった。

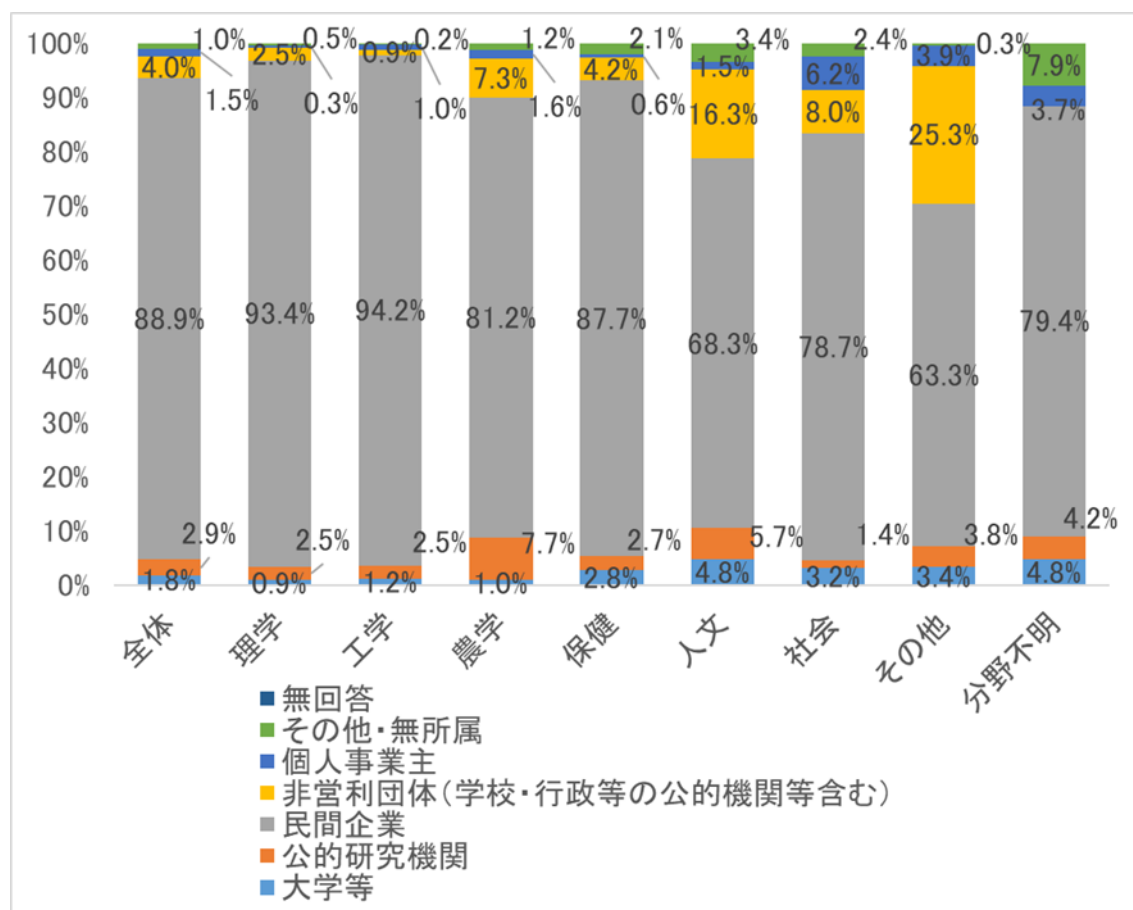
図 4-1 インターンシップの経験



4-1 インターンシップ先の機関

インターンシップの経験があると回答した者に、インターンシップ先の機関を尋ねたところ、民間企業が大半を占めた(図 4-2)。

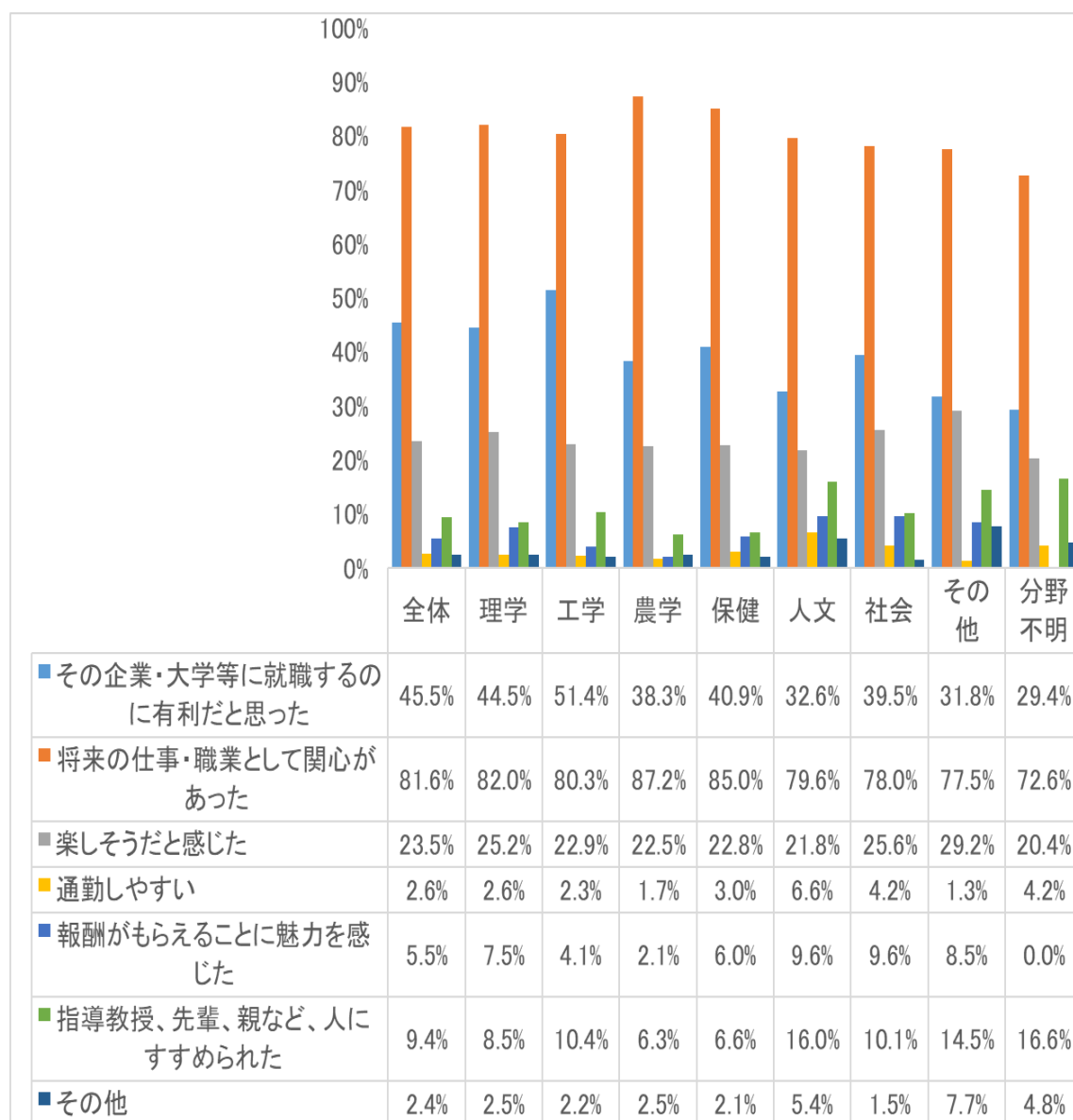
図 4-2 インターンシップ先の機関



4-2 インターンシップ先の選択理由

インターンシップの経験があると回答した者に、インターンシップ先を決めた理由を尋ねたところ、8割前後が「将来の仕事・職業として関心があった」を選択し、次いで3～4割が「その企業・大学等に就職するのに有利だと思った」、さらに2割台が「楽しそうだと感じた」が続いた(図4-3)。

図 4-3 インターンシップ先の選択理由(複数回答)

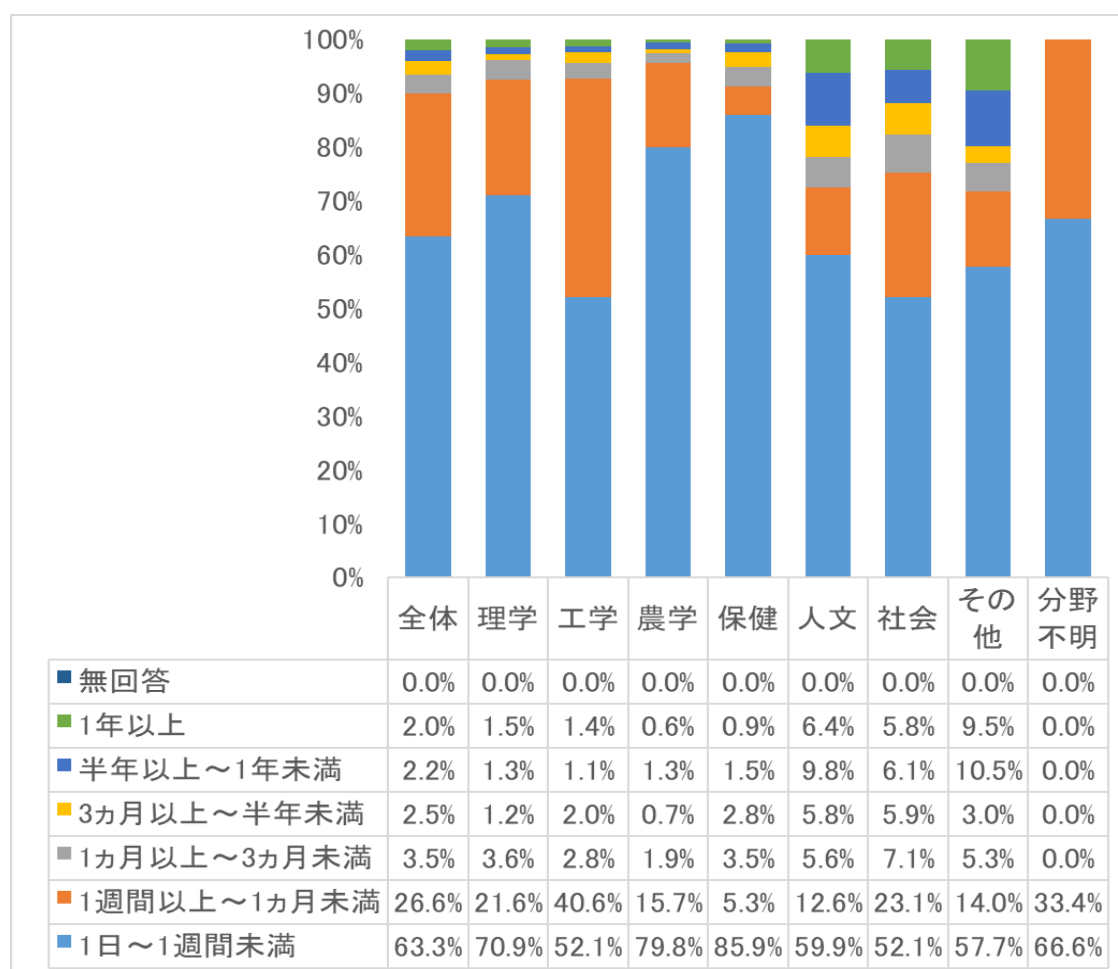


4-3 インターンシップの期間

インターンシップの期間に関して、全体では「1 日～1 週間未満」が 63.3%最も高く、次いで「1 週間以上～1 ヶ月未満」が 26.6%で、両回答で約 9 割となった。インターンシップの期間を分野別にみると、理学、農学、保健は、「1 日～1 週間未満」がそれぞれ 70.9%、79.8%、85.9%と特に高かった。工学も「1 日～1 週間未満」が 52.1%と最も高かったが「1週間以上～1 ヶ月未満」も 40.6%で他の分野に比べて高かった。また、人文、社会のインターン期間は、「1 ヶ月以上～3 ヶ月未満」、「3 ヶ月以上～半年未満」、「半年以上～1 年未満」、「1 年以上」のいずれも自然科学の各分野より割合が高く、1 ヶ月以上のインターンシップの割合は、人文で 27.6%、社会で 24.9%となっており、自然科学の各分野(理学、工学、農学、保健)における 1 ヶ月以上のインターンシップの割合が 10%に満たないと大きく違っていた(図 4-4)。

以上から、人文、社会は、長期のインターンシップへの参加率が自然科学よりも高い傾向にあることがわかった。

図 4-4 インターンシップの期間

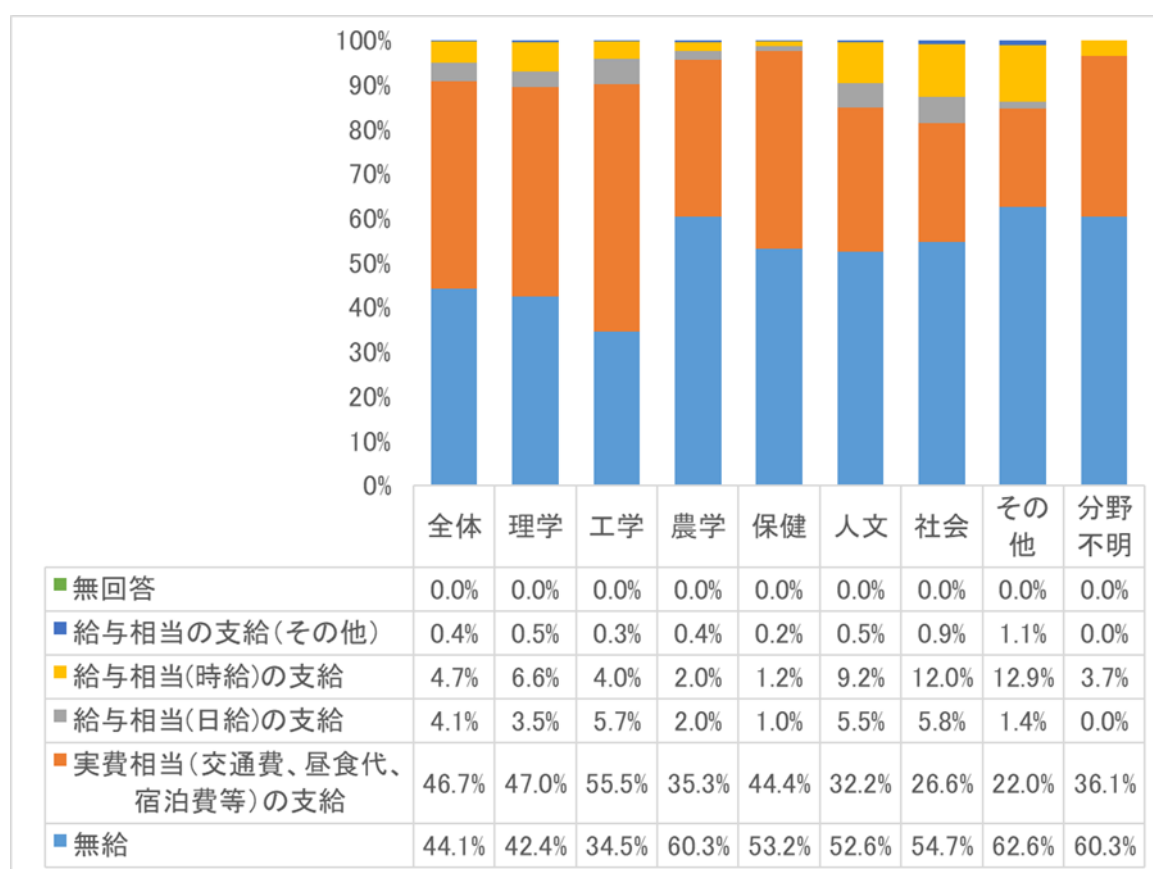


4-4 インターンシップの給与

インターンシップの給与については、全体で見ると「実費相当(交通費、昼食代、宿泊費等)の支給」が46.7%で最も高く、次いで「無給」が44.1%となり、これらで9割を超えた。

分野別にみると、「実費相当(交通費、昼食代、宿泊費等)の支給」の割合が理学、工学では最も高く(それぞれ47.0%、55.5%)、これら以外の分野(農学60.3%、保健53.2%、人文52.6%、社会54.7%)は「無給」の割合が最も高かった(図4-5)。

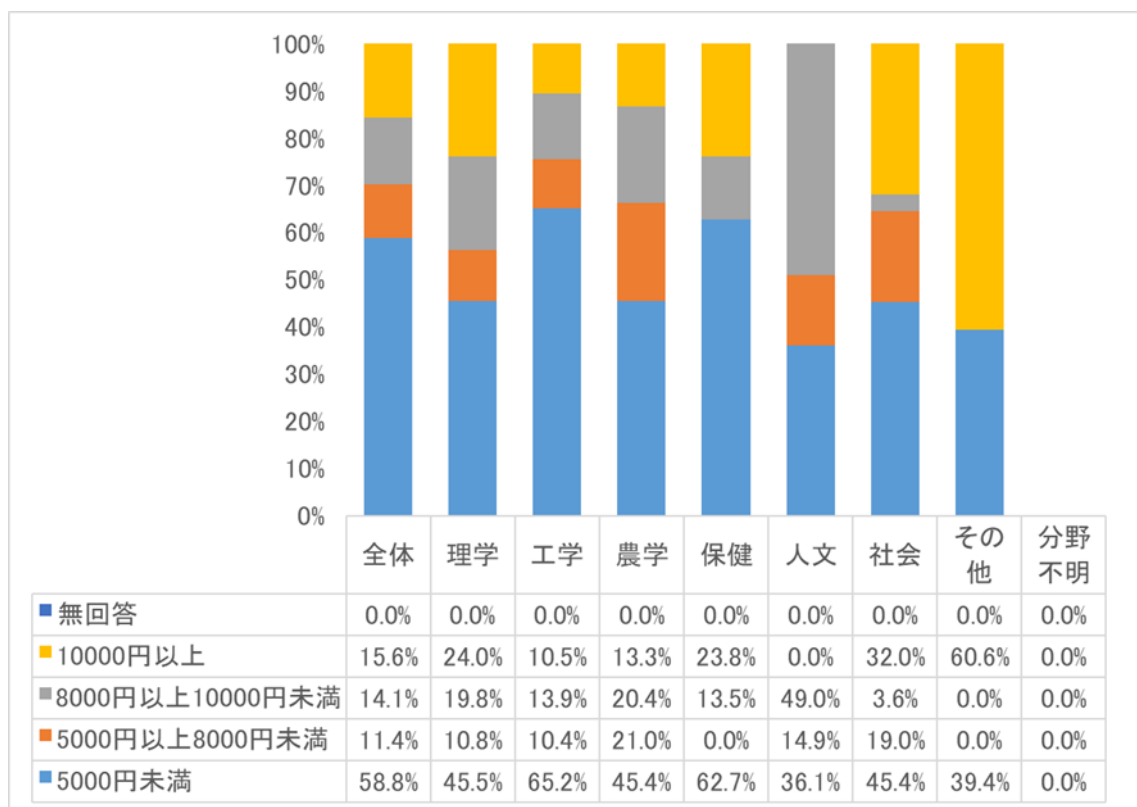
図 4-5 インターンシップの給与



給与相当(日給)の支給を受けた者(全体の4.1%)に、一日当たりの金額を尋ねたところ「5,000円未満」の回答が58.8%で6割に及んだ。

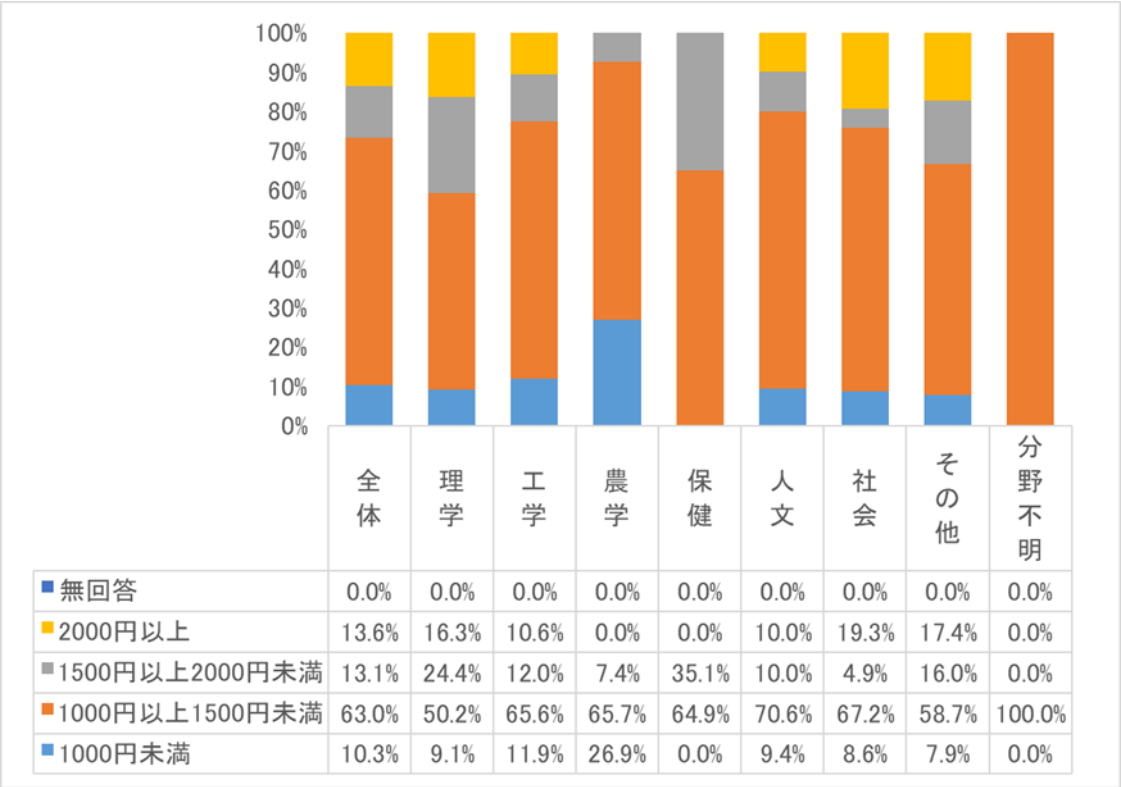
分野別では、人文が「8,000円以上10,000円未満」が49.0%と最も高く、人文以外の分野では5,000円未満の回答が最も高く、理学で45.5%、工学で65.2%、農学で45.4%、保健で62.7%、社会で45.4%であった(図4-6)。

図 4-6 給与相当(日給)の支給額



給与相当（時給）の支給を受けた者では、全体、分野別ともに 1,000 円以上 1,500 円未満の回答が多数を占めた（図 4-7）。

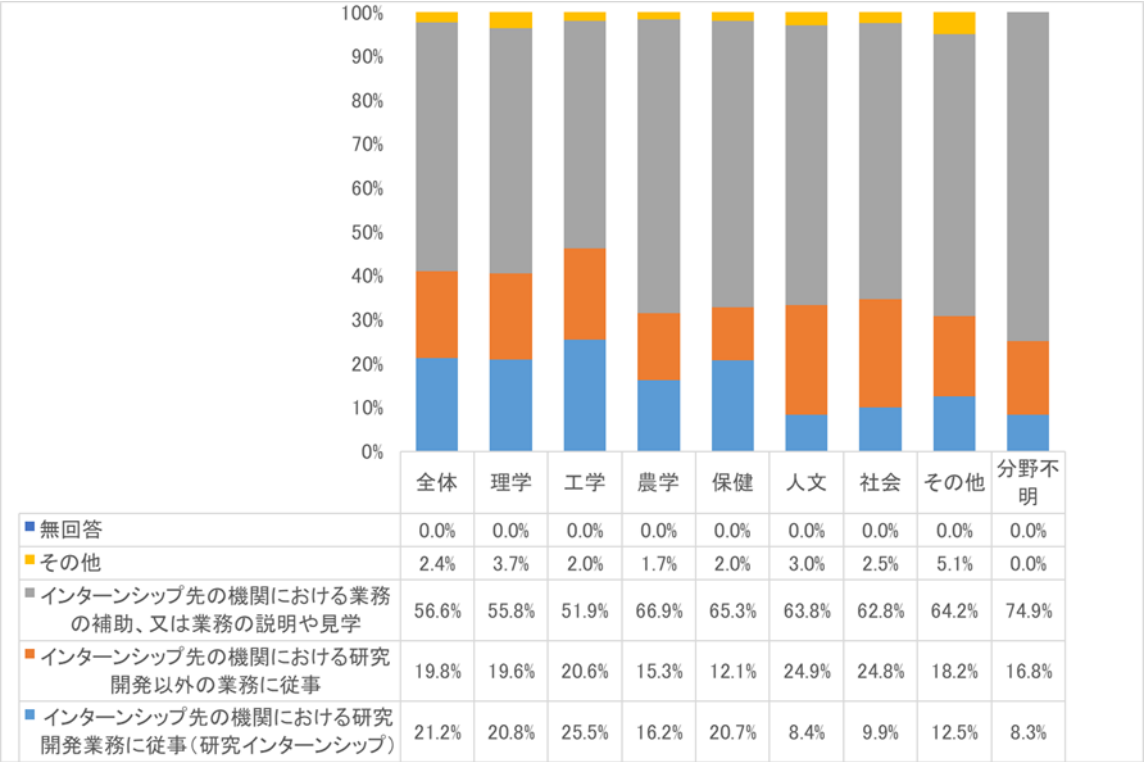
図 4-7 給与相当(時給)の支給額



4-5 インターンシップの内容

経験したインターンシップの主な内容について尋ねたところ、「インターンシップ先の機関における業務の補助、又は業務の説明や見学」が全体、分野別とも回答率が最も高く、いずれも過半数を上回っていた。その次に回答率が高かったのは、自然科学は「インターンシップ先の機関における研究開発業務に従事(研究インターンシップ)」で、理学が 20.8%、工学が 25.5%、農学が 16.2%、保健が 20.7%であったが、人文、社会は「インターンシップ先の機関における研究開発以外の業務に従事」で、それぞれ 24.9%、24.8%であった(図 4-8)。

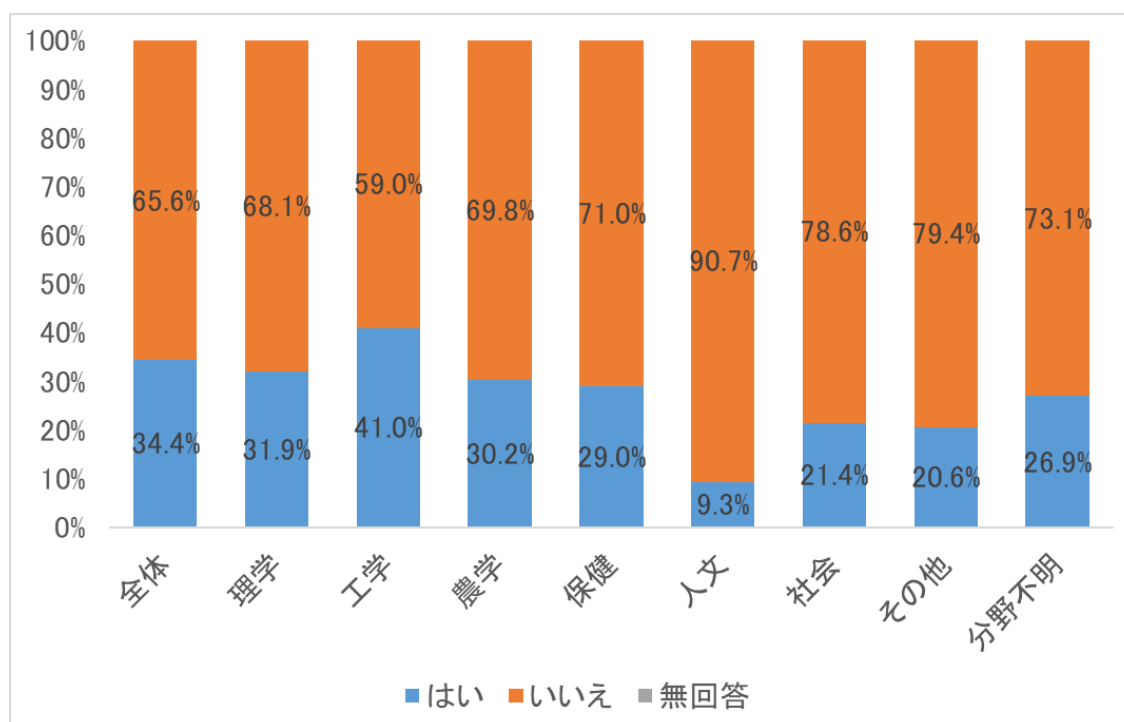
図 4-8 インターンシップの主な内容



4-6 インターンシップ先への就職

インターンシップ先への就職は、全体で 34.4%がインターンシップ先に内定し、分野別にみるとインターンシップ先へ就職する割合が高い順に、工学の 41.0%、理学の 31.9%、農学の 30.2%、保健の 29.0%と自然科学の各分野が続いたのに対し、社会が 21.4%、人文が 9.3%であった(図 4-9)。

図 4-9 インターンシップ先への就職



インターンシップ先に就職が決まらなかった者に、その理由を尋ねると、全体では「選考に落ちた」が32.4%で最も高く、次に「もともと志望していた就職先ではなかった」が25.1%、「インターンシップ先と同じ業種の別の企業等に就職した」が22.5%と続いた。

分野別に理由をみると、自然科学（理学、工学、農学、保健）で、「選考に落ちた」、「インターンシップ先と同じ業種の別の企業等に就職した」の順であったのに対し、人文、社会は「もともと志望していた就職先ではなかった」、「選考に落ちた」の順であった（表4-1）。

以上から、自然科学のインターンシップは、人文、社会よりもインターンシップ先機関への就職をやや意識したものとなっている傾向が窺えた。また、インターンシップに参加しても採用選考に落ちる割合が決して低くはないことも明らかとなった。

表 4-1 インターンシップ先に決まらなかった理由

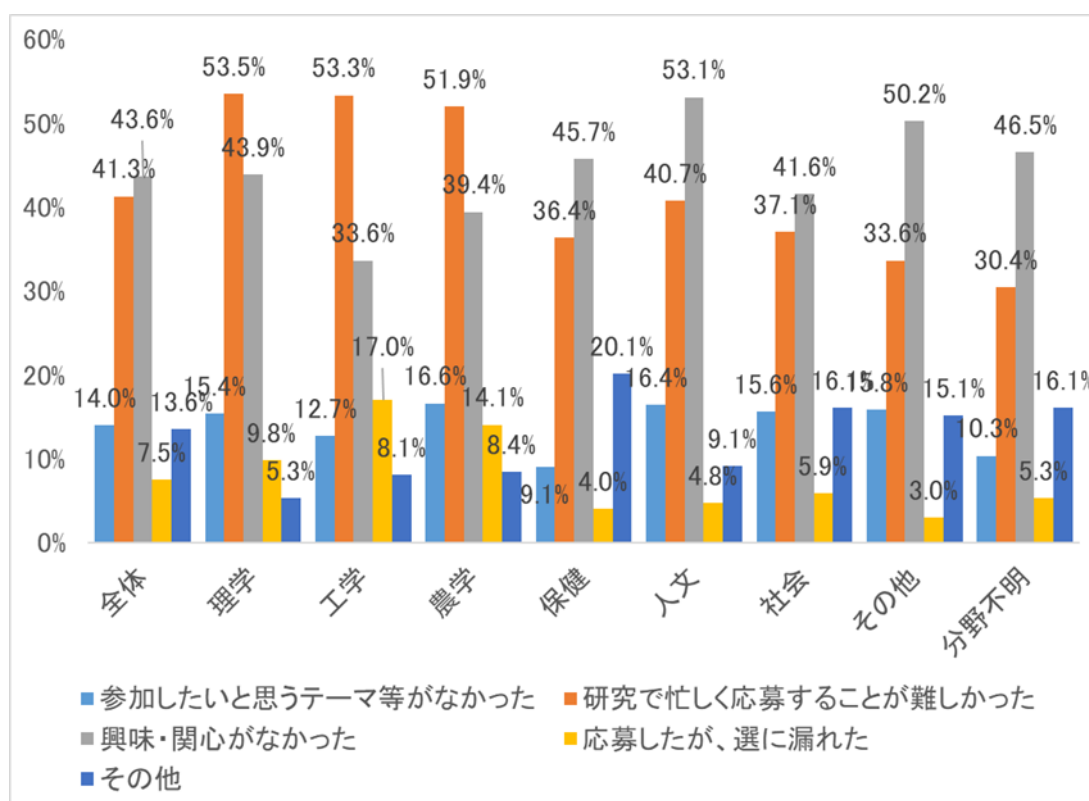
	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
もともと志望していた就職先ではなかった	25.1%	22.9%	23.6%	21.6%	20.2%	29.9%	33.5%	36.2%	39.9%
インターンシップ先と同じ業種の別の企業等に就職した	22.5%	24.1%	24.6%	22.2%	29.6%	16.6%	13.3%	11.4%	20.7%
インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、研究内容があまり活かせないと感じ、志望が変わった	6.3%	6.4%	5.2%	5.9%	6.1%	7.8%	9.9%	6.6%	0.0%
インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、研究で身についた能力があまり活かせないと感じ、志望が変わった	5.7%	7.6%	4.9%	4.9%	6.5%	7.9%	6.3%	6.8%	5.3%
インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、自らのキャリアパスを考えた際に、自らの価値を高められないと感じ、志望が変わった	12.0%	11.8%	12.8%	11.1%	9.6%	13.2%	11.1%	11.5%	24.1%
インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、処遇・待遇面で物足りなさを感じ、志望が変わった	7.4%	8.1%	7.6%	4.6%	7.1%	8.2%	7.0%	7.7%	33.5%
インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、社員の雰囲気や社風に魅力を感じず、志望が変わった	11.6%	11.6%	14.3%	9.0%	6.0%	9.9%	9.5%	6.9%	13.8%
インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、インターンシップ参加が当該企業への就職におけるインセンティブにならないと感じ、志望が変わった	2.2%	1.4%	2.1%	1.8%	1.4%	3.0%	3.5%	2.9%	0.0%
選考に落ちた	32.4%	37.2%	31.3%	39.5%	41.1%	25.8%	25.6%	24.1%	8.7%
その他	7.5%	5.6%	5.6%	5.6%	8.6%	9.3%	14.2%	13.7%	17.1%

4-7 インターンシップ不参加の理由

インターンシップに参加しなかった者にその理由を尋ねると、全体では「興味・関心がなかった」が43.6%で最も高く、次いで「研究で忙しく応募することが難しかった」が41.3%と続いた。分野別の回答率でみると、理学、工学、農学は、「研究で忙しく応募することが難しかった」が5割で最も高かったのに対し、保健、人文、社会は、「興味・関心がなかった」が4～5割で最も高かった（図4-10）。

インターンシップへの参加を促すためには、理学、工学、農学の各分野は参加時間の確保が重要で、保健、人文、社会の各分野は興味・関心の惹起が重要と考えられる。

図 4-10 インターンシップ不参加の理由

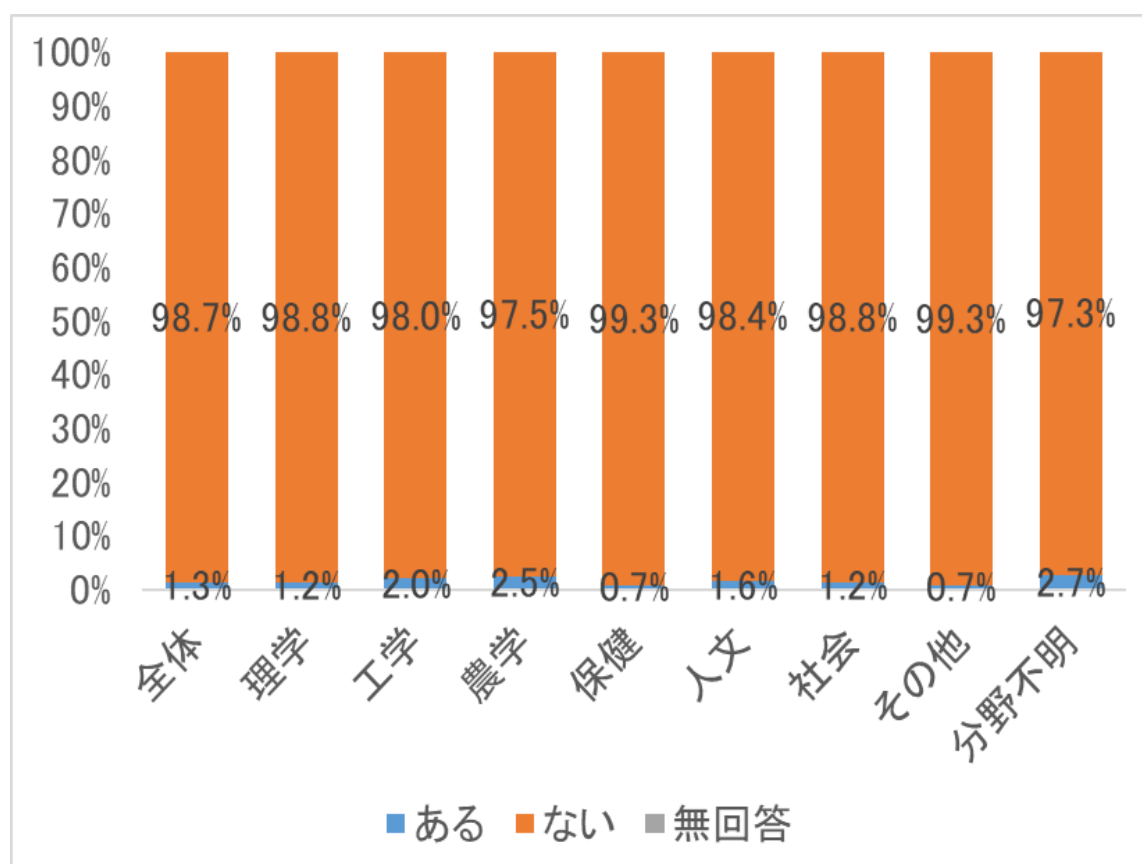


5. 海外経験

修士課程在籍中に、3ヵ月以上、海外の大学の研究室に在籍した経験の有無を尋ねると、大多数に経験がなかった(図 5-1)。

日本の大学の修士課程では、3ヵ月以上の海外大学における研究室在籍経験がある者はほとんど皆無に近い状況であることが明らかとなった。

図 5-1 海外経験の有無



6. 満足度

在籍中に経験した「教育・研究指導の質」「人的ネットワークの広がり、異分野との交流・協働」「キャリア開発支援や進路指導」「国際性の向上」「修士課程に関する全般的な満足度」について、「満足している」を5、「まあ満足している」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり満足していない」を2、「全く満足していない」を1とし、その平均値を求めたところ、全体では高い順に「教育・研究指導の質」3.8、「修士課程に関する全般的な満足度」3.7、「人的ネットワークの広がり、異分野との交流・協働」3.3、「キャリア開発支援や進路指導」3.1、「国際性の向上」3.0であり、分野別で最も低かったのは、工学、農学、保健で「国際性の向上」、理学、人文、社会で「キャリア開発支援や進路指導」であった（図 6-1、表 6-1）。

図 6-1 満足度

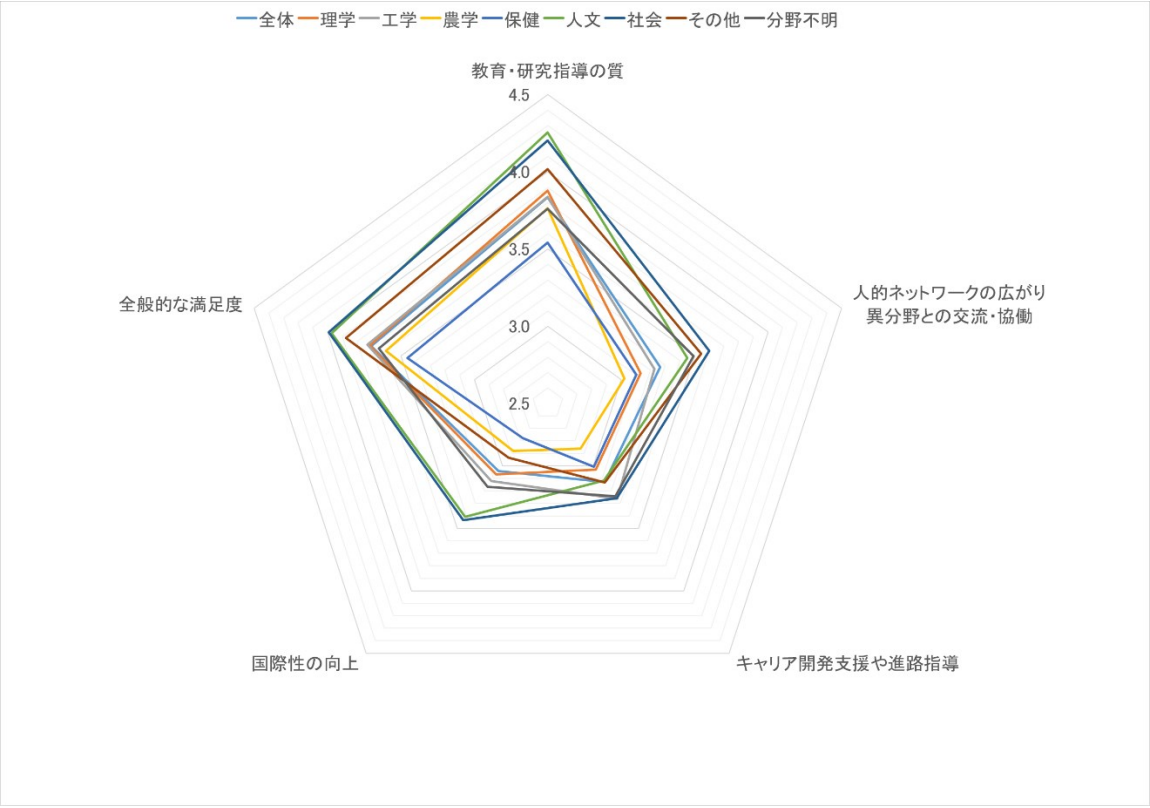


表 6-1 満足度

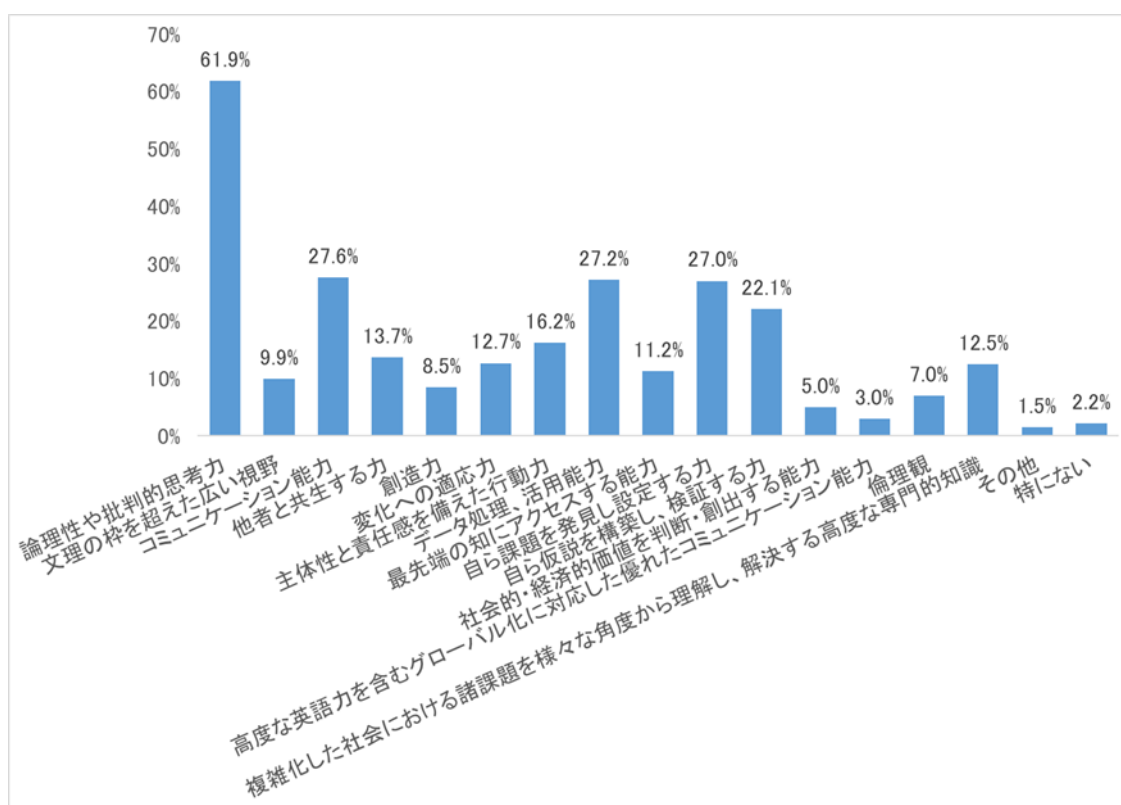
	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
教育・研究指導の質	3.8	3.9	3.8	3.8	3.5	4.3	4.2	4.0	3.8
人的ネットワークの広がり 異分野との交流・協働	3.3	3.1	3.2	3.0	3.1	3.5	3.6	3.5	3.5
キャリア開発支援や進路指導	3.1	3.0	3.3	2.9	3.0	3.1	3.3	3.1	3.2
国際性の向上	3.0	3.1	3.1	2.9	2.8	3.4	3.4	2.9	3.2
全般的な満足度	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	4.0	4.0	3.9	3.7

7. 今後役に立つと考えられること

修士課程に在籍して得られていることで、今後役に立つと考えられることは、回答の多い順に「論理性や批判的思考力」が 61.9%、「コミュニケーション能力」が 27.6%、「データ処理、活用能力」が 27.2%、「自ら課題を発見し設定する力」が 27.0%であった(図 7-1)。

「博士人材追跡調査第 3 次報告書」¹⁷においても、同じ質問について調査している。2012 年度博士課程修了 6.5 年後及び 2015 年博士課程修了 3.5 年後とも「論理性や批判的思考力」との回答が最も多く、次いで「自ら課題解決する能力」、「データ処理、活用能力」であった。博士課程、修士課程ともに、今後に役に立つと考えられることについては、同じ結果となった。

図 7-1 今後役に立つと考えられること(複数回答)



¹⁷ 科学技術・学術研究所『博士人材追跡調査』第 3 次報告書」NISTEP REPORT NO.188 (2021 年 12 月)

今後役に立つと考えられることについて、分野別の違いをみると、理学、工学、農学で「データ処理、活用する能力」が3～4割、保健で「コミュニケーション能力」が3割、人文で「自ら課題を発見し設定する能力」が4割であった。また、社会では「コミュニケーション能力」、「データ処理、活用する能力」、「自ら課題を発見し設定する能力」、「自ら仮説を構築し、検証する力」がいずれも2割台で分散していた（表 7-1）。

表 7-1 今後役に立つと考えられること(分野別)

	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
論理性や批判的思考力	61.9%	68.9%	67.7%	67.0%	48.2%	75.8%	70.4%	59.4%	47.4%
文理の枠を超えた広い視野	9.9%	6.8%	7.1%	9.9%	6.3%	18.4%	19.1%	15.5%	19.6%
コミュニケーション能力	27.6%	23.5%	27.9%	21.8%	33.2%	21.0%	23.5%	25.2%	28.9%
他者と共生する力	13.7%	10.4%	11.4%	14.3%	19.2%	11.2%	8.4%	15.5%	17.8%
創造力	8.5%	8.3%	10.5%	4.7%	5.6%	9.2%	7.7%	14.0%	13.1%
変化への適応力	12.7%	11.3%	12.4%	16.2%	13.2%	12.8%	12.2%	12.2%	22.1%
主体性と責任感を備えた行動力	16.2%	15.9%	19.9%	24.5%	16.0%	9.8%	8.9%	15.8%	14.5%
データ処理、活用能力	27.2%	35.5%	34.3%	36.3%	22.9%	15.3%	21.8%	19.8%	18.8%
最先端の知にアクセスする能力	11.2%	15.8%	9.7%	8.3%	13.3%	9.6%	9.7%	9.7%	7.2%
自ら課題を発見し設定する力	27.0%	29.7%	30.3%	27.9%	20.5%	38.6%	25.8%	31.5%	21.7%
自ら仮説を構築し、検証する力	22.1%	30.5%	27.4%	24.6%	14.1%	26.4%	22.2%	20.3%	13.4%
社会的・経済的価値を判断・創出する能力	5.0%	2.3%	3.3%	2.5%	3.9%	4.9%	13.5%	4.9%	5.5%
高度な英語力を含むグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力	3.0%	3.3%	3.4%	2.9%	2.0%	3.7%	4.7%	1.7%	3.4%
倫理観	7.0%	3.1%	2.7%	4.4%	13.7%	7.4%	4.6%	7.4%	6.5%
複雑化した社会における諸課題を様々な角度から理解し、解決する高度な専門的知識	12.5%	6.0%	6.4%	7.6%	13.6%	14.6%	22.8%	19.7%	9.3%
その他	1.5%	1.7%	1.2%	2.2%	1.8%	1.0%	1.1%	2.1%	1.4%
特になし	2.2%	1.8%	1.1%	1.7%	4.8%	0.6%	0.6%	1.2%	5.1%

修士課程に在籍して得られていることで、今後役に立つと考えられることのうち、全体、各分野において最も多かった「論理性や批判的思考能力」が、修士課程におけるどのような活動から身に付いたかと尋ねた。全体、分野別ともに「個人による研究活動（先行研究調査、実験及び解析と考察）」が最も多く、次に「所属する研究室内の室員との交流（研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等）」が続いた（表 7-2）。

表 7-2 「論理性や批判的思考力」はどのような活動から身に付いたか

論理性や批判的思考力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動（先行研究調査、実験及び解析と考察）	38.4%	42.1%	42.0%	40.3%	31.7%	45.3%	39.0%	33.6%	35.8%
グループによる研究活動（研究室内外の研究者や企業との共同研究等）	9.5%	7.5%	10.8%	6.4%	11.7%	4.9%	8.6%	7.9%	7.7%
研究成果の対外的な発表（学会発表、論文執筆等）	9.0%	10.6%	11.5%	13.0%	7.7%	6.7%	5.5%	7.9%	11.1%
所属する研究室内の室員との交流（研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等）	28.2%	34.4%	30.4%	35.0%	25.4%	25.0%	22.9%	28.3%	17.4%
所属する研究室外の研究者等との交流	1.6%	1.3%	1.6%	1.4%	1.2%	2.1%	1.8%	2.8%	6.1%
所属する研究室内における研究補助活動（自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等）	0.7%	0.6%	0.7%	0.8%	0.5%	0.4%	0.7%	0.9%	1.4%
大学院の講義（カリキュラム）・プログラム	9.4%	1.6%	1.2%	1.7%	14.9%	14.3%	19.1%	16.3%	20.5%
就職活動（インターンシップ、起業活動等を含む）	1.0%	0.9%	1.2%	1.0%	0.7%	0.5%	1.6%	0.7%	0.0%
私生活（アルバイト、部活動、サークル等）	1.6%	0.9%	0.5%	0.2%	4.8%	0.6%	0.4%	1.2%	0.0%
その他	0.5%	0.0%	0.1%	0.1%	1.3%	0.3%	0.4%	0.3%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

参考までに、「文理の枠を超えた広い視野」「コミュニケーション能力」「他社と共生する力」「変化への適応能力」「主体性と責任感を備えた行動力」「データ処理、活用能力」「最先端の知にアクセスする能力」「自ら課題を発見し設定する力」「社会的・経済的価値を判断・創出する能力」「高度な英語力を含むグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力」「倫理観」「複雑化した社会における諸課題を様々な角度から理解し、解決する高度な専門的知識」「その他」が、それぞれ修士課程におけるどのような活動から身に付いたかを表 7-3 から表 7-16 に示した。

表 7-3 「文理の枠を超えた広い視野」はどのような活動から見に付いたか

文理の枠を超えた広い視野	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	22.1%	17.5%	17.8%	13.7%	22.6%	29.0%	23.2%	26.1%	10.8%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	10.5%	8.8%	11.2%	5.3%	10.1%	8.4%	11.9%	10.6%	16.8%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	8.1%	11.3%	10.7%	10.1%	8.9%	12.5%	4.4%	6.3%	3.4%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	16.3%	16.2%	15.4%	21.2%	11.7%	15.5%	21.0%	14.0%	17.0%
所属する研究室外の研究者等との交流	10.7%	15.0%	14.6%	14.3%	7.2%	9.7%	7.6%	13.5%	6.1%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	1.8%	2.8%	2.3%	5.7%	2.2%	1.4%	0.9%	0.9%	3.4%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	18.9%	15.3%	14.7%	11.5%	18.6%	15.8%	22.8%	23.2%	37.4%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	3.6%	3.9%	6.2%	3.5%	1.8%	1.9%	4.0%	2.4%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	7.0%	8.3%	5.8%	14.7%	14.8%	5.8%	3.5%	2.6%	5.0%
その他	1.0%	0.9%	1.3%	0.0%	2.2%	0.0%	0.6%	0.3%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-4 「コミュニケーション能力」はどのような活動から見に付いたか

コミュニケーション能力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	6.2%	5.1%	5.2%	7.4%	4.6%	12.3%	9.1%	10.4%	13.6%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	17.0%	15.8%	20.9%	18.1%	14.9%	10.1%	19.2%	12.4%	20.7%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	10.3%	14.7%	15.6%	17.0%	5.8%	9.9%	8.4%	8.0%	7.6%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	23.0%	33.8%	27.3%	27.6%	16.1%	23.2%	25.5%	23.2%	17.9%
所属する研究室外の研究者等との交流	6.9%	9.5%	8.5%	8.3%	4.4%	12.3%	6.6%	8.0%	13.5%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	3.7%	2.5%	5.8%	7.0%	2.6%	3.1%	3.2%	2.3%	0.0%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	9.2%	2.8%	1.7%	1.6%	12.4%	11.9%	16.2%	19.4%	0.0%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	4.3%	4.7%	5.9%	3.8%	2.7%	5.1%	5.1%	3.5%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	18.2%	10.4%	8.9%	8.6%	34.9%	11.4%	6.5%	9.7%	26.7%
その他	1.1%	0.7%	0.1%	0.6%	1.8%	0.7%	0.3%	3.2%	0.0%

表 7-5 「他者と共生する力」はどのような活動から身に付いたか

他者と共生する力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	5.6%	5.4%	5.8%	5.3%	4.2%	6.5%	12.8%	4.7%	3.8%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	22.7%	21.5%	29.1%	22.0%	19.6%	15.5%	28.0%	19.2%	20.8%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	3.7%	4.7%	3.7%	5.6%	3.4%	7.5%	2.5%	2.8%	0.0%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	24.2%	37.7%	34.9%	35.2%	15.3%	23.5%	22.2%	24.1%	15.1%
所属する研究室外の研究者等との交流	5.6%	6.8%	5.6%	2.6%	3.3%	10.7%	11.3%	8.9%	9.1%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	7.0%	8.7%	9.9%	15.7%	5.6%	5.1%	4.2%	3.4%	12.6%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	9.2%	2.4%	1.7%	2.1%	11.2%	12.0%	9.0%	24.8%	19.8%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	2.5%	3.1%	2.2%	2.0%	2.2%	5.8%	5.3%	1.2%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	18.3%	9.3%	6.7%	9.5%	33.4%	12.5%	4.2%	8.7%	18.8%
その他	1.2%	0.4%	0.4%	0.0%	1.8%	0.9%	0.7%	2.1%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-6 「創造力」はどのような活動から身に付いたか

創造力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	46.0%	53.6%	54.4%	43.0%	34.9%	36.9%	38.8%	45.8%	32.5%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	9.2%	9.0%	7.8%	9.2%	13.2%	3.3%	10.3%	8.3%	13.6%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	9.6%	7.0%	10.1%	11.9%	10.9%	7.4%	9.2%	9.1%	0.0%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	15.0%	15.4%	15.2%	18.9%	17.2%	19.6%	13.8%	10.6%	18.3%
所属する研究室外の研究者等との交流	4.0%	4.2%	3.6%	7.1%	4.0%	8.7%	4.3%	2.9%	18.5%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	1.6%	1.1%	1.4%	6.6%	0.6%	2.3%	3.0%	1.3%	6.9%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	8.9%	3.9%	3.0%	0.0%	11.3%	14.2%	15.2%	17.1%	5.1%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	1.7%	2.8%	1.6%	2.1%	1.5%	2.8%	2.6%	0.8%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	3.4%	3.0%	2.9%	1.3%	5.9%	1.7%	2.9%	2.9%	5.1%
その他	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	3.2%	0.0%	1.2%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-7 「変化への適応力」はどのような活動から身に付いたか

変化への適応力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	20.8%	29.9%	27.4%	31.6%	14.2%	13.6%	12.7%	23.1%	12.2%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	9.5%	9.1%	9.9%	8.3%	10.7%	4.7%	9.1%	8.2%	6.6%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	5.9%	7.1%	8.2%	6.1%	4.2%	6.7%	4.9%	4.1%	9.3%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	16.8%	20.1%	19.1%	21.9%	15.8%	13.0%	11.8%	16.6%	20.9%
所属する研究室外の研究者等との交流	5.5%	7.4%	5.7%	6.1%	4.5%	10.0%	3.9%	6.1%	4.8%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	6.5%	6.2%	8.2%	9.5%	6.6%	7.8%	3.6%	2.7%	3.8%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	11.5%	2.9%	2.4%	3.9%	16.4%	7.3%	20.9%	23.2%	21.4%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	6.5%	5.3%	7.8%	3.1%	4.6%	15.0%	11.1%	1.3%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	14.7%	8.8%	9.7%	7.1%	19.4%	20.2%	21.3%	11.4%	18.0%
その他	2.4%	3.2%	1.6%	2.4%	3.5%	1.7%	0.7%	3.4%	3.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-8 「主体性と責任感を備えた活動力」はどのような活動から身に付いたか

主体性と責任感を備えた活動力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	40.4%	51.3%	49.5%	52.5%	24.9%	35.8%	35.5%	40.5%	58.1%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	12.0%	10.2%	14.9%	8.6%	11.1%	4.7%	14.2%	8.6%	0.0%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	7.4%	10.1%	8.9%	4.4%	6.4%	10.1%	4.0%	6.2%	6.5%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	10.8%	11.0%	10.2%	10.1%	11.0%	14.2%	11.7%	10.8%	16.9%
所属する研究室外の研究者等との交流	2.8%	2.3%	2.8%	2.1%	1.8%	8.4%	6.6%	2.8%	0.0%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	6.2%	6.4%	7.6%	12.8%	4.2%	10.1%	4.8%	1.7%	4.6%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	7.8%	0.7%	0.8%	2.4%	16.2%	4.1%	10.9%	17.8%	13.9%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	3.0%	2.7%	2.6%	1.6%	3.6%	6.6%	3.5%	3.0%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	7.3%	5.0%	2.2%	4.6%	15.5%	4.7%	8.4%	4.7%	0.0%
その他	2.3%	0.3%	0.5%	0.9%	5.4%	1.4%	0.3%	3.9%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-9 「データ処理、活用能力」はどのような活動から身に付いたか

データ処理、活用能力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	61.5%	72.9%	68.9%	74.1%	51.5%	56.7%	47.2%	53.6%	52.7%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	5.7%	3.1%	6.0%	2.8%	7.6%	0.5%	6.4%	4.8%	5.6%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	8.4%	7.2%	8.8%	8.0%	9.0%	3.6%	7.3%	9.6%	5.2%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	10.1%	8.3%	10.0%	9.7%	10.6%	16.2%	8.6%	11.7%	16.6%
所属する研究室外の研究者等との交流	1.9%	1.6%	1.0%	1.3%	2.6%	3.8%	2.3%	3.3%	6.2%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	1.6%	1.5%	0.9%	0.7%	2.5%	1.4%	3.2%	0.4%	3.6%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	7.7%	2.9%	2.1%	1.9%	11.2%	15.9%	20.7%	12.9%	10.1%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	1.3%	1.0%	1.1%	0.4%	0.9%	0.8%	3.1%	1.4%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	1.6%	1.0%	0.9%	1.3%	3.0%	0.9%	1.4%	1.6%	0.0%
その他	0.4%	0.4%	0.1%	0.0%	1.1%	0.3%	0.0%	0.7%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-10 「最先端の知にアクセスする能力」はどのような活動から身に付いたか

最先端の知にアクセスする能力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	44.8%	56.7%	54.8%	53.8%	34.8%	39.4%	42.6%	42.0%	47.0%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	4.8%	6.0%	4.5%	6.9%	6.1%	2.3%	1.7%	3.2%	0.0%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	7.8%	8.4%	10.7%	5.7%	6.6%	9.1%	4.8%	8.4%	0.0%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	17.2%	18.5%	16.9%	23.2%	15.4%	21.4%	17.6%	18.7%	0.0%
所属する研究室外の研究者等との交流	4.4%	4.0%	4.5%	3.9%	4.0%	6.9%	3.7%	6.5%	0.0%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	1.6%	1.0%	2.8%	2.0%	1.2%	1.2%	0.3%	1.9%	0.0%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	16.0%	2.9%	2.0%	2.9%	26.8%	19.7%	28.1%	17.1%	40.9%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	1.4%	1.4%	1.8%	1.4%	1.9%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	1.5%	1.0%	1.6%	0.0%	2.0%	0.0%	0.8%	2.1%	0.0%
その他	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-11 「自ら課題を発見し設定する力」はどのような活動から身に付いたか

自ら課題を発見し設定する力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	57.4%	65.0%	68.7%	63.9%	40.1%	57.9%	53.0%	55.8%	49.8%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	6.2%	4.7%	6.7%	5.0%	9.3%	3.0%	4.6%	4.2%	3.1%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	5.8%	6.3%	4.8%	6.1%	6.3%	7.6%	7.1%	4.5%	9.3%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	14.3%	14.8%	12.8%	14.1%	14.7%	19.4%	14.2%	15.0%	5.1%
所属する研究室外の研究者等との交流	2.3%	2.2%	2.1%	3.6%	1.3%	3.0%	4.4%	1.8%	0.0%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	1.2%	1.9%	1.3%	0.9%	1.3%	1.0%	0.8%	0.8%	3.3%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	7.4%	1.8%	1.2%	2.3%	14.3%	5.4%	13.4%	12.0%	29.4%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	1.6%	1.5%	1.2%	1.6%	3.5%	0.9%	0.6%	0.2%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	2.9%	1.7%	1.1%	2.5%	7.5%	0.9%	1.1%	3.8%	0.0%
その他	0.8%	0.1%	0.1%	0.0%	1.9%	0.7%	0.8%	1.9%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-12 「自ら仮説を構築し、検証する力」はどのような活動から身に付いたか

自ら仮説を構築し、検証する力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	62.5%	66.2%	69.3%	79.0%	53.1%	58.4%	54.0%	55.9%	32.3%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	5.1%	4.4%	5.9%	3.9%	6.9%	0.5%	4.5%	2.4%	0.0%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	5.4%	5.3%	3.7%	4.0%	6.2%	11.1%	5.8%	7.2%	5.9%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	17.3%	17.0%	14.9%	10.2%	19.3%	17.1%	21.7%	19.7%	32.9%
所属する研究室外の研究者等との交流	1.8%	1.6%	1.3%	0.4%	2.3%	2.9%	2.9%	2.0%	0.0%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	0.8%	1.0%	1.3%	0.0%	0.6%	0.7%	0.0%	0.6%	0.0%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	4.0%	1.6%	0.8%	1.7%	6.0%	6.9%	8.3%	8.5%	28.8%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	1.5%	2.0%	1.6%	0.5%	2.1%	0.5%	1.0%	1.3%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	1.1%	0.8%	0.9%	0.4%	2.2%	0.8%	0.8%	1.3%	0.0%
その他	0.6%	0.1%	0.2%	0.0%	1.2%	1.1%	0.9%	1.1%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-13 「社会的・経済的価値を判断・創出する能力」はどのような活動から身に付いたか

社会的・経済的価値を判断・創出する能力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	18.0%	21.8%	14.2%	17.8%	15.3%	14.5%	21.1%	20.0%	24.3%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	10.0%	12.4%	10.5%	29.7%	8.5%	3.0%	9.8%	11.0%	0.0%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	9.4%	17.1%	14.7%	11.6%	5.9%	11.3%	6.7%	14.1%	0.0%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	14.5%	13.0%	16.4%	2.3%	11.9%	24.2%	13.8%	18.7%	12.2%
所属する研究室外の研究者等との交流	8.1%	7.8%	9.2%	8.6%	10.8%	12.7%	6.8%	3.1%	0.0%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	2.2%	0.0%	4.7%	4.8%	1.0%	1.5%	1.6%	2.8%	0.0%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	18.9%	5.4%	8.0%	1.9%	17.7%	12.5%	28.0%	19.0%	24.3%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	9.4%	10.7%	13.1%	11.6%	9.0%	12.0%	7.4%	8.4%	12.2%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	9.1%	10.6%	8.2%	11.5%	19.1%	8.2%	4.7%	2.8%	27.0%
その他	0.4%	1.2%	1.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-14 「高度な英語力を含むグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力」はどのような活動から身に付いたか

高度な英語力を含むグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	9.0%	5.9%	2.1%	8.2%	14.1%	23.3%	11.9%	14.6%	0.0%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	7.8%	12.7%	6.9%	3.1%	7.4%	3.3%	10.6%	2.4%	0.0%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	15.5%	11.4%	19.2%	0.0%	20.4%	3.9%	11.3%	23.4%	20.0%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	20.1%	25.3%	26.7%	20.2%	22.7%	13.0%	11.4%	3.7%	20.0%
所属する研究室外の研究者等との交流	9.8%	17.7%	12.1%	8.9%	3.8%	5.9%	8.9%	11.6%	20.0%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	6.4%	7.2%	12.1%	10.1%	1.8%	2.3%	1.4%	8.0%	0.0%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	16.6%	6.5%	10.1%	24.4%	16.8%	24.2%	26.2%	19.4%	40.0%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	3.5%	4.8%	4.4%	0.0%	1.8%	0.0%	5.0%	2.7%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	7.2%	3.8%	3.2%	6.7%	11.1%	12.7%	9.0%	10.8%	0.0%
その他	4.1%	4.7%	3.2%	18.5%	0.0%	11.4%	4.4%	3.4%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-15 「倫理観」はどのような活動から身に付いたか

倫理観	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	11.7%	13.7%	14.0%	15.2%	7.6%	16.1%	21.3%	20.3%	20.7%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	5.0%	5.3%	9.4%	6.1%	4.2%	1.0%	6.1%	5.3%	0.0%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	2.1%	5.6%	5.1%	0.0%	0.7%	6.4%	1.8%	4.6%	11.1%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	14.9%	26.2%	22.8%	28.8%	11.1%	24.4%	11.1%	19.8%	23.9%
所属する研究室外の研究者等との交流	3.6%	8.1%	5.7%	3.7%	2.7%	3.7%	3.4%	5.3%	12.6%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	2.4%	5.6%	9.3%	8.3%	0.8%	2.8%	3.2%	0.6%	0.0%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	36.6%	18.4%	12.9%	23.2%	44.7%	31.7%	31.7%	33.4%	31.8%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	2.8%	1.7%	3.3%	0.0%	3.2%	4.0%	0.6%	3.0%	0.0%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	15.2%	13.0%	14.4%	14.7%	17.7%	9.9%	16.4%	4.2%	0.0%
その他	5.5%	2.3%	3.1%	0.0%	7.4%	0.0%	4.4%	3.6%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表 7-16 「複雑化した社会における諸課題を様々な角度から理解し、解決する高度な専門知識」はどのような活動から身に付いたか

複雑化した社会における諸課題を様々な角度から理解し、解決する高度な専門知識	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)	19.1%	33.5%	27.2%	18.9%	13.1%	22.3%	19.6%	17.9%	10.1%
グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)	6.2%	8.2%	8.0%	6.3%	6.7%	4.0%	4.6%	6.4%	0.0%
研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)	4.7%	10.9%	8.4%	8.7%	3.1%	4.8%	3.5%	4.2%	7.2%
所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)	20.6%	22.0%	30.0%	18.1%	12.0%	30.2%	24.4%	20.7%	25.2%
所属する研究室外の研究者等との交流	4.6%	3.5%	3.4%	7.7%	3.3%	10.0%	5.6%	4.9%	0.0%
所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)	1.5%	3.3%	3.9%	3.9%	1.0%	1.5%	0.4%	1.1%	7.2%
大学院の講義(カリキュラム)・プログラム	35.9%	12.9%	12.1%	22.7%	50.5%	22.5%	37.6%	38.2%	36.0%
就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)	2.0%	2.7%	3.8%	6.0%	1.2%	1.5%	2.1%	1.4%	7.2%
私生活(アルバイト、部活動、サークル等)	3.5%	2.5%	3.3%	5.8%	4.9%	2.4%	1.6%	3.9%	7.2%
その他	1.8%	0.6%	0.0%	1.8%	4.1%	0.8%	0.6%	1.4%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

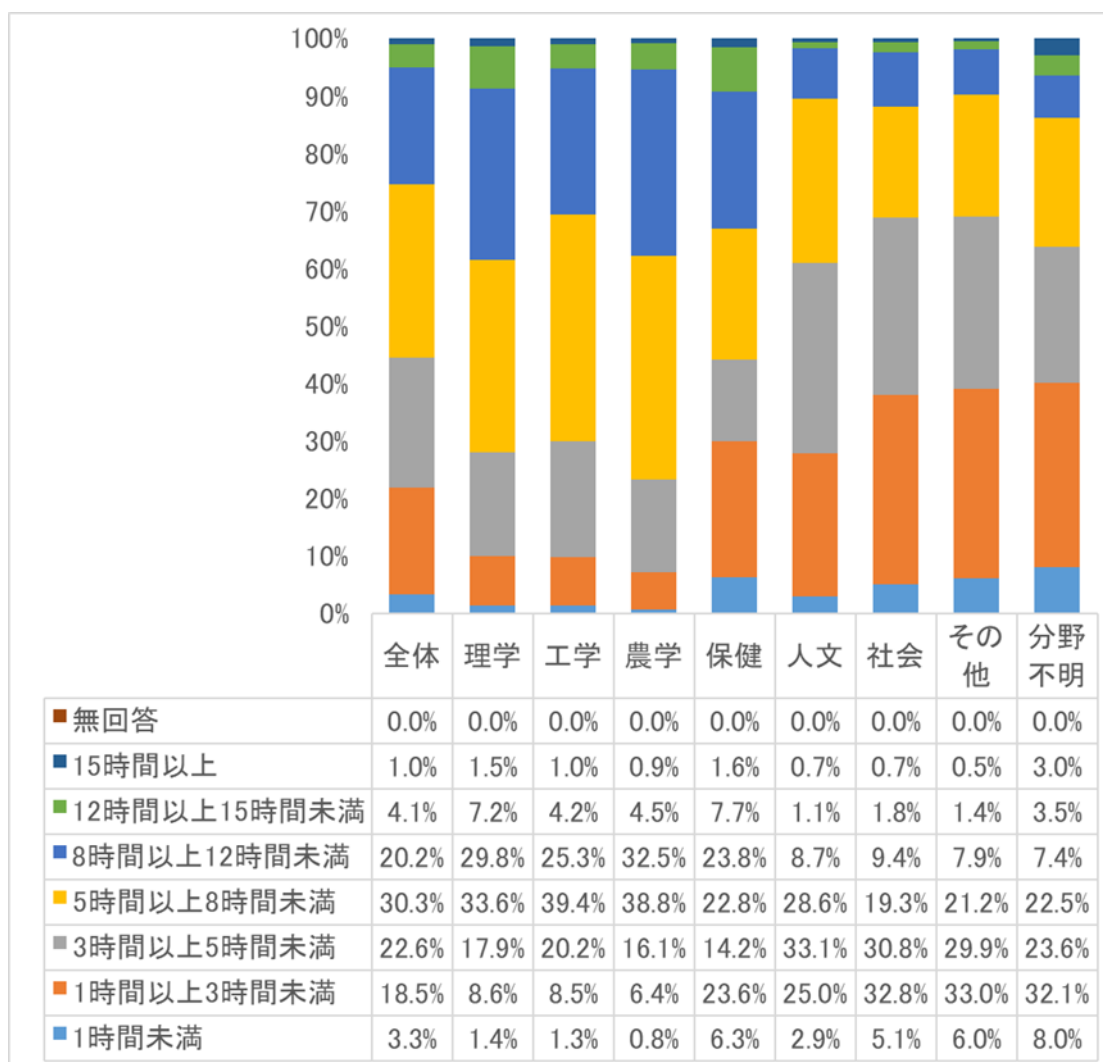
8. 研究時間

在籍中における平日の1日あたりの平均研究時間について尋ねたところ、分野による違いが明らかとなった。具体的には、理学、工学、農学で5時間以上8時間未満が3割強から4割弱、8時間以上12時間未満が2割強から3割強、保健で8時間以上12時間未満、5時間以上9時間未満が共に2割強と、5時間以上から12時間未満で5割程度以上となった。これに対し、人文で3時間以上5時間未満が3割強、5時間以上8時間未満で3割弱、社会で1時間以上3時間未満と3時間以上5時間未満が共に3割強であった(図8-1)。

自然科学は、人文・社会科学より平日の1日当たりの平均研究時間が長い傾向が顕著であった。

先行研究であるNISTEPの「日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査」(2009年3月)(以下、「2009年調査報告」とする。)では、授業のある一日の研究・学習時間(授業時間を含む)として最も多かった回答は、8時間以上11時間未満の33.0%であったが、概ね同様の傾向にあることがわかった。

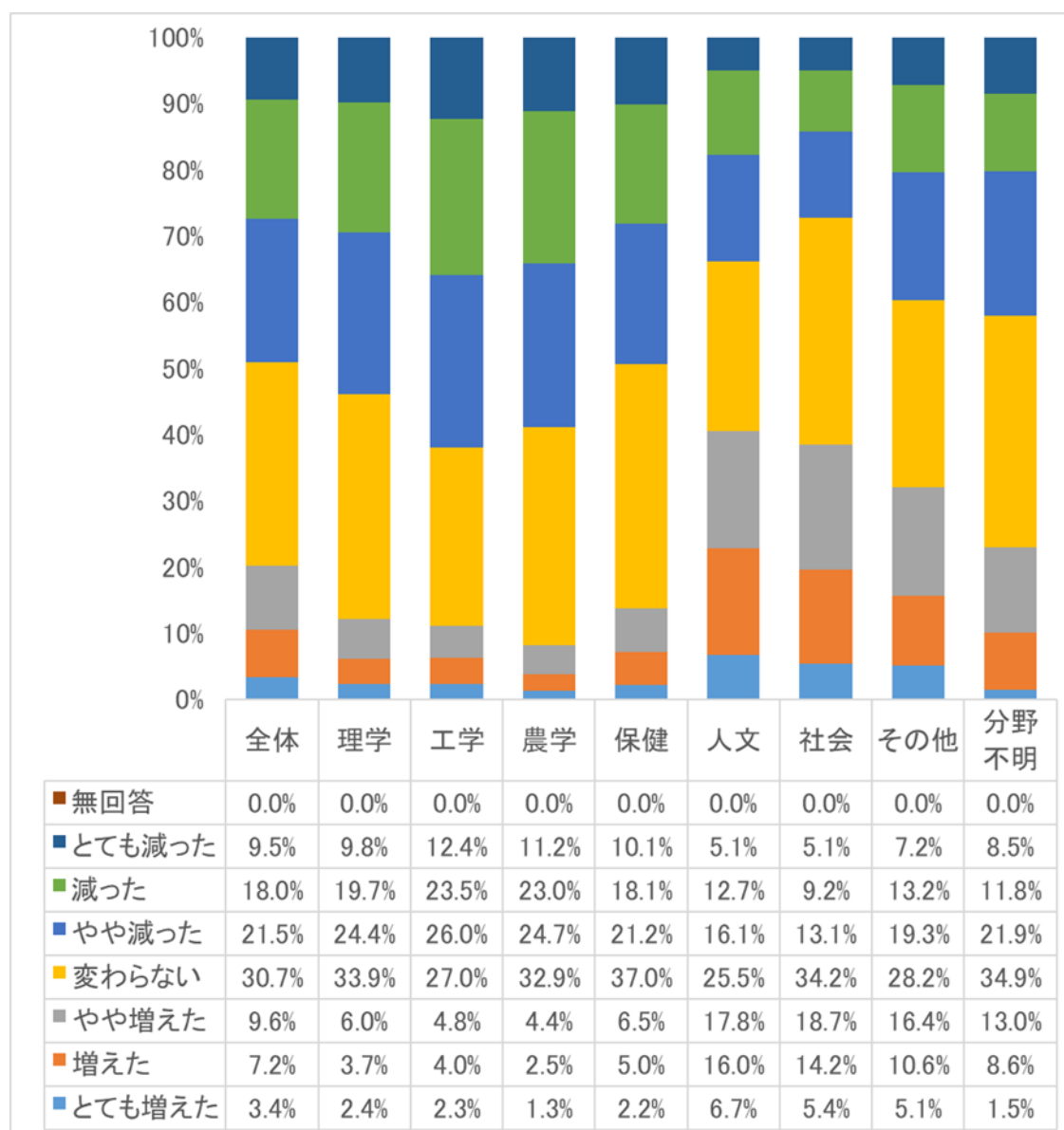
図 8-1 平日 1 日当たりの平均研究時間



2020 年から、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が蔓延し、我々の生活は一変した。調査時点においてもその脅威は継続していた。そこで、コロナ禍による環境変化に伴う研究時間への影響について尋ねたところ、全体では「変わらない」が 30.7% で最も高く、次いで「やや減った」が 21.5% と続いた。分野別にみると、全分野とも「変わらない」が最も高いが、自然科学 (理学、工学、農学、保健) は二番目が「やや減った」、三番目が「減った」であったのに対し、人文、社会は 2 番目が「やや増えた」、三番目が「増えた」であった (図 8-2)。

コロナ禍において、自然科学 (理学、工学、農学、保健) では研究時間に減少傾向がみられたのに対して、人文・社会科学では研究時間に増加傾向がみられたことで、相違が明らかとなった。

図 8-2 コロナ禍の環境変化に伴う研究時間の変化



回答者の自由記述から、コロナ禍による環境変化に伴い、研究効率の低下、研究協力先や現地調査の確保ができなくなったこと、進学・留学の断念、研究対象の変更、研究者との交流ができなくなった等、多大な影響をあることが窺えた。

コロナ禍による環境変化に伴う影響(「自由記述」より)

- コロナウイルスに関する研究時間の変化について「その他」の解答欄も必要だと思います。私の場合には研究時間が変わらなかったですが、研究が難しくなりました。出張中止や大学立ち入り禁止などのため。
- 「新型コロナウイルス対応のため」という名目の下で、大学構内への立ち入り及び図書館の利用制限が非常にきつく、とてもじゃないがまともな研究をする環境が全くもって構築されていない。
- コロナの影響に関しては、研究時間の増減だけではなく、研究協力先の確保が難しいこと、予定していた修業年数を超えるかもしれない不安なども多くの大学院生の中で問題になっていました。
- コロナウイルス感染症により、予定していた現地調査及び試作を伴う研究が、実行不可能となってしまった。
- 私の身の回りでも、進学におけるコロナウイルスの影響が非常に大きい。
- コロナ禍で史料調査や留学など先の見通しがたたない、見通しがたたないことで各種給付型奨学金への申請が困難であった。
- コロナによる本業の業務の増加と、研究対象の変更により、論文執筆が思うように進まない。
- 通信制の大学院で研究している短大教員です。とくにコロナが拡大してからは、自身の職場において新しい生活様式に合わせ授業内容・授業環境の変更を行う等、新たな仕事に追われており、大学院の研究のための時間を確保することが困難な状況にあります。
- コロナ禍のため先生にメールで質問してもお返事をいただけない。
- コロナの影響もあり、他大学の研究者との交流する機会がなかった。
- コロナウイルスの影響で、心身ともに疲れている学生は増えている。
- 最終学年でありながらコロナで大学に行けなくなってしまった。
- 新型コロナの関係で、一番研究にふさわしい場所である大学の図書館や公共図書館などが閉鎖や利用制限がされているため、研究時間と質に非常に影響する。
- 新型コロナの影響で研究自体が止まって休学しているがそれに対する救済措置などは一切ない。
- コロナにより、さまざまな制約や精神的なことから、当初描いていた研究ができなかった。
- 新型コロナウイルス感染症は、研究時間だけでなく、学びの環境に大きく影響している。
- コロナの影響により、実習の制度がうまく活用できず、大学院の充実度が下がった。

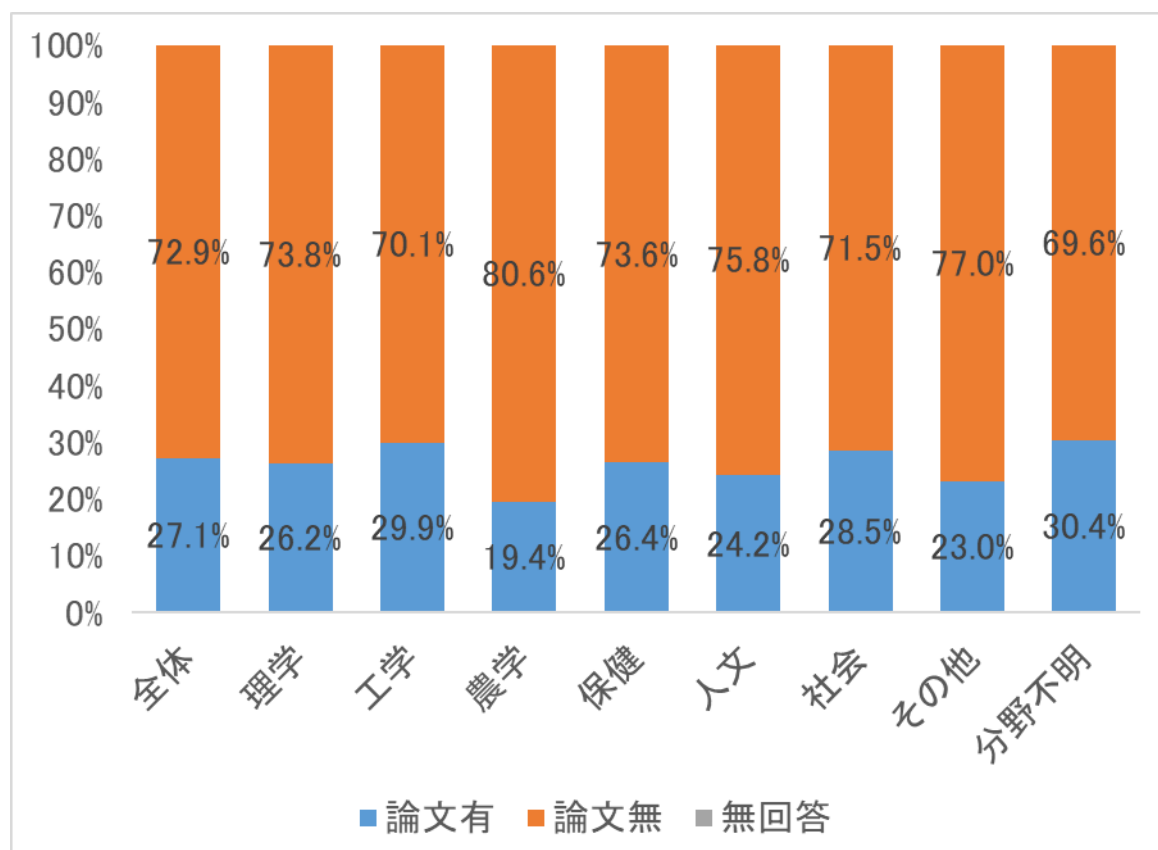
- 医学科なので、新型コロナウイルス感染症によって研究時間が減ったかどうかは、実習期間が減った。
- コロナ禍でリモート授業になったものの、指導教授が情報機器の不慣れを言い訳に、この一年間全く授業をがなかった。
- 新型コロナウイルスの影響で海外の大学へ訪問すること、海外でのフィールド調査を行うことができず苦労した。
- 調査対象施設や大学院がコロナ感染による活動自粛や中止中でしたが、居住地が地方であるため却ってオンライン・Zoom使用の指導がよかった。
- コロナの影響で研究時間は減りはしないが入構できない分、研究内容変更した。
- コロナの影響で大学に通うことが出来なかったが、授業料が正規料金というのは非常につらかった。図書館も利用できず、論文執筆は苦慮した
- コロナの影響でやりたかった研究ができなかった。研究費用を返してほしい。
- 文系大学院生(外国語文学や美術・哲学研究)のコロナウィルス禍での影響や実情について調査、把握と政策提言を進めてほしい。留学ができないまま卒業しようとしているため、実績も就職先も進学先もない人が多いはず。コロナ禍でも学費を納め続けられる人(・家庭)、留学の機会まで金銭的に耐え忍ぶことができる人のみが研究職を目指せるという環境になってしまった。
- 今年はコロナの影響が強く、生体を被験対象とする実験は思うように進めることが出来なかった。
- 「コロナ禍の研究において苦労したこと」という項目を設けても良かったのではないかな。私の場合は、公務員試験の延期や図書館の閉館などにより、文献収集と研究へのモチベーションを保つことに苦労した。
- コロナの影響で研究がしにくくなった。具体的には、先生にスムーズに指導をいただけない、ワークショップなど人が集まる実験ができない、他の学生の研究状況が見えにくい、通信費用や設備への費用がかかる、大学の設備が使えない(作業や実験ができない)等。
- 実験を主体とする自分の所属する研究室ではコロナにより大幅に時間が制限されつつも、対外発表が必要な状況で、実験装置のトラブルを抱えてる状況で成果との板挟みになっている。
- 修士課程の援助につきまして、奨学金返済免除を12月までの研究成果で判断する現状を改善していただきたい。12月程度に研究結果は出揃うが、それを論文等にし、査読を終えるまで数ヶ月かかる。特に今年は新型コロナウイルスの影響で、研究機会や発表機会の減少、遅れが生じている。
- コロナの影響で元々の研究ができなくなり、新しく研究内容を変更した。
- コロナ禍で一部の外国人就学生が留学環境に適應できないでいる。

- コロナの影響で休校・オンライン授業を余儀なくされ、少なからず、研究の進行に遅れがでた。国公立であるからこそ、休校した期間の授業料は返金すべきだと思う。
- 「新型コロナウイルス対応のため」、という名目の下で、大学構内への立ち入り及び図書館の利用制限が非常にきつく、とてもじゃないがまともな研究をする環境が全くもって構築されていない。
- 卒業に必要な単位は博士前期 1 年時に、ほぼ取得し終えていました。しかし、学費を払っている以上、よりたくさん学びたかった。コロナウイルス流行の影響で、大学構内の施設の利用、講義、フィールドワークなど様々なところが思い描いていたようにはいかなかった。学費はそのまま変わらず、充実した学びの機会を奪われた。
- コロナの影響に関しては、研究時間の増減だけではなく、研究協力先の確保が難しいこと、予定していた修業年数を超えるかもしれない不安なども多くの大学院生の中で問題になっていた。

9. 研究成果

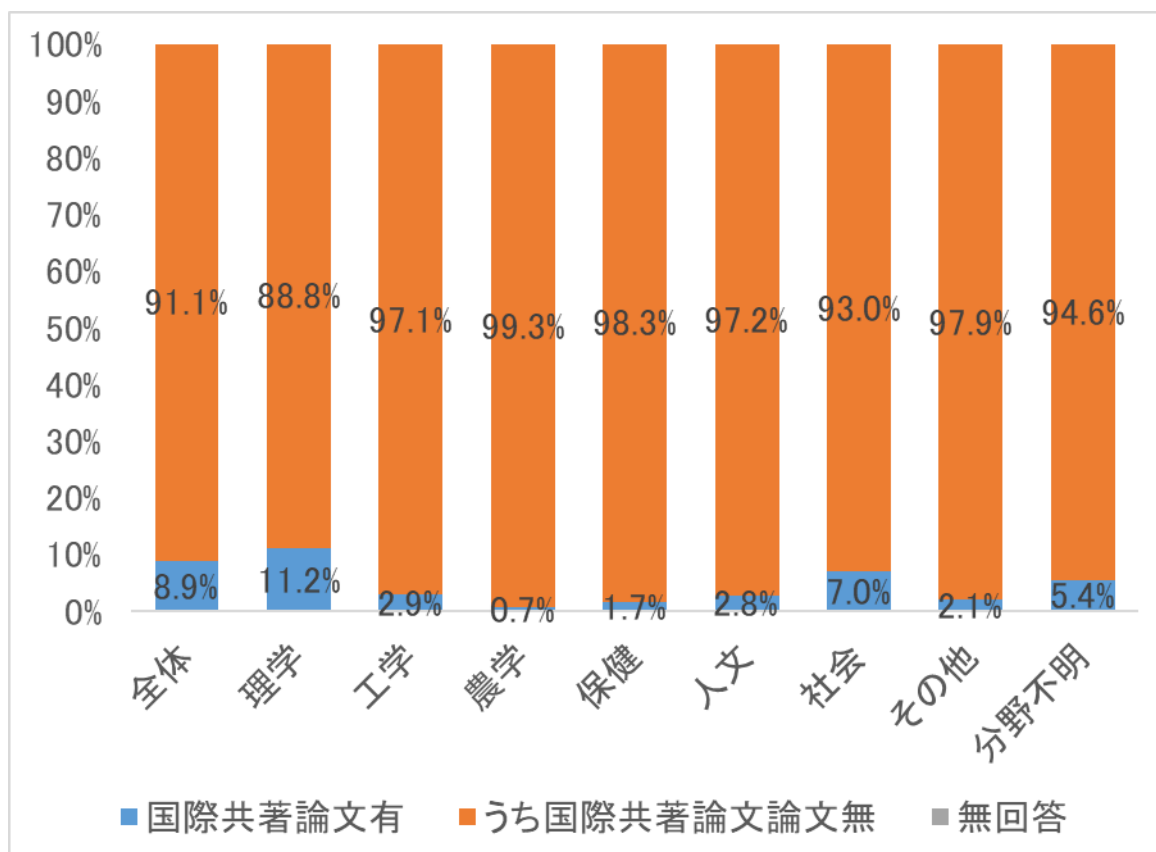
修士課程在学中の査読付きの論文及びうち国際共著論文を尋ねたところ、全体では 72.9%が論文無と回答、論文有と回答した者を分野別でみると、工学が 29.1%で最も高かった(図 9-1)。

図 9-1 論文数の有無



論文のうち国際共著論文については、全体で 8.9%が国際共著論文有と回答、分野別では理学が 11.2%で最も高く、次いで社会が 7.0%と続いた(図 9-2)。

図 9-2 国際共著論文の有無



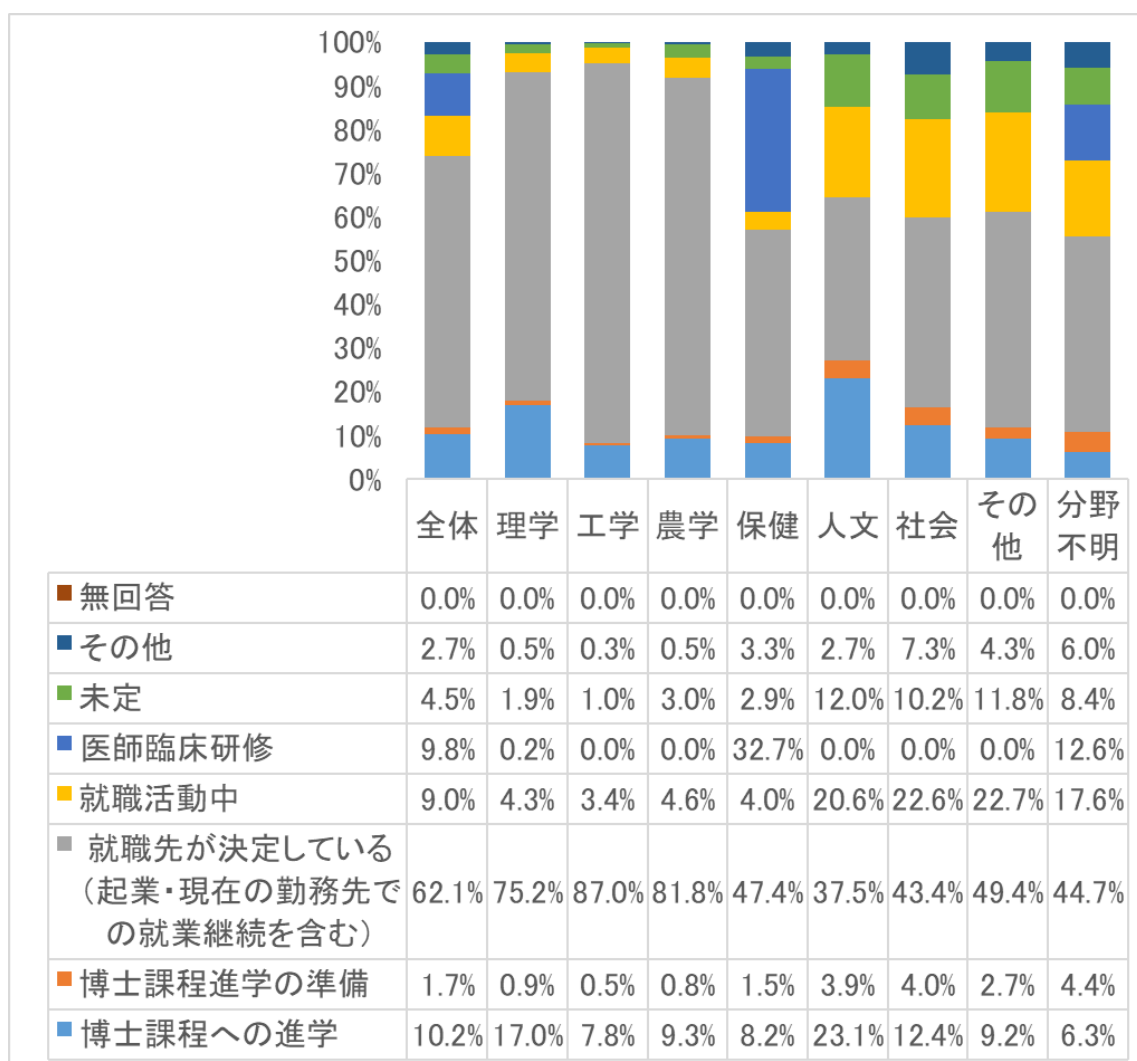
10. 進路

10-1 進路の状況

在籍者に進路予定に尋ねたところ、全体では「就職先が決定している」が62.1%で最も高く、次いで「博士課程への進学」が10.2%と続いた。「就職先が決定している」を分野別でみると、工学が87.0%で最も高く、次いで農学が81.8%と続いた。「博士課程への進学」においては、人文が23.1%で最も高く、次いで理学17.0%と続いた(図10-1)。

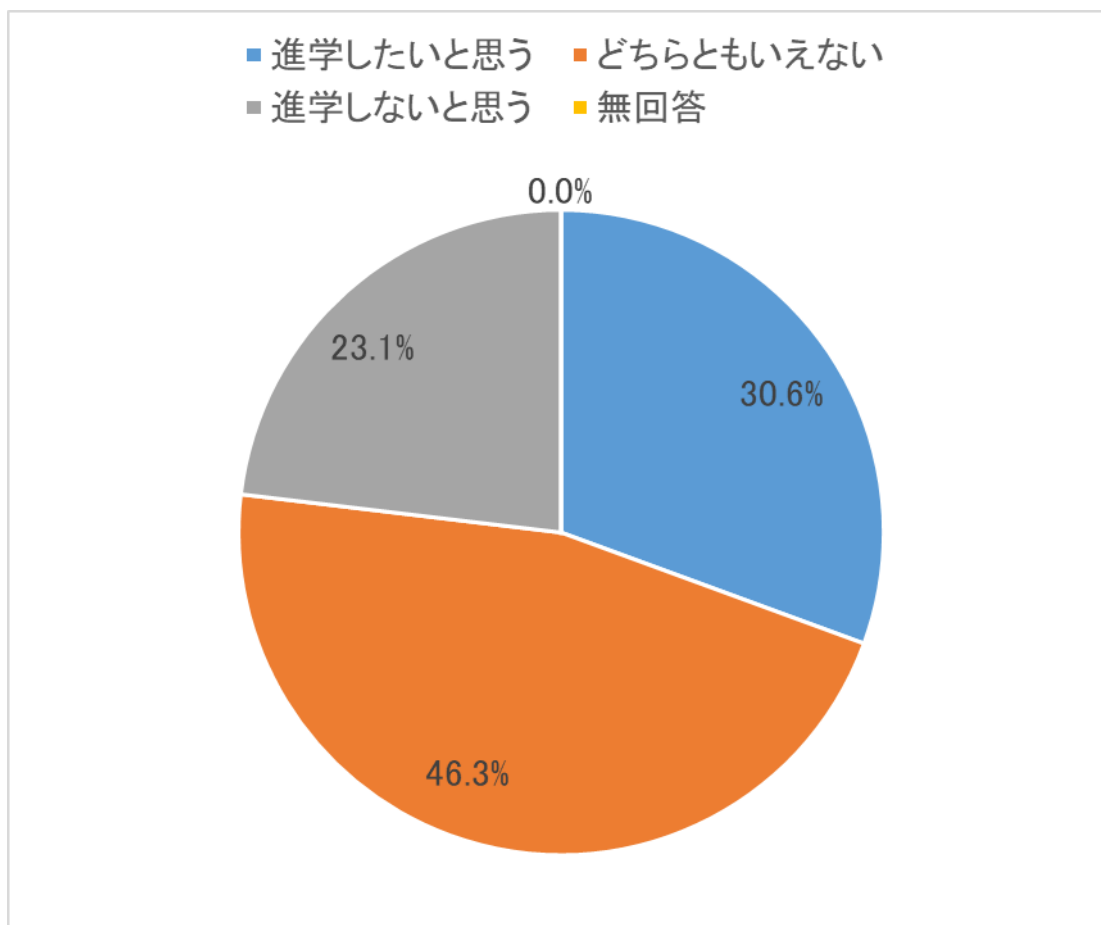
2009年調査報告においては、博士課程への進学者は12.8%となった。分野別でみると、理学は工学と比較して進学率が高い傾向があったが、12年後の現在においてもその傾向に変化はなかった。

図 10-1 進路予定



進路予定において、「医師臨床研修」との回答者には、終了後に博士課程へ進学したいかどうかを尋ねたところ、30.6%が進学を希望した(図 10-2)。

図 10-2 医師臨床研修後の博士課程進学について



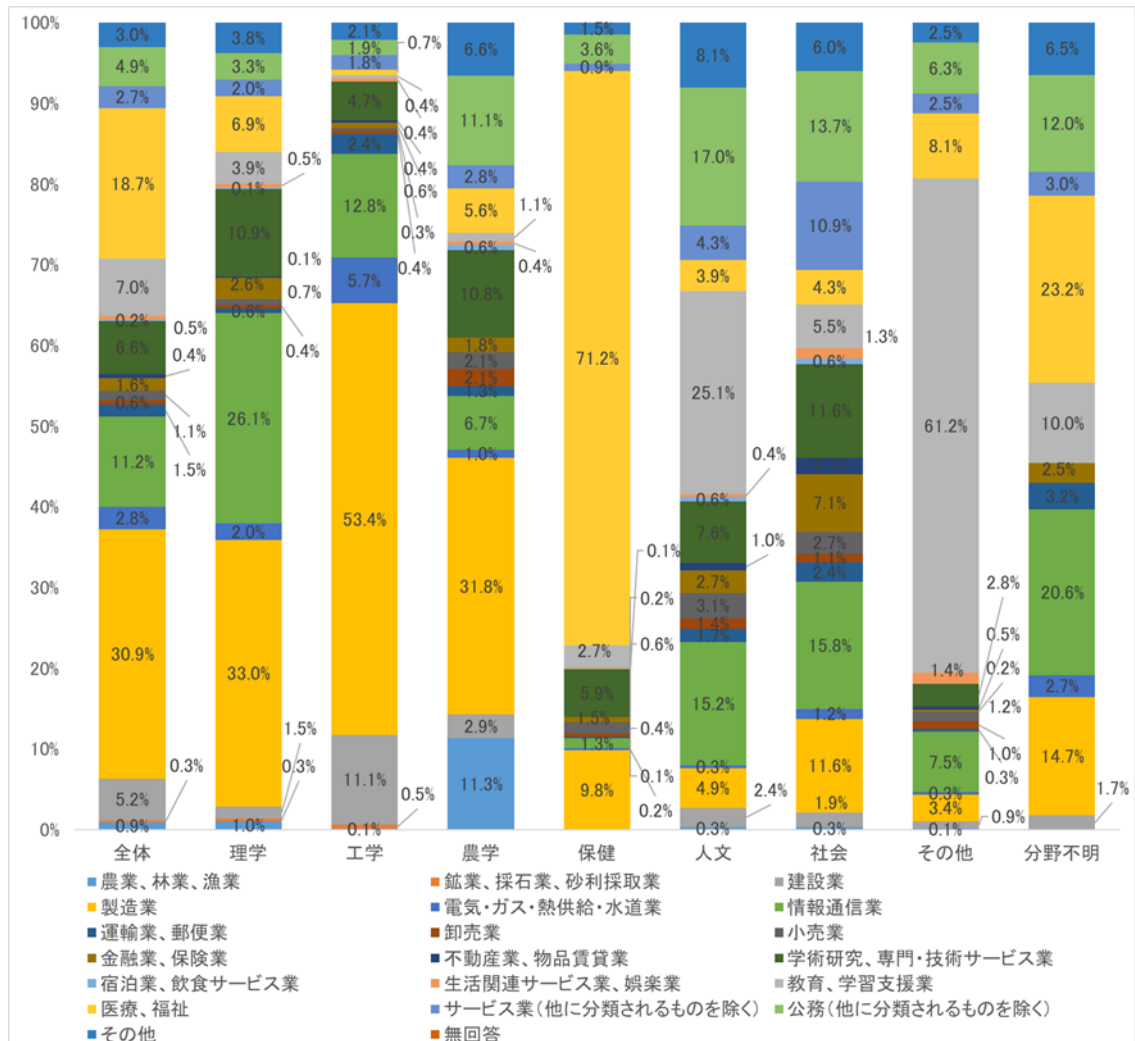
10-2 就職先

「就職先が決定している」と回答した者に、就職先の事業内容について、日本標準産業分類¹⁸から回答してもらったところ、全体では製造業が 30.9%で最も高く、次に医療、福祉 18.7%、情報通信業 11.2%と続いた。分野別に関しては、理学、工学、農学は製造業、保健は医療、福祉、人文は教育・福祉、社会は情報通信業が、それぞれ高かった(図 10-3)。

¹⁸ 日本標準産業分類(平成 25 年 10 月改定、平成 26 年 4 月 1 日施行)の大分類を以下のように一部改変している。

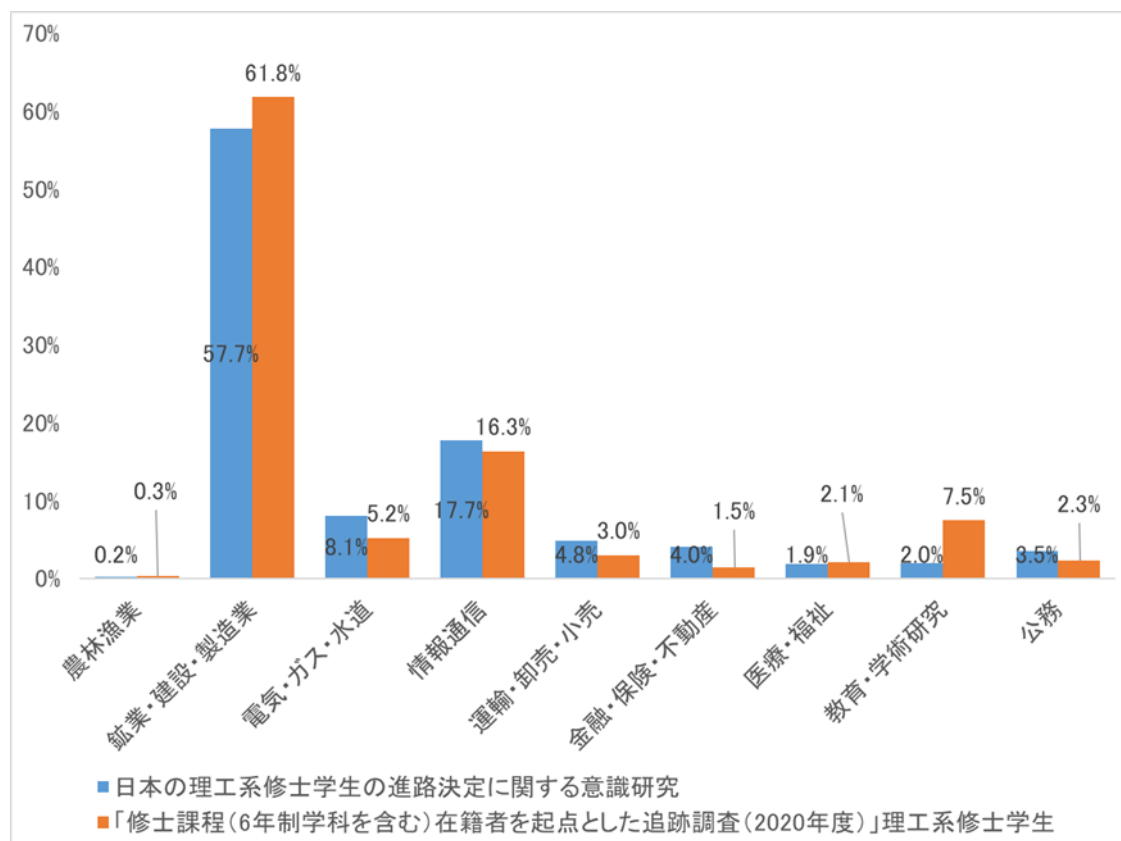
日本標準産業分類 大分類	博士人材追跡調査(雇用先の事業内容)
A 農業, 林業	農林水産業
B 漁業	
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	鉱業
D 建設業	建設業
E 製造業	製造業
F 電気・ガス・熱供給・水道業	電気・ガス・熱供給・水道業
G 情報通信業	情報通信業
H 運輸業, 郵便業	運輸業, 郵便業
I 卸売業, 小売業	卸売業
	小売業
J 金融業, 保険業	金融業, 保険業
K 不動産業, 物品賃貸業	不動産業, 物品賃貸業
L 学術研究, 専門・技術サービス業	学術研究, 専門・技術サービス業
M 宿泊業, 飲食サービス業	宿泊業, 飲食サービス業
N 生活関連サービス業, 娯楽業	生活関連サービス業, 娯楽業
O 教育, 学習支援業	教育, 学習支援業
P 医療, 福祉	医療, 福祉
Q 複合サービス 事業	サービス業(他に分類されないもの)
R サービス業(他に分類されないもの)	
S 公務(他に分類されるものを除く)	公務(他に分類されるものを除く)
T 分類不能の産 業	その他

図 10-3 就職先の事業内容



2009 年調査報告において、国内の 12 大学の工学・理学・理工学・情報学等を専攻する修士学生のうち、修士課程修了に就職する学生に就職先業種を尋ねたところ、約 5 割が鉱業、建設、製造業に就職し、次いで情報通信分野に就職することが報告されていた。本調査の理学、工学と比較すると、12 年経過してもその傾向に変化はなかった(図 10-4)。

図 10-4 就職先の事業内容(2009 年調査報告と本調査の比較)



10-3 就職先の仕事

「就職先が決定している」と回答した者に、最新の「日本標準職業分類¹⁹」の中分類で就職先の仕事を尋ねたところ、最も多かったのは、理学で情報処理・通信等技術者の 25.9%、工学で製造技術者(開発)の 41.3%、農学で研究者(自然科学系)の 16.6%、保健で薬剤師の 47.3%、人文で学校教員(高等学校)の 12.5%、社会で営業・販売事務従事者の 12.5%であった。

表 10-1 就職先の仕事

	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
管理的公務員	2.1%	2.0%	0.9%	5.3%	1.0%	3.5%	7.4%	2.5%	7.7%
法人・団体役員	0.5%	0.1%	0.2%	0.5%	0.0%	1.1%	2.4%	1.1%	3.0%
法人・団体管理職員	0.8%	0.3%	0.3%	0.7%	0.3%	3.3%	4.1%	0.7%	0.0%
その他の管理的職業従事者	0.6%	0.5%	0.5%	0.0%	0.1%	1.1%	2.8%	0.5%	1.5%
研究者(自然科学系)	6.6%	12.7%	5.5%	16.6%	8.5%	0.0%	0.3%	0.6%	0.0%
研究者(人文科学系)	0.3%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%	3.1%	1.1%	0.2%	0.0%
農林水産技術者	0.4%	0.6%	0.0%	5.9%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
製造技術者(開発)	21.8%	23.8%	41.3%	16.3%	5.7%	0.2%	1.8%	1.3%	4.5%
製造技術者(開発を除く)	5.3%	5.6%	9.7%	6.0%	1.8%	0.0%	0.2%	0.4%	0.0%
建築・土木・測量技術者	4.7%	1.3%	10.3%	4.5%	0.0%	1.1%	0.7%	0.5%	1.7%
情報処理・通信等技術者(システム管理者、通信ネットワーク技術者)	9.3%	25.9%	11.2%	5.7%	1.3%	10.1%	9.0%	3.6%	13.1%
医師	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	1.5%
歯科医師	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%
獣医師	0.5%	0.1%	0.0%	8.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
薬剤師	11.3%	4.8%	0.0%	0.2%	47.3%	0.0%	0.1%	0.2%	2.0%
保健師、助産師、看護師	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%	0.0%	0.1%	0.2%	6.0%
医療技術・保健医療従事者(診療放射線技術師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、はり師等)	2.4%	0.0%	0.1%	0.5%	9.7%	0.0%	0.3%	1.4%	3.5%
社会福祉専門職業従事者(保育士、福祉相談指導等)	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.8%	1.9%	2.1%	0.0%
法務従事者(裁判官、弁護士、司法書士他)	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	0.2%	1.5%
経営・金融・保健専門職業従事者(公認会計士、税理士、社会保険労務士等)	1.6%	1.1%	0.3%	0.1%	0.4%	1.4%	12.0%	0.0%	3.4%
経営・業務コンサルタント	2.5%	2.6%	1.7%	2.5%	0.8%	4.2%	9.7%	1.5%	1.5%
学校教員(幼稚園) 特別支援等学校含む	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	4.3%	0.0%
学校教員(小・中学校) 特別支援等学校含む	2.8%	0.6%	0.0%	0.0%	0.4%	2.5%	0.4%	33.4%	1.6%
学校教員(高等学校) 特別支援等学校含む	1.8%	2.0%	0.2%	0.4%	0.0%	12.5%	1.0%	13.9%	1.5%
学校教員(高専、短大)	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.5%	0.2%	0.7%	1.5%
学校教員(大学、大学院)	0.5%	0.1%	0.0%	0.4%	1.3%	0.7%	0.8%	1.3%	2.4%
その他の教員	0.6%	0.3%	0.1%	0.2%	3.2%	1.0%	3.7%	1.5%	1.5%
宗教家	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	0.0%	0.1%	4.7%
著述家、記者、編集者	0.4%	0.3%	0.1%	0.7%	0.1%	1.9%	1.2%	1.0%	0.0%
美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	0.4%	0.0%	0.5%	0.1%	0.0%	0.6%	0.3%	2.0%	1.5%
音楽家、舞台芸術家、俳優等	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
その他の専門的職業従事者(図書館司書、学芸員、カウンセラー等)	0.8%	0.3%	0.1%	0.2%	0.5%	6.4%	0.9%	5.5%	0.0%
一般事務従事者(庶務事務員、人事事務員、受付、秘書)	1.0%	0.4%	0.0%	0.8%	0.2%	8.1%	5.1%	1.8%	3.8%
会計事務従事者(経理事務員等)	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	4.3%	0.0%	0.0%
生産関連事務従事者	0.3%	0.4%	0.1%	1.0%	0.1%	0.5%	0.8%	0.5%	0.0%
営業・販売事務従事者	3.3%	2.0%	1.2%	5.1%	2.4%	8.0%	12.5%	3.7%	1.7%
外勤事務従事者(集金人、調査員)	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%
運輸・郵便事務従事者	0.3%	0.1%	0.2%	0.5%	0.1%	0.7%	1.4%	0.1%	0.0%
事務用機器操作員	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
商品販売・営業職・販売類似職業従事者(小売店主、販売員等)	0.9%	0.6%	0.3%	3.5%	0.5%	2.2%	2.1%	1.7%	2.7%
家庭生活支援・介護サービス職業従事者	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.4%	0.0%
保健医療・生活衛生サービス職業従事者	0.4%	0.2%	0.0%	0.2%	1.2%	1.1%	0.3%	0.4%	2.9%
飲食物調理、接客従事者	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%
居住施設・ビル等管理人	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%
その他サービス職業従事者	0.7%	0.9%	0.3%	1.1%	0.7%	3.0%	1.1%	1.0%	1.8%
自衛官・司法警察職員、その他の保安職業従事者	0.3%	0.1%	0.0%	0.3%	0.4%	1.2%	1.0%	0.1%	1.8%
農・林・漁業技術者	0.1%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%
生産設備制御・機械組立設備制御・監視従事者	0.9%	0.5%	2.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%
製品製造・加工処理・機械組立・整備・修理従事者	1.4%	0.9%	2.7%	1.7%	0.3%	0.0%	0.2%	0.3%	4.0%
製品・機械検査・生産関連・生産類似作業従事者	1.1%	1.6%	1.5%	1.9%	0.7%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%
鉄道・自動車・船舶・航空機運転・その他輸送事業者	0.8%	0.2%	1.7%	0.4%	0.0%	1.0%	0.4%	0.2%	0.0%
定置・建設機械運転・建設・電気・土木工事従事者	0.8%	0.3%	1.8%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
その他	5.2%	6.1%	4.8%	6.0%	3.5%	9.4%	7.8%	5.8%	13.7%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

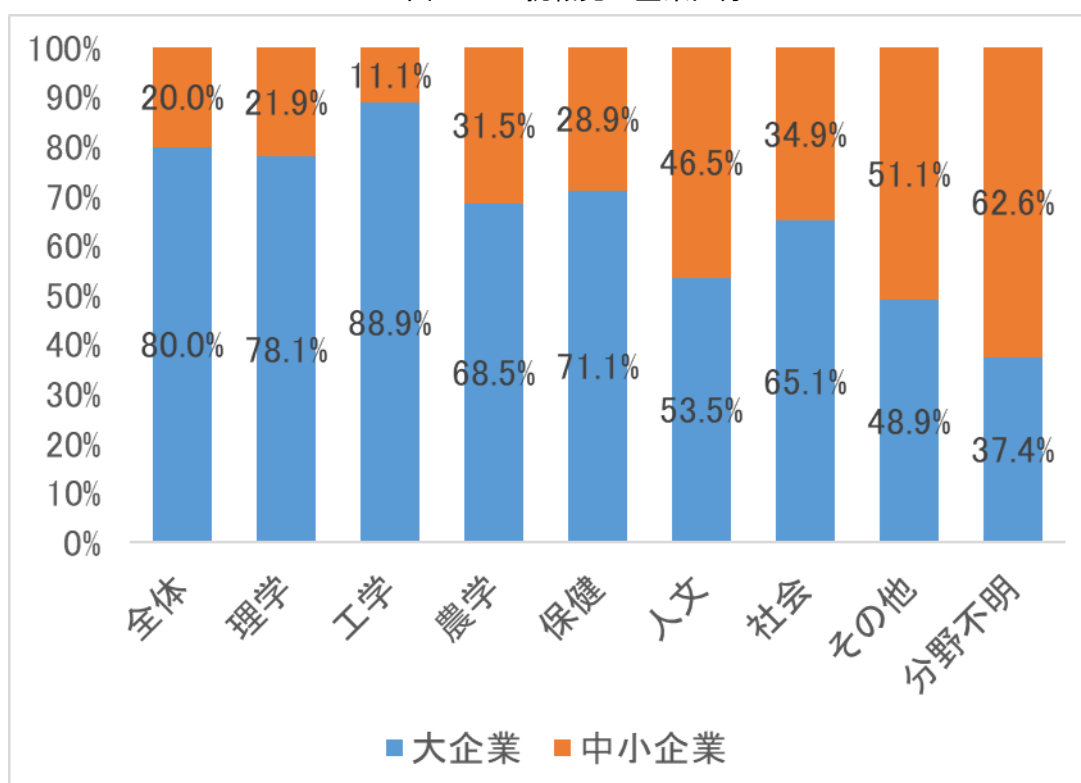
¹⁹ 平成 21 年 12 月統計基準設定

https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/shokgyou/21index.htm

10-4 雇用先の企業区分

「就職先が決定している」と回答した者に雇用先が大企業か中小企業²⁰かについて尋ねたところ、全体で大企業が 80.0%、中小企業が 20.0%であった。分野別に大企業に決定した割合が高い順をみると、工学が 88.9%、理学が 78.1%、保健が 71.1%、農学が 68.5%、社会が 65.1%、人文が 53.5%であった(図 10-5)。

図 10-5 就職先の企業区分



²⁰ 「中小企業」とは中小企業基本法(昭和三十八年法律第一百五十四号)第二条が規定するものをいう。

10-5 在学中に希望していた仕事

在籍者が希望していた(している)仕事(職業)を「日本標準職業分類」の中分類で尋ねたところ、分野別の特徴としては、理学、農学で研究者(自然科学系)がそれぞれ 41.6%、46.1%、工学で製造技術者(開発)が 51.7%、保健で医師が 28.5%と薬剤師が 26.9%、人文で研究者(人文科学系)が 35.8%と学校教員(大学、大学院)が 29.5%。社会で経営・業務コンサルタントが 21.4%と経営・金融・保険専門職業従事者が 17.9%で、分野による明らかな相違がみられた(表 10-2)。

表 10-2 在学中における希望職業

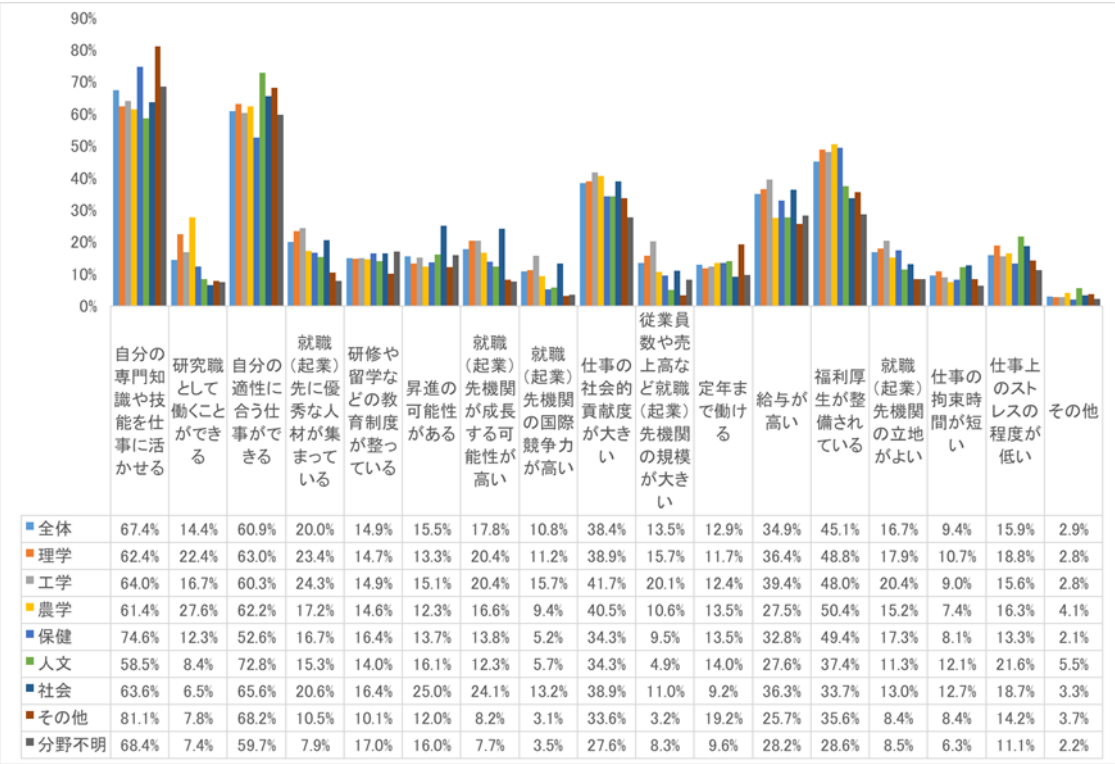
	全体	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他	分野不明
管理的公務員	4.8%	4.7%	3.0%	9.7%	2.3%	8.7%	10.8%	4.9%	6.3%
法人・団体役員	1.2%	1.3%	0.7%	1.4%	0.4%	2.3%	3.8%	1.2%	3.5%
法人・団体管理職員	1.6%	1.3%	0.7%	1.7%	0.5%	4.5%	5.4%	1.6%	2.9%
その他の管理的職業従事者	1.1%	0.8%	0.7%	0.5%	0.4%	1.6%	3.9%	0.7%	2.1%
研究者(自然科学系)	16.7%	41.6%	20.6%	46.1%	14.8%	0.4%	1.4%	3.1%	7.0%
研究者(人文科学系)	5.2%	1.0%	0.7%	1.7%	0.7%	35.8%	15.9%	9.6%	2.2%
農林水産技術者	1.2%	2.2%	0.2%	18.5%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
製造技術者(開発)	21.2%	30.0%	51.7%	28.9%	6.6%	0.2%	1.3%	1.3%	3.0%
製造技術者(開発を除く)	7.6%	9.8%	19.4%	10.1%	1.8%	0.1%	0.3%	0.4%	1.1%
建築・土木・測量技術者	3.7%	1.6%	10.9%	4.6%	0.0%	0.8%	0.7%	0.4%	0.8%
情報処理・通信等技術者(システム管理者、通信ネットワーク)	8.2%	25.8%	15.1%	4.2%	0.8%	3.8%	5.7%	2.2%	7.5%
医師	8.6%	0.2%	0.1%	0.2%	28.5%	0.0%	0.1%	0.1%	9.9%
歯科医師	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%
獣医師	0.4%	0.1%	0.0%	8.5%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
薬剤師	8.5%	4.5%	0.1%	0.1%	26.9%	0.0%	0.0%	0.2%	1.9%
保健師、助産師、看護師	1.9%	0.0%	0.0%	0.2%	6.1%	0.1%	0.2%	0.4%	2.7%
医療技術・保健医療従事者(診療放射線技術師、理学療法士、社会福祉専門職業従事者(保育士、福祉相談指導等))	3.5%	0.4%	0.3%	0.5%	10.0%	0.5%	0.3%	3.1%	3.5%
法務従事者(裁判官、弁護士、司法書士他)	0.9%	0.1%	0.0%	0.2%	0.4%	0.7%	2.7%	4.2%	1.5%
経営・金融・保健専門職業従事者(公認会計士、税理士、社会)	1.6%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.7%	9.9%	0.7%	0.7%
経営・業務コンサルタント	3.2%	1.8%	0.7%	1.2%	0.5%	1.2%	17.9%	0.2%	8.4%
学校教員(幼稚園) 特別支援等学校含む	5.9%	4.8%	4.7%	4.0%	1.6%	3.8%	21.4%	2.2%	6.7%
学校教員(小・中学校) 特別支援等学校含む	0.6%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	1.0%	0.5%	4.3%	1.5%
学校教員(高等学校) 特別支援等学校含む	3.8%	2.9%	0.4%	1.0%	0.4%	9.2%	1.8%	28.2%	5.2%
学校教員(高専、短大)	4.2%	6.4%	1.3%	2.0%	0.5%	19.8%	3.5%	18.2%	4.5%
学校教員(大学、大学院)	1.9%	1.6%	0.9%	0.8%	0.6%	9.0%	2.9%	5.5%	5.4%
その他の教員	8.8%	6.6%	3.8%	4.8%	6.5%	29.5%	14.7%	17.2%	7.1%
宗教家	1.7%	0.9%	0.3%	0.2%	0.6%	7.6%	3.0%	6.1%	3.5%
著述家、記者、編集者	0.3%	0.4%	0.1%	0.3%	0.1%	2.9%	0.4%	0.2%	2.1%
美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	1.8%	1.5%	0.7%	1.3%	0.5%	11.9%	4.2%	2.1%	1.4%
音楽家、舞台芸術家、俳優等	1.9%	0.8%	1.6%	0.5%	0.5%	3.0%	1.8%	8.2%	1.4%
その他の専門的職業従事者(図書館司書、学芸員、カウンセ	1.0%	0.7%	0.3%	0.4%	0.5%	1.7%	0.5%	5.6%	0.0%
一般事務従事者(庶務事務員、人事事務員、受付、秘書)	2.4%	1.1%	0.2%	1.2%	0.5%	13.2%	1.8%	12.8%	0.8%
会計事務従事者(経理事務員等)	1.9%	1.0%	0.3%	1.1%	0.4%	9.5%	6.3%	3.0%	7.7%
生産関連事務従事者	0.8%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.7%	4.7%	0.3%	2.8%
営業・販売事務従事者	0.6%	0.8%	0.6%	1.6%	0.2%	0.6%	1.5%	0.3%	0.0%
外勤事務従事者(集金人、調査員)	3.2%	2.4%	1.5%	5.4%	1.6%	4.3%	9.8%	2.8%	3.5%
運輸・郵便事務従事者	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.4%	0.7%	0.3%	0.0%
事務用機器操作員	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.1%	0.3%	1.1%	0.1%	0.8%
商品販売・営業職・販売類似職業従事者(小売店主、販売員)	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%
家庭生活支援・介護サービス職業従事者	1.1%	0.6%	0.5%	2.2%	0.5%	2.9%	2.8%	0.9%	3.7%
保健医療・生活衛生サービス職業従事者	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%	0.7%
飲食物調理、接客従事者	0.9%	0.2%	0.0%	0.7%	2.3%	0.2%	0.5%	1.2%	0.7%
居住施設・ビル等管理人	0.3%	0.1%	0.1%	0.7%	0.3%	0.3%	0.5%	0.4%	0.0%
その他サービス職業従事者	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%
自衛官・司法警察職員、その他の保安職業従事者	0.9%	1.0%	0.5%	1.0%	0.5%	2.4%	2.2%	0.6%	1.4%
農・林・漁業技術者	0.4%	0.5%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.7%	0.6%	0.8%
生産設備制御・機械組立設備制御・監視従事者	0.7%	1.1%	0.2%	10.2%	0.1%	0.5%	0.3%	0.0%	0.7%
製品製造・加工処理・機械組立・整備・修理従事者	1.6%	1.4%	4.5%	2.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%
製品・機械検査・生産関連・生産類似作業従事者	2.5%	2.7%	7.0%	2.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	1.8%
鉄道・自動車・船舶・航空機運転・その他輸送事業者	2.4%	3.4%	6.2%	2.8%	0.6%	0.1%	0.2%	0.3%	1.9%
定置・建設機械運転・建設・電気・土木工事従事者	1.7%	1.5%	4.6%	1.2%	0.1%	0.8%	0.6%	0.3%	0.8%
その他	0.9%	0.5%	2.7%	0.5%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.8%
希望している(いた)仕事はない	4.7%	4.6%	3.8%	4.0%	2.6%	8.3%	7.8%	7.6%	9.4%
	3.7%	4.6%	4.1%	4.5%	1.9%	7.7%	4.9%	3.6%	11.2%

10-6 就職先選択の理由

「就職先が決定している」または「就職活動中」と回答した者に、就職先を選ぶ際に、重視した（重視する）ことを尋ねると、全体では「自分の専門知識や技能を仕事に活かせる」が 67.4%で最も高く、次いで「自分の適性にある仕事ができる」が 60.9%と続いた。分野別でみると、工学、保健においては「自分の専門知識や技能を仕事に活かせる」が 64.0%、74.5%と最も高く、理学、農学、人文、社会においては、「自分の適性に合う仕事ができる」がそれぞれ 63.0%、62.2%、72.2%、65.5%と最も高かった（図 10-6）

2009年調査報告における就職に際して重視する事項として選んでいるのは、就職に際して、回答者が1番重視する事項として選んでいるのは、「適性に合う仕事であること(30.2%)」、「専門知識や技能を仕事に活かせること(22.4%)」、「社会的貢献が大きいこと(13.2%)」であった。2番目、3番目に重視する項目として、これら以外の上位項目として、給与の高さ(重視する順に8.4%、11.3%)や福利厚生を整備(8.5%、10.7%)が挙げられていた。

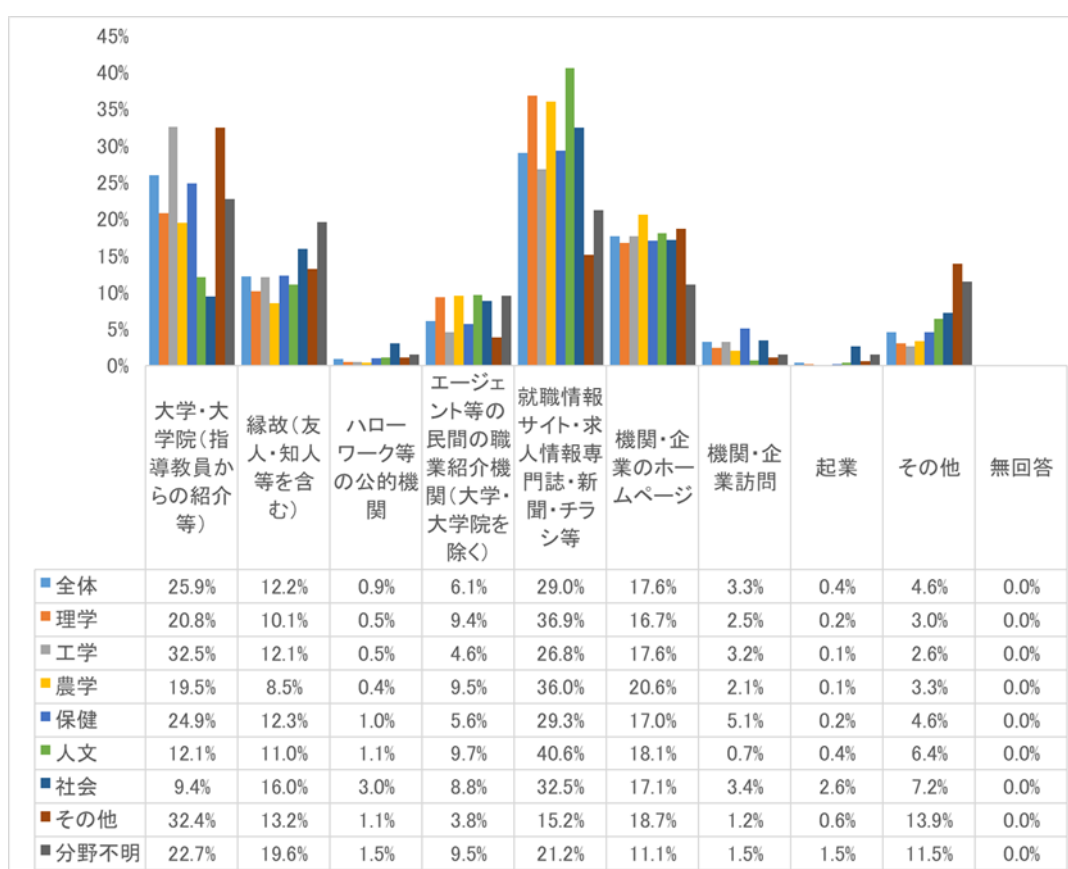
図 10-6 就職先を選択する際に重視した(する)事項(複数回答)



10-7 雇用先の入職経路

「就職先が決定している」と回答した者に、就職先の入職経路を尋ねたところ、全体では「就職情報サイト・求人情報専門誌・新聞・チラシ等」が29.0%で最も高く、次いで「大学・大学院(指導教員からの紹介等)」が25.9%と続いた。分野別にみると、理学、農学、保健、人文、社会においては、「就職情報サイト・求人情報専門誌・新聞・チラシ等」がそれぞれ36.9%、36.0%、29.3%、40.6%、32.5%で最も高く、工学においては「大学・大学院(指導教員からの紹介等)」が32.5%で、最も高かった(図10-7)。

図 10-7 雇用先の入職経路

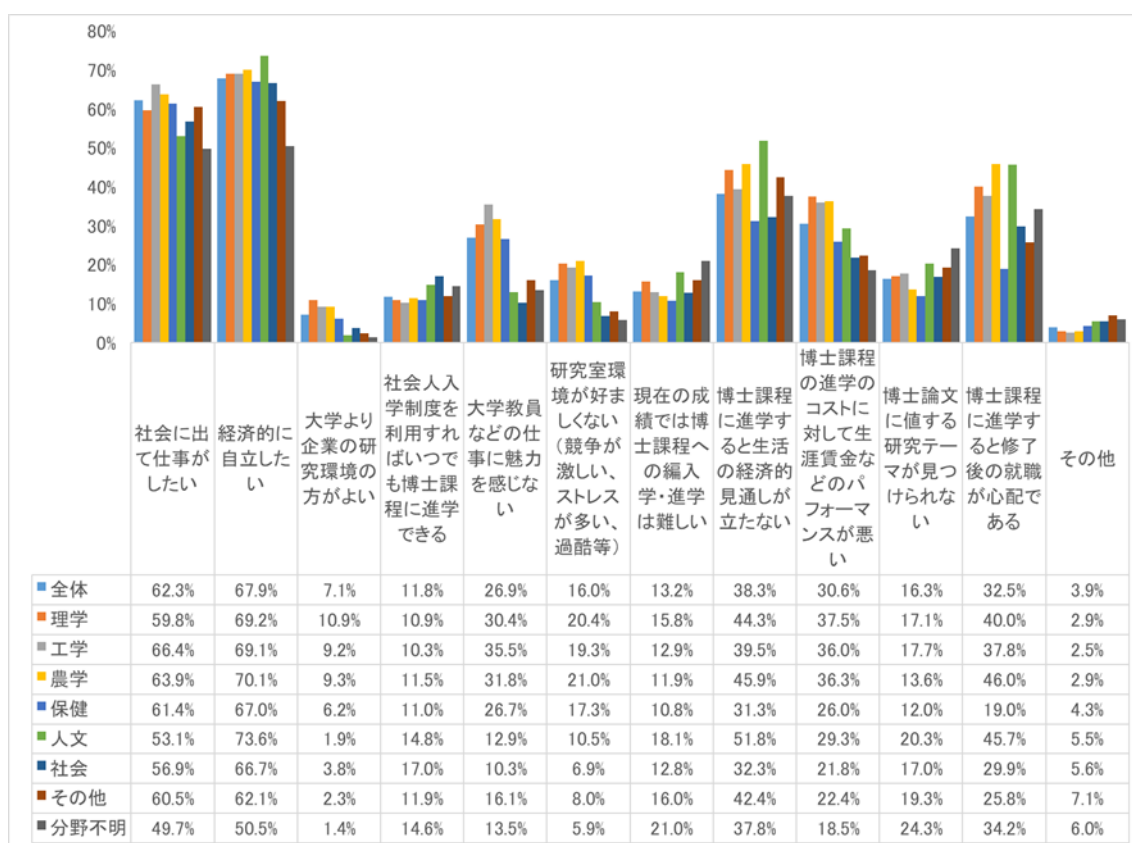


10-8 進学ではなく就職を選んだ理由

「就職先が決定している」または「就職活動中」と回答した者に、博士課程への進学ではなく就職を選択した理由を尋ねたところ、全体では「経済的に自立したい」が 67.9%で最も高く、次に「社会に出て仕事がしたい」が 62.3%と続く。分野間における違いはなく、「経済的に自立したい」が各分野とも最も高かった(図 10-8)。

2009 年調査報告においても就職を選択した主な理由は、経済的な理由や就職志望等(経済的に自立したい、博士課程に進学すると修了後の就職が心配である、博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない)であったが、12 年後の現在も就職を選択した理由に変化はなかった。

図 10-8 就職を選んだ理由

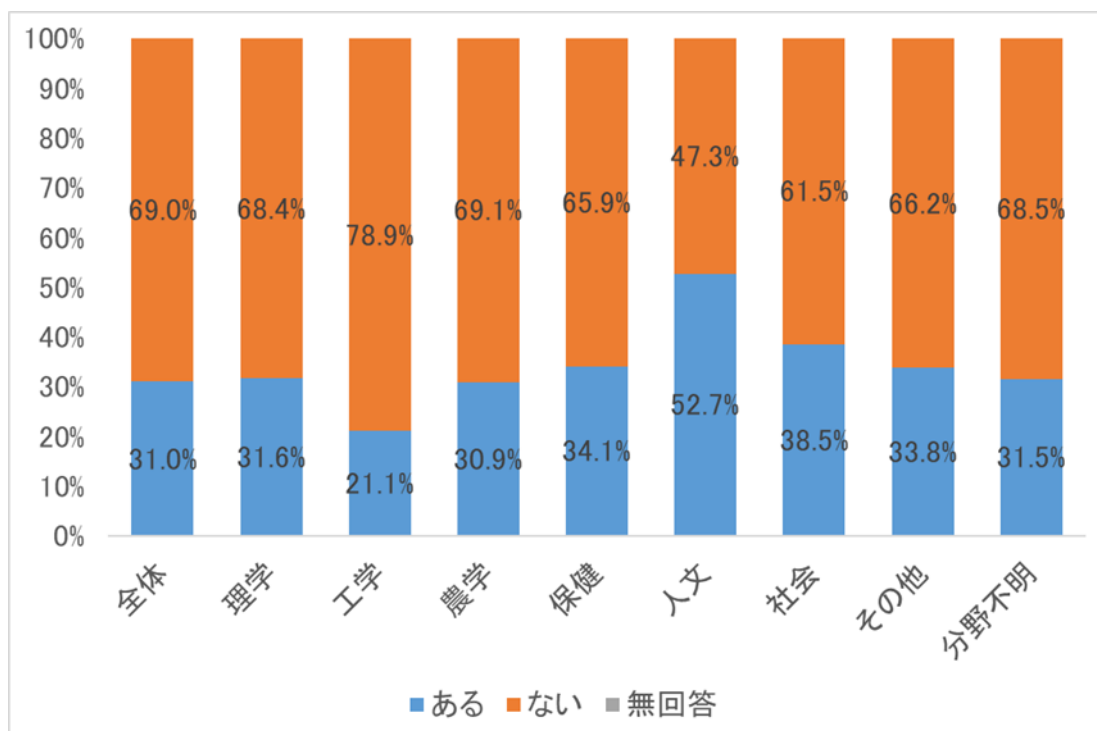


10-9 博士課程への進学検討

「就職先が決定している(起業・現在の勤務先での就業継続を含む)」「就職活動中」「医師臨床研修」「未定」「その他」と回答した者に、在籍中に博士課程への進学を検討したことがあるかどうかを尋ねたところ、全体では「ある」と回答した者が31.0%、「ない」と回答した者が69.0%となった。分野別にみると、全体と人文以外は似た傾向だが、人文においては、在学中に博士課程への進学を検討したことが「ある」と回答した者が52.7%と5割を超えた(図10-9)。

2009年調査報告においても、約3割が博士課程への進学を検討したことがあると回答していることから、12年後の現在もその傾向に変化はなかった。

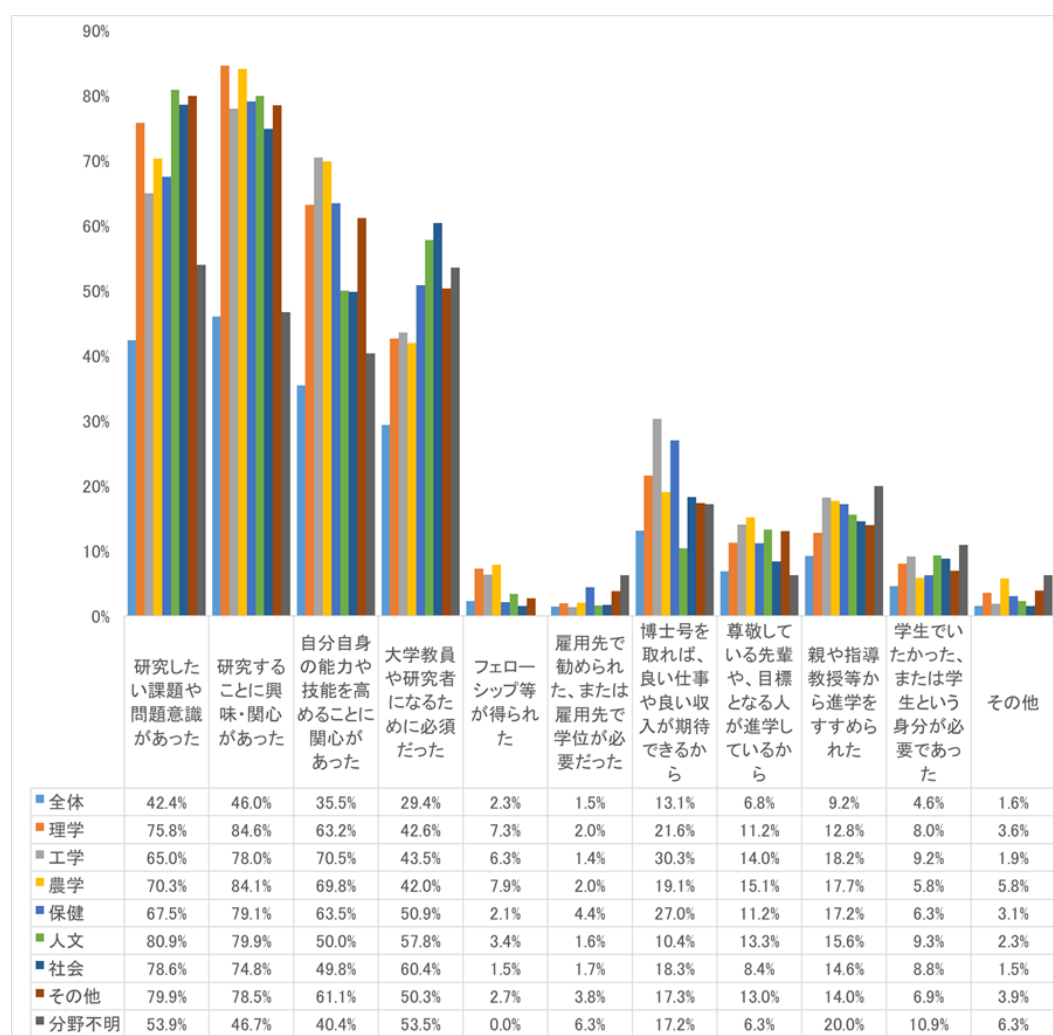
図 10-9 博士課程への進学検討の有無



10-10 博士課程への進学理由

博士課程進学予定者及び博士課程進学準備者に対して、進学理由を尋ねたところ、全体では、「研究することに興味・関心があった」、「研究したい課題や問題意識があった」、「自分自身の能力や技能を高めることに興味があった」、「大学教員や研究者になるために必須だった」の順であった。その次は「博士号を取れば、良い仕事や良い収入が期待できるから」であるが、その間には顕著な差(27.9ポイント差)があった。この結果は、分野により多少順位の入れ替えがあるものの、ほぼ同様であった。このうち工学については、「大学教員や研究者になるために必須だった」が43.5%であったのに対し、その次の「博士号を取れば、良い仕事や良い収入が期待できるから」が30.3%と13.2ポイント差であり、他の分野では20ポイント以上の開きがあったのと比べると差が小さかった(図10-10)。

図 10-10 博士課程への進学理由（複数回答）

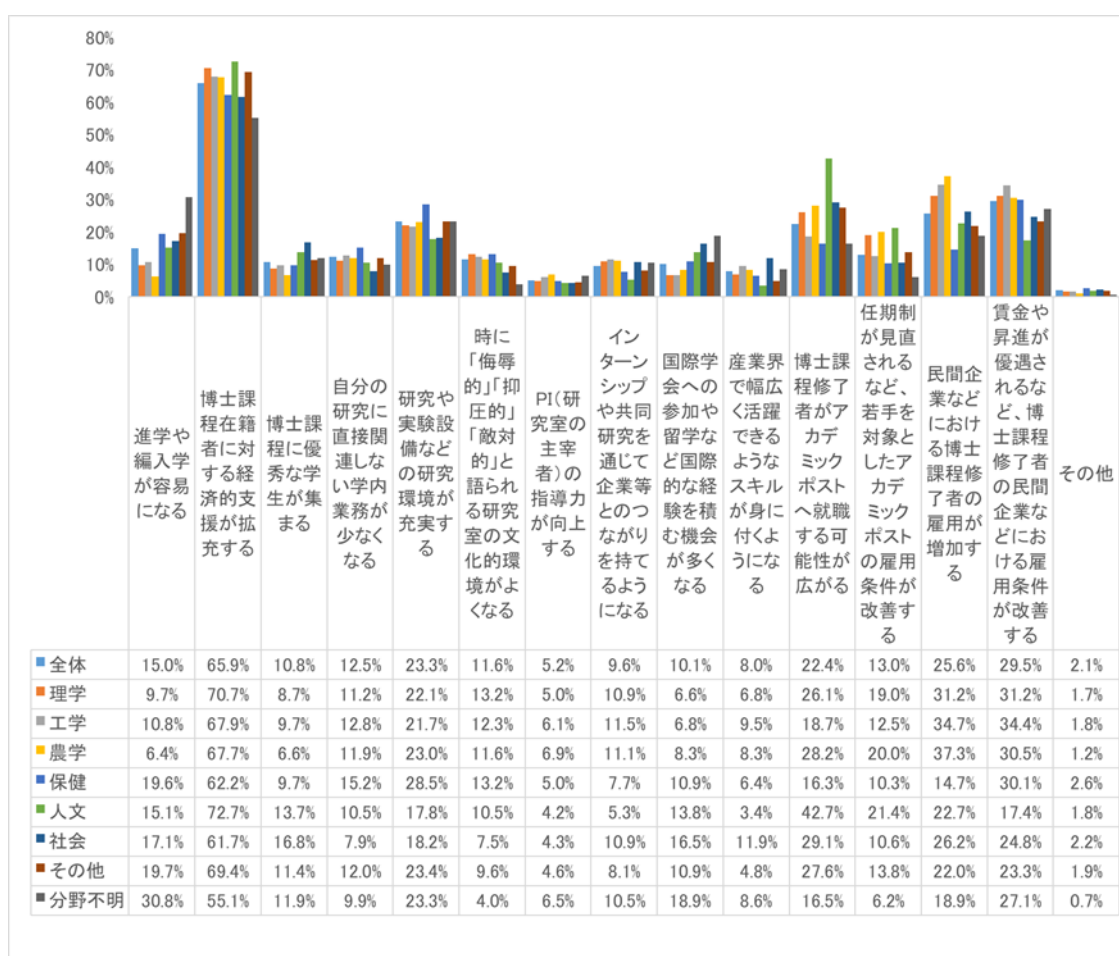


11. 博士課程進学に対する政策への提言

日本国内の大学院博士課程への進学を検討する場合、どのような条件が整うことが重要かを尋ねた。これは2009年調査報告と同じ質問である。全体としては「博士課程在籍者に対する経済的支援が拡充する」が一番多く、二番目が「賃金や昇進が優遇されるなど、博士課程修了者の民間企業などにおける雇用条件が改善する」、三番目が「民間企業などにおける博士課程修了者の雇用が増加する」であった。分野別では、理学、工学、農学、社会が全体と同じ傾向であったが、保健の二番目は「研究や実験設備などの研究環境が充実する」、人文の二番目は「博士課程修了者がアカデミックポストへ就職する可能性が広がる」であった(図11-1)。

2009年調査報告でも、博士課程への進学を考える重要な条件として「経済的支援の拡充」が最多で、次が「民間企業による博士課程修了の雇用増加」であった。12年経過した現在も未だ変わっていないかった。

図 11-1 博士課程進学を検討する条件

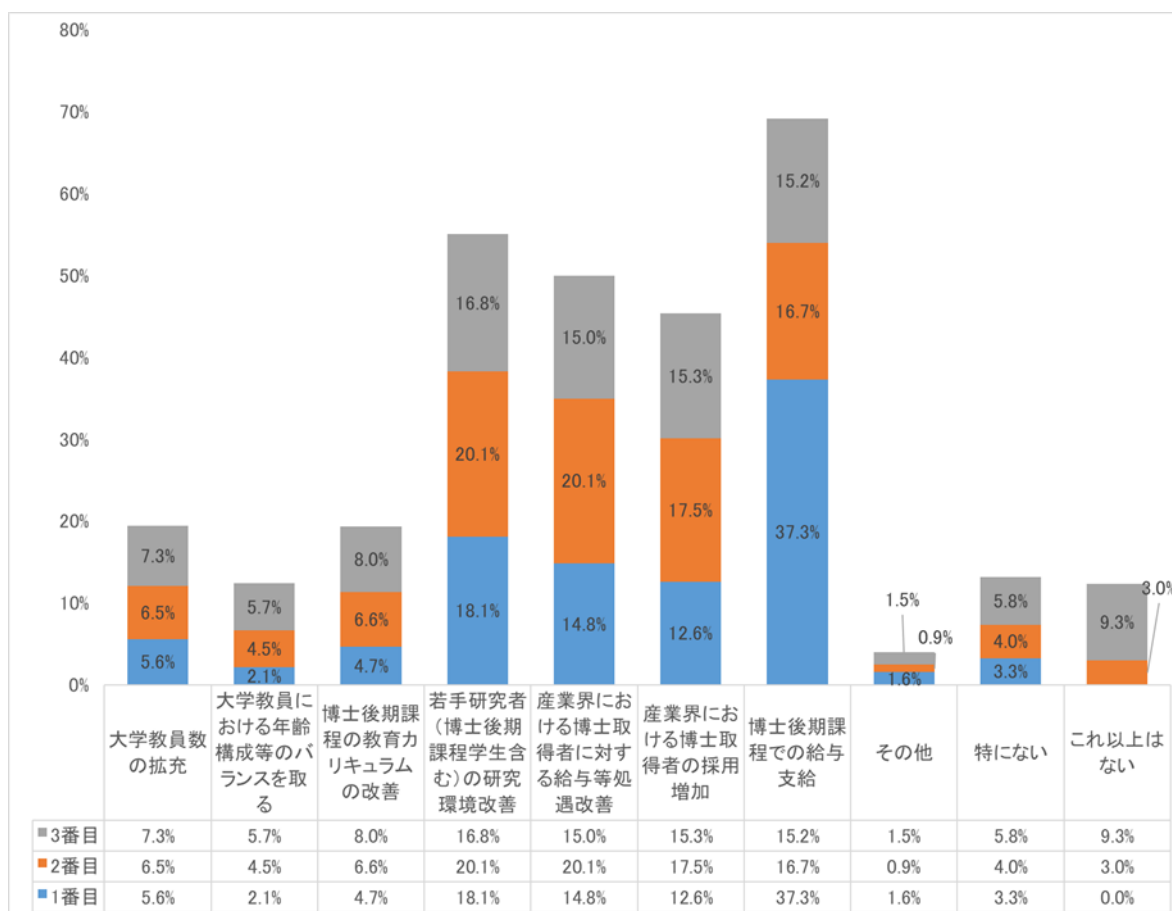


在籍者の観点から博士課程への進学者を増加させるための政策として一番効果的と考えるものを順番に3つまで尋ねた。結果、「博士課程での給与支給」が最も高く、次いで「若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善」、「産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善」、「産業界における博士取得者の採用増加」と続いた。これら4つの政策が上位となる傾向は二番目や3番目に効果的と考える政策でも同様の傾向にあった(図11-2)。

この質問は内閣府がとりまとめて2020年8月に公表した、日本電信電話株式会社(NTT)、富士通株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングスの3社がそれぞれ2019年1月から3月にかけて実施した博士課程修了後入社した社員及びポストドクター等を経験後入社した社員に対するアンケート調査の質問と同じである。この調査においても「博士後期課程での給与支給」「産業界での給与改善」が効果的との意見が多数を占めていた²¹。

以上から、博士課程進学者を増加できる効果的な政策として、博士課程での給与支給や就職後の給与改善といった博士人材への経済的な優遇が求められていることがわかった。

図 11-2 博士課程進学者を増加させるための重要な政策



²¹ 日本電信電話株式会社(NTT)、富士通株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングス「博士入社社員を対象とした集計結果」(2020年8月)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20200806/siryo3.pdf>

分野別にみると、どの分野においても一番目は「博士課程での給与支給」であるが、二番目に重要なものは分野による違いがあった。理学、保健、人文、社会は、「若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善」、工学は「産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善」、農学は「産業界における博士取得者の採用割合」であった(表 11-1)。

表 11-1 博士課程進学者増加のために重要な政策(分野別)

	理学			工学			農学			保健			人文			社会			その他			分野不明		
	1番目	2番目	3番目	1番目	2番目	3番目	1番目	2番目	3番目	1番目	2番目	3番目	1番目	2番目	3番目	1番目	2番目	3番目	1番目	2番目	3番目	1番目	2番目	3番目
大学教員数の拡充	5.1%	5.9%	7.6%	3.9%	5.3%	6.6%	5.7%	4.6%	7.5%	4.4%	5.7%	6.7%	9.8%	10.3%	12.1%	8.4%	8.0%	7.7%	8.7%	10.1%	8.5%	8.2%	8.1%	6.1%
大学教員における年齢構成等のバランスを取る	1.6%	3.3%	4.8%	1.6%	3.7%	5.7%	1.6%	4.6%	6.0%	2.1%	4.5%	6.0%	2.1%	6.0%	5.4%	2.8%	5.7%	5.9%	3.6%	5.7%	5.8%	3.2%	6.2%	6.6%
博士後期課程の教育カリキュラムの改善	2.9%	5.1%	5.7%	3.2%	4.5%	6.4%	1.4%	3.2%	8.1%	5.6%	8.2%	9.3%	5.2%	6.9%	9.0%	7.2%	8.1%	8.8%	5.8%	8.8%	9.0%	8.3%	7.9%	9.6%
若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善	16.4%	20.1%	18.8%	15.3%	19.1%	17.0%	17.8%	21.1%	16.6%	21.9%	20.6%	16.6%	19.9%	25.6%	16.8%	16.9%	18.7%	16.4%	17.3%	21.5%	15.4%	13.4%	10.1%	15.8%
産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善	12.6%	21.6%	16.6%	17.5%	23.9%	16.2%	12.1%	21.5%	17.7%	16.1%	18.9%	13.7%	7.5%	12.8%	12.1%	14.8%	19.4%	14.9%	9.3%	15.1%	13.7%	13.4%	22.7%	10.1%
産業界における博士取得者の採用増加	13.4%	21.1%	17.8%	15.8%	20.6%	17.5%	19.8%	25.5%	14.9%	6.7%	13.0%	12.9%	14.2%	16.6%	14.1%	16.1%	18.2%	16.1%	11.0%	14.3%	13.0%	10.9%	14.3%	14.2%
博士後期課程での給与支給	44.7%	17.2%	14.1%	39.7%	17.7%	16.4%	38.4%	14.8%	15.5%	36.2%	17.0%	13.5%	36.3%	16.3%	16.1%	29.4%	15.4%	17.1%	38.0%	14.9%	14.2%	32.4%	14.8%	11.1%
その他	1.5%	1.0%	1.6%	1.4%	0.6%	1.6%	1.3%	0.6%	1.2%	1.4%	1.0%	1.5%	2.5%	1.3%	2.1%	2.1%	1.3%	1.5%	1.7%	0.7%	1.2%	1.6%	0.7%	1.3%
特になし	1.8%	2.3%	4.0%	1.7%	2.1%	3.9%	2.1%	2.7%	4.4%	5.6%	6.7%	8.4%	2.4%	3.1%	5.1%	2.2%	3.1%	4.6%	4.5%	5.6%	8.4%	8.7%	10.2%	12.6%
これ以上はない	0.0%	2.5%	8.9%	0.0%	2.5%	8.7%	0.0%	1.4%	7.9%	0.0%	4.4%	11.3%	0.0%	1.2%	7.2%	0.0%	2.1%	7.0%	0.0%	3.4%	10.8%	0.0%	5.1%	12.6%

以下、博士課程進学者増加のために重要な政策として「その他」に記述された内容を整理した。

【博士課程における経済的支援】

- 学費免除
- 学費及び生活費の援助(無償化)
- 給付型奨学金
- 授業料を安くする
- 授業料の減免
- 学費を公費で何割か負担する
- 博士課程の学生を教員として起用し、経済的支援を兼ねる
- 博士後期課程は立派な仕事であり、他国のように授業料免除と給与支給が必要不可欠

【教育の質の健全性・公正性】

- 学士・修士課程の教育カリキュラムの改善
- 適切な教員の整備
- 研究ではなく教育を専門とする人材の雇用
- 研究者と教育者を分けるべき
- 指導能力の向上、モラルの認知、ハラスメント行為防止の指導
- 大学教員の質の向上

- 大学教員に教育資格を必須とする

【社会人に対する教育・研究機会の拡充】

- 社会人のリカレント教育への支援
- 社会人経験者の博士課程入学の容易化
- 企業からの受入拡充
- 社会人でも研究者になれるように夜間・通信・IT を活用したリモートワークの拡充
- 就業しながら研究できるシステムの構築
- 企業・組織による進学支援制度
- 企業が博士課程の取得を支援する
- 働きながら学位がとれる
- 就職・子育てを経てから進学できる柔軟なライフサイクルが認められる社会の構築
- 女性がキャリアと子育てを両立できる環境の整備
- Doctor を出た先に高待遇のある将来があること、現状だと皆海外に出てる印象

【研究費の増額】

- 科研費における萌芽研究の研究資金の確保の困難の確保、基礎研究の重要性に対する社会意識の改善
- 研究費増額
- 学振奨励金の増額
- 非競争的資金の拡充(安定した予算及び研究環境の確保)

【若手研究者の安定的ポストの創出や待遇改善】

- 若手研究者の給与と研究予算の改善
- 博士課程への入り口を増やす(経済的補助や研究費の拡充)よりも博士後期課程の出口を増やす(ポストク)
- 大学教員の終身雇用制の見直し。業績のない教員の解雇を容易にして、業績のある若手にポストを振り分ける
- 任期無し採用の増加
- 修士課程修了者が就職できるアカデミックポストの確保(もしくは拡充)
- 研究職の待遇改善。企業や大学で働く場合、多職種と比較しても研究職は給与等の待遇が悪い
- 若手研究者の雇用拡大とその条件の改善
- 大学教員の労働環境の改善
- ポストクの雇用条件の改善

12. 自由記述より

本調査では調査票の最後に自由記述欄を設けており、数多くの意見が寄せられた。集計結果のみでは得られない回答者の生の声の代表的なもの²²を抽出し、「経済的支援」「社会からの目」「大学システム」「リカレント教育」「将来のキャリアパス」ごとに整理した。回答者の生の声を行政側に伝えるため、そのまま掲載している。

【経済的支援】

- 博士課程の経済的支援をもっと充実させ、研究に専念できるようにしてもらいたいです。特に芸術分野での支援が少ないように感じています。
- 博士課程後期在学者への研究報酬の支払い、修了後の就職への不安解消、就職後の給与水準の上昇の3つが最低限必要だと考えます。
- もし博士後期過程で給料をもらい、その後のキャリアパスが描けるなら(アカデミックなポストが十分にある、社会の博士号所得者に対する誤解(扱いにくい、コミュニケーション能力がない、社会不適合者、いつまでも学生気分など)がない、給料が最低賃金レベルではないなど)、博士課程に進学し、研究者としていきいき生きていくかったです。
- 本気で博士課程以降の人材を確保したいなら、博士課程での経済的支援の拡充、博士課程修了者の研究を生かせる民間就職の推進、また、安定して魅力的なポストの確保、貸与型ではなく給付型の奨学金の拡充などをする必要があると思う。
- 日本の若者が経済的な面を心配せずに研究の道に進進できる環境を整えていただきたい。目の前の成果や利益に囚われることなく、現時点では芽の出ていない分野も含め、幅広い分野の教育や研究への予算配分を増やし、日本の研究の裾野を広げ、底力のあるものにしてほしい。産業界が博士号取得者を上手く扱える土台を形成し、人材を有効に使ってほしい。中国など外国へ技術や知識が流出しないようにして欲しい。以上のことを実現するために調査結果を十二分に利用していただきたい。
- 博士後期課程の学生への金銭的補助を手厚くしていただけると進学を希望する人数も増えると思います。基礎研究を蔑ろにしているのは日本の未来はありません。
- 今は奨学金以外に経済的な支援を受けられないため、自分の貯金を切り崩すかアルバイトをして生活をしている現状です。博士課程に進学したいと思っても、経済的な問題から進学を諦めざるを得ません。経済的な支援があればもっと研究に集中できると感じております。
- 私は、RA が得られることが確定したので博士課程に進学しました。経済的援助を必要だと叫ばない人も、経済的に苦しくならないので博士課程への進学を検討することがあるという

²² 内容が重複するものは代表的なもののみを記載し、本調査の主旨と関係しないもの、特定の個人や団体に対する批判や不平不満、誹謗中傷にあたるものは除いた。また、本調査そのものに対する改善意見等は掲載していないが、次の調査に向けて参考とさせていただく。

ことを政府には知っていただきたいです。また、本当に経済的に困っている人にとって、進学してから学費免除や経済的支援を申請するのは、落選した時のリスクが高すぎるため、あまり効果が高くないと思います。真に効果があるのは、借金をしなくても博士号(厳しいところでは4年や5年かかるかもしれません)を取得できることが想定できるように、事前に無料の住居や学費の免除を決定することだと思います。他分野との交流や国際的な交流には、京都大学の熊野寮のような相部屋の寮を作ることが良いと思います。

- 博士課程進学者への経済的援助と安定したポスト供給が、進学者の将来への不安をなくし、進学率と研究力の向上につながると考えます。また、日本の学生は昔と比べて海外に研究しにいかなくなっています。国際研究をすることの重要性を投げかけ、国や大学から経済的援助を行う必要があると思います。
- 学費を納めながら、無給で、時には週末を返上して働く博士課程に進学するメリットが、私には全く感じられません。海外のようにせめて給与を払うべきだと考えます。
- 博士課程に進学したいが、経済的な問題で大きな壁がある。最低でも博士課程にかかる入学金や授業料の撤廃、または相当の給与がなければ、進学したとしても安心して研究活動に取り組むことはできないだろう(現状、旧帝大においても、大学間の格差が非常に大きい)。加えて、学振などの給付型奨学金の拡充にも力を入れて欲しい。個人的には全員に対する給与は最低限でよくて、それと同時に競争的資金を大幅に増やす方が優秀な博士学生を増やすことができるのではないかと考える。
- 「経済的支援」という文言について、返済義務のある奨学金と返済義務のない奨学金を分けて提示すべき。「経済的支援を拡充する」といって、返済義務のある奨学金制度を拡充されたところで、長い目で見て経済的に厳しい事には変わらないため。
- 臨床医学の医学博士課程は医局からの医者バイトで生計を立てているので生活にはあまり困りません。
- 優秀な人に博士課程に進学してほしいなら、博士課程で給与が30万円、就職後に初任給35万円ぐらいで就職先がしっかりあるという状況が必要だと思います。なぜなら学生によっては学部から奨学金を借りており修士までに500万円近い借金を抱えています。日本学生支援機構の奨学金を借りている人はほとんど当てはまると思います。お金がなければ生きていけません。私自身も学部から修士まで500万円近い借金がありますが、日本学術振興会特別研究員に採用されたことで、民間企業の研究職の内定を辞退して博士課程に進学することにしました。ただ、月額20万円では生きていけないと思います。修士卒で就職しておけば良かったと後悔することになるだろうと心のどこかで思いながらも、そうならないように日々研究を頑張っています。
- 大学院生として日本で学問をする上でひしひしと感じるのは日本の博士課程学生や研究者に対する待遇の悪さです。アメリカや中国等の先進国と比べて特に研究費や給与といった金銭的な面で圧倒的に劣っていると感じます。また、マスメディアを筆頭にすぐに実用可能な応用研究ばかりに目を向け、基礎研究をないがしろにする姿勢も疑問に感じます。こ

のままでは日本の優秀な人材はすべて海外に流れてしまうと思います。

- 学部生と比較して、院生に対する金銭面での援助制度が少ない気がします…。例えば、学部生(医学部 6 年生も含む)に対して、大学のある県内就職者には奨学金がでるのに対し、院生は対象外でした。
- 同じ研究室や、他大学の学生の話を書く限りだと、かなり金銭面(主に研究費というよりは生活費)で苦労している博士課程在籍者が多いように感じています。自身は、能力に対する不安から、博士課程に進学するよりも働いて給与を得ながら経験を積み、職場環境に応じて柔軟に進路選択していきたいと思い修士課程での就職を考えましたが、あくまで肌感覚ではあるものの、意欲・能力があっても経済的事情から進学を断念する学生は少なくはないと思います。学位取得まで原則最低 3 年、延長の可能性もあり、成果により博士号取得の保証もないという中で、在籍中の生活費に加え、博士号取得後はもちろん、中途退学したのちに奨学金の返済に足り、能力に見合う高水準の給与が得られる職につけるかどうかということは、進学をためらい、博士課程継続を断念する大きな理由になっているはずです。
- 学費を払いながらアルバイトや勤続をし研究を行う現在の環境では、博士課程への進学はおろか研究者の質そのものが他国と比較し低迷するのも当然だと思います
- 博士課程進学によるメリットがないように思います。金銭面や就職先のこと、研究室内での人間関係など、余計なことを考えず、純粋に研究に没頭できる環境があれば、違った考えになったかもしれません。
- 海外のような、給与式の奨学金制度を取り入れてほしい。
- 博士課程進学を考えていたが、結局は金銭的な問題が多い。奨学金を借りてきた者は、よっぽどのことが無ければ進学は断念せざるを得ない。さらに博士課程で就職できる企業に限られるため、進学したくても修了後の魅力が無い。また、いけない理由が多い。
- 大学院への進学において一番の問題となるのは学費であると考えている、私が修士課程進学を決意したのは、両親に経済的余裕が多少あり、奨学金を借りずに行けるためであり、博士後期進学を検討しない理由は奨学金を借りる必要があるからである。学部時代の学友も、金銭的な負担が少なければ進学を考えていたという声を多く聞いた。特に、大学生の多くは地元を離れて一人暮らしをする関係上、学費とは別に生活費という経済的負担を負っている。大学院への進学者を増やしたいのであれば、金銭的負担の軽減が一番効果的であると考えている。
- 博士進学をためらう理由として経済的な不安(博士在学中および就職できるかなど)が考えられる。多くの学生が無給(学振採択率が 2 割程度)、学振採択者においても同年代の修士卒の社会人に比べて給与が低いにも関わらず、就職においても有利に働くことが少なければ、進学への魅力は全くないと言っても過言ではない。このような状況で優秀な学生が進学を選ぶことはほとんどないのではないかと考えられる。
- 私は、日本での博士課程の進学を迷っていました。なぜなら、博士号取得者の良い噂を聞かないからです。仕事がないことや、20 代後半にもなって親に金銭的サポートをしてもらわ

ないといけない事など。しかし、そんな私が博士課程進学を決めた理由は、海外博士というチャンスを知ったからです。海外博士は授業料無料で、学生ではなく、若手研究者として扱われるため 450 万円から 700 万円のお給料と有給が貰えます。海外博士なら、親の脛をかじる事なく研究や勉強が出来ると、海外大学への進学を決めました。日本の博士学生現象の糸口は、やはり給与と進路にあると思います。進路に関しても、同期の修士や学部卒と全く変わらない事例をよく目にしました。私は今でも日本の技術者や研究者が優秀なのは知っています。ただ、このまま技術力が落ちていくのをじっと待つてはいられません。

- 学術振興会の奨学金は倍率が高く発表時期が遅すぎ、もしものための就職活動と両立ができない。また得られても都会で一人暮らしだと月 20 万円で家賃補助やボーナスなしでアルバイトもできないため生活面で経済的に苦しい先輩の姿を見てきた。とても博士課程に行きたいとは思えない。
- 博士課程への進学を希望していますが、学費と生活費を考えると現実的には厳しいです。博士課程に進学してもさらに返済義務のある奨学金が増えるとなると辞めておこうと思います。日本の科学の発展の為に、博士課程の授業料完全無料化と、博士課程学生への給与支払いをお願い致します。博士課程学生の減少問題はすぐに解決する問題かと思しますのでぜひご検討の程よろしくお願い致します
- アルバイトで生計を立て長時間研究をしなければいけなく就職の見通しも立たない現状の博士課程には 1%も進みたいと思わない。博士課程はおろか修士課程ですらろくに研究費がなくまともに研究ができない
- 大学に 6 年在学してきて上での感想として、奨学金という借金を背負った上で勉強に臨むことに対する負担と将来的なメリットが釣り合っているのかという疑問を感じる。これは研究機関に限らず社会的な給与と借金の返済との関係にも関係するが、これらの不安が取り除かれなければ、長い期間働かず学問に打ち込もうなどという気持ちも失せてしまうと感じています。将来的にこれらの問題が改善へと向かうことを期待します。
- 博士学生への経済支援を検討していると聞くと、結局のところ多くの博士学生への経済支援ではなく、学術振興会の DC のように一部の学生に限られた経済支援では博士課程に進学する学生は増えないと思います。結局のところ、学術振興会の DC のような限られた人への経済支援と考えれば、この不安定な経済化ではほとんどの人が就職を選ぶのが当然であり、それこそ博士課程に進む人はよほどの好きものようになってしまっている状況であることを理解してほしい。今も昔も博士は「足の裏の米粒」と揶揄されている状況は変わらず、博士は取らないと気持ち悪いが取っても食えないという状況が改善されることを期待しています。
- 日本における理系大学院生(修士課程、博士課程)における経済的支援は非常に悪い。例えば、修士課程では、JASSO が代表的な奨学金であるが、給付奨学金ではなく、私の場合は 200 万円をこれから返していかななくてはならない。また、博士課程を経済的に支援する

代表的な学振(日本学術振興会)は、わずか博士課程の 20%程度しか支援しない。このことが日本の博士課程進学者を減少させたり、研究不正ランキングを上位にさせること、日本の研究の学術的価値を低下させることに密接に関与していると推測される。私は、科学の可能性に夢を持ち、日本の科学技術の発展のために修士課程、博士課程への進学を決意した。そしてこれまで日本を少しでも良くしたいという気持ちで努力し続けてきた。しかしながら、日本では私を含めた日夜努力し続けている科学者の卵に対する扱いは非常に厳しいものであり、日本のために頑張ろうという気持ちはいつの間にかなくなりつつある。これ以上私のような若い大学院生を増やさないで欲しいと心から願う。

- 日本学術振興会(通称: 学振)について、特に DC1 については競争率が激しいため、博士課程に進学したい修士学生は必死に業績を出して DC1 に採用されようと尽力する。そのため、DC1 に採用された人材は優秀であると考えられる。ただし、優秀な修士学生でも研究区分によっては業績が出るまで時間がかかることで、正当な評価をされずに博士課程に進学したくても経済的に困難な学生が多い。したがって、DC1 の採用率を増大させる必要がある。しかし、採用率を上げすぎても競争が緩くなり、博士課程進学者の全体的な研究者としての質が落ちる可能性があるので、採用率は 30%ほどにすればよいと思われる。一方で、DC1 採用者に対して博士課程在学期間に一律 20 万円の支給があるが、地域によっては経済的に足りない場合がある。特に東京などの大都市では、研究に集中するために大学周辺に一人暮らしする費用だけで、毎月 10 万前後かかる。それに加え生活費や大学費用がかかるため都市の大学に通学する博士学生は非常に貧しい。したがって、DC1 に採用された優秀な人材についての経済的な支援をもう少し拡充する必要がある。採用者に一律 20 万ではなく、アルバイトの最低賃金のように都道府県ごとに見合った金額を提供すべきである。
- 金を出さないがアカデミックには残って欲しいなどという虫の良い話はない。どんな綺麗事を並べ立てようが生活にも研究にも金がかかることは変わらない。博士課程の学生は高度かつ最先端の知という一般人の持ちえない特殊技能を日々発揮して研究に勤しんでいるのであって、それに対して十分な報酬を与えないばかりか、「学生」という肩書きを真に受けて高額な学費を徴収するなど、その待遇はもはや奴隷以下である。さらに、現在の日本が支出する研究資金があまりにも少なすぎるのは明白である。科学技術で発展してきた本国において、将来の科学技術への投資を怠ってきたことが、2000 年代以降の日本の国際論文競争力の著しい低下となって現れている。これを続けるとどのような結果を招くか、よく検討すべきである。特に、「選択と集中」などという御題目を掲げて研究を篩にかけることは、ともすれば「勝った馬の馬券を買おう」という間抜けで不可能な発想になりかねない。
- 博士課程の雇用支援が必要だと考えます。将来への不安は何よりも大きいです。アカデミックポストが少ないのは仕組み上仕方ないと思うので、産業界での採用が増えるような政策をお願いします。

【大学システム】

- 従来の大学院ではなく、専門職としての資質・能力を高める教職大学院から、博士課程への進学ということは考えにくい。従来の教育系大学院の定員が減少し、教職大学院へと置き換わってきている中で、教育分野の博士課程の人材不足が、今後大きく懸念されると思う。学校教育・教育分野における教職大学院の位置付けがさらに明確になり、社会的な理解を得られ、教育系の博士課程との接続もよくなっていけばよいと思う。調査結果が活用され、さらに国としてのリカレント教育が進む枠組みが構築されていくことを期待している。毎年一方的に回答している状況のままであるため、今後はこれらの結果を踏まえて個々への適切な就職斡旋等の対応も真剣に検討して頂きたい。
- 薬学科に6年制を導入せず、従来の4年制に戻して欲しいです。なぜなら、4年で薬剤師国家試験に合格し、そのあと二年で研究活動に集中出来た方が効率的だからです。今の制度では、研究室を離れて実務実習に赴かねばならず、研究が中途半端になってしまい本当に歯痒いです。
- 大学法人化が始まって以降、圧倒的に”ばらまき”予算が少なく、特に非実践系(理学・文学的基礎分野)の探求予算が少なくなっている。また、大学自体が就職予備校と化し、大卒という資格が”〇〇大学受験合格+4年間耐久”という資格でしかなく、研究機関としての大学卒業という体をなしていない。大学学部相当においても、”単位取得退学”などを実施して、「研究者としての大卒」と「学を深めた大学単位取得」といった形式も可能であり、高専や短大・専門学校といった就職に向けての実践力を高める学校機関の就職における地位向上というものを図りながら、大学力の向上を図るべきであると考えます。”大卒神話”は、内実を見ていないという認識は、徐々に広まりつつある(Fラン大学、奨学金借金問題)ので、早期解決を求める。
- 首都圏や大都市の大学と地方の公立大学では、格差がありすぎる。地方の公立大学は特に予算が少なすぎる。環境もあらゆる面で厳しい。専門研究で極めたい分野を探しても選択肢も少ないし、入学前から受け入れてくれる指導教員があまりいない。大学教員も学部、大学院の指導も掛け持ちで忙しすぎる。大学教員の研究活動に支障をきたしているのは明らか。そのため指導するのになかなかエネルギーを注ぎにくいようである。ひとえに大学の教育研究予算が少なすぎるし、効率化優先主義でこのままでは先行き見通しはとても厳しい。
- 博士号取得に対し意欲的であったが、現在の閉鎖的・限定的な環境を変えたいという気持ちを優先し、就職を選んだ。理由として、①他研究室の情報不足により、研究室移籍が難しく、博士課程進学による環境変化が見込めない、②そもそも日本において、博士号取得のメリットが薄い、と考えたため。
- 私自身の研究室のみの話かもしれませんが、応用研究をしている地方国公立の研究室は、企業依頼の案件をこなす場に過ぎませんでした。教授は案件の募集など、研究費の回収が主な仕事で、研究についての助言を貰えることは滅多にありませんでした。朝から夜まで研究室に拘束され、時間を管理され、仕事をこなす日々でした。自分自身も含め、修業に近づくにつれ、研究への興味や関心は薄れて行き、他分野に就職される先輩方を数多く見てまし

た。

- 博士課程の増加ということで産業界の雇用増加などの現在の企業に呼びかけを行うなどの対策が選択肢としてあったことについて、産業界に呼びかけるということが現在の自由経済においてどれだけ効果があるのか疑問でした。そもそも、博士課程というものが非常に専門的な扱いづらいものとして箔が付けられ、その偏見が現在の就職難などにつながっているような気が私はしています。そのため、もっと考え方を社会全体で変更する必要があると考えており、教育などの根本的見直しから行うような、長期スパンでの解決を図ることが重要なのではないかと感じました。
- 学生を無料で使える実験ロボットだと思っているような現在のアカデミアの状況では、博士課程に進む人が増える余地がないと考える。実験ロボットというよりは、人としての性質を持つ実験が出来るロボット。古代ローマの奴隷制度と同じ考え方である。こちらは単位を人質に取られているので、大人しく従ってやり過ごすことが一番の卒業への近道となっている。私が思うに、このような研究室の考え方、常識を一変させるような何かをしなければ変わりようがない。教授を代表とするアカデミアの人間からは、異論もでるのが想像に難くないが、私のように研究室で苦しむ学生を減らし優秀な人材を博士課程に進ませたいのであれば、そうするほかないと思う。
- 私には、現在の環境は指導してくださる PI やその他研究員、後期課程学生の方が経済的に困窮したり、研究費獲得や研究以外の膨大な雑務に追われて酷く疲労し、それでもなんとか隙間のような時間に精力を振り絞って研究をしているような状態に思えます。彼らの研究への情熱やその知性は非常に尊敬していますがその環境は非常に過酷であると感じており、その知性への憧れがあるにも関わらず「彼らのようになりたい」とは思えません。本調査の結果がこのような環境の改善に繋がることを切に願います
- 用途が制限されている研究費、資金獲得の競争、経済面など現在の日本の研究環境は非常に苦しい状況だと思います。研究環境の一部を垣間見た者として、将来の日本の研究開発を憂えています。現状では国際的な地位は低下するばかりだと思います。
- 指導教員は大学運営の雑務、研究費獲得のための書類作成等に忙殺されており、直接実験などを教わる機会が全くなかった。日本の研究環境は悪化しており、私の回答が少しでも研究環境改善に役立ち、そして未来の優秀な学生のためになれば、との思いから僭越ながら回答させていただきました。
- 私立大学はまず、研究室に先生や院生の先輩が少なく、学部生が多い。そのため学部生は丁寧な指導が受けられず、修士・博士課程への進学に対して良い印象を持ちにくい。国公立、私立大学では研究室の環境が大きく異なり、そのことも考慮された、博士課程進学に向けた政策が生まれることを願っている。
- 博士後期課程の処遇の改善の前に、修士課程の段階から幅広い経済的な支援の施策が必要だと感じる。研究室や大学の方針によると思うが、少なくとも私は修士2年時には授業を受けておらず、企業との共同研究に時間を割くことが多く、授業料を払わなければいけない状況

に違和感を持った。また、研究室の教授も授業に時間を割かれている現状を嘆いており、海外の大学院のように授業担当の教員と研究担当の教員の区別をしてもいいと思う。実際授業が下手でも研究業績が優れている教員もいれば、研究業績は少ないが授業がとても面白い教員もいる。博士課程の進学率を伸ばし科学技術振興を図ろうとするのであれば、大学という組織が持つ構造を抜本的に見直していくことも必要だと思う。

- 博士課程の若者に就職先がない。これは国家としての損失である。また、基本的研究分野への予算配分が低すぎる。学問と現場をつなぐ政策を望む。
- 金を惜しまず払うことと、安定した職の席を用意することで博士課程進学者は簡単に増えるだろうと思います。私も博士を検討しましたが、あまりにも不遇な現状を知り諦めました。優秀で国の未来を豊かにする存在が便利な無賃労働者であってはなりません。研究室の留学生は修士課程からお金を貰っていると聞き、自分は逆にお金を払っているのに、とその格差に愕然としました。大学院の学生で学費や生活費を稼ぐためにバイトをしている人をたくさん知っています。そんなことに大切な研究、勉強の時間が奪われていて良いのでしょうか。また、学生個人だけでなく、研究室にももっと多額の支援をすべきであると考えています。研究設備には当然多額のお金がかかります。それだけでなく、教員が研究以外の雑務に追われている現状を目の当たりにしており、それをこなす事務職の方を雇う必要があります。研究する人は研究だけに没頭すべきです。当たりそうな、お金を生みそうな研究にだけお金を当てるのは、企業のすることで国は役に立ちそうにもない研究であっても惜しみなくお金を出すべきであると考えます。
- 既にアンケート内Q49で記述しましたが、「修士課程に在籍して得られていること、今後役に立つこと」に列挙されたことを身につけられた証として修士号は与えられるべきであり、修了する身としても「確かに身につけて頂きました」と言える様な評価をされていると自覚出来ません。「いい加減な指導」を防ぐためにも、卒業生(場合によっては中途退学者)による評価が行われたり、学生による指導力が評価されることで指導教官もしくは研究室に対するインセンティブが発生する様な仕組みが作られることを望みます。
- 日本は技術力に長けていたのに、その技術開発を担う大学機関などへの投資を減らすことは、日本が国際レベルで戦えなくなってしまうと思う。
- 大学院の指導教師の指導力への審査が重要だと思います。今後、この方面で力を入れていただきたいです。
- 大学院入試に関して、研究計画書の提出を求めることが多いですが、その計画立案のやり方も大学で教えてくれないのにどうして入試項目に入っているのでしょうか？計画の立案や検証の仕方それ自体は大学院で学ぶものなのでは？また、大学院の進学先に他大学を希望しても、自大学の教員に阻まれることや、他大への進学に関する情報を教えてもらえることが少ないというようなことが多いように思います。もっと進学先を自由に選べるようにしていただきたいです。
- 現代史を専攻しておりました。後期博士課程への進学を強く希望しておりましたが、コロナ禍

で史料調査や留学など先の見通しがたたない事、見通しがたたないことで各種給付型奨学金への申請が困難であった事などを理由に断念いたしました。社会保障費の負担もある中で、さらに借金である貸与型奨学金を申請しようとは思えませんでした。これ以上国内での研究規模が縮小しないようにするためにも、研究者要請に十分な予算をつけること・研究成果を仕事へ繋げられる環境(研究職、民間職)の安定的な提供が必要だと考えます。こうした調査がそのきっかけになることを強く願っております。

- 社会経験をした上で、研究に入った身としていえば、研究をすることがお金に直結することが最も重要な問題である。それは研究によってお金が得られることではなく、仕事として研究を行うことが社会経験を積み、人間として成長する機会であるが、私の大学だけかもしれないが、保護され、温室育ちになることで外の世界を知らずに年と取ってしまう。仮に就職口があっても、企業は欲しがらないだろう。寧ろ仕事とはなんたるかを研究を通して学ぶ制度を構築すべきと考える。
- 指導教員が忙しすぎることで、学生にも様々負担がかかっているように感じる。大学教員の仕事量の減量は、若手創生のためにも重要であると思う。
- 日本の大学評価指標について、大学院卒業が近づくにつれ、大きな疑問を感じるようになりました。それは、研究実績が査読付きの論文数で、主に評価されており、これは、大学教員や学生にも同様に感じます。就職活動やインターンシップで大学に求められているのは、論文数ではなく、工学部でのものづくりや特許に相当する技術、産業に通じる技術、マスメディアが取り上げる技術です。海外のように、特に院生は、企業が奨励金を出すような産業に直結した研究テーマ等が出来る研究室で学べるような社会になって欲しいと願っています。
- 博士課程に進み、社会に貢献するため専門的知識を得たい学生は多い。しかし、社会は高学歴の学生など必要なく(特に文系)、唯一の道筋である大学教員もポストがなく高齢者が占めている。その結果、将来の心配から博士課程を断念する学生がとても多い。若手ポストの確立(安月給ではない)を保障しなければ、日本の専門的知識のある人間は必ず減少していき、世界に取り残されていく。
- 博士課程以降の研究機関が既存の教授による傲慢、パワハラ等により汚されていると聞いています。純粋な研究が出来ない環境ではないですか？ 先の教授が偉いという師弟関係にも近い文化を変えないと今後も研究者は減り続けるのでは？ レベルの維持と上記を並行して進める必要があるのではないかと思います。
- なぜ、最後の質問で論文の数を聴いたのか理解できない。論文の数よりも、学生の研究能力向上、研究として確からしさが高いかどうかのほうが重要である。日本の高等教育の質は明らかに低下している。とにかく、まずは大学大学院の数を減らすことから始めていただきたい。そして、文部科学省は無謬性の原則を早く消し去っていただけないだろうか？ あなた方が今までの教育改革の過ちを認めず、以前の教育課程並みの水準に、教育の質及び量を戻さないことが今後 30 年でじわじわと日本の科学技術を蝕んでいくだろう。そして、現場の意見を無視しないでいただきたい。指導教員の方々も困ってる。はっきりいって、このまま、博

士を増やすことだけ考えるようでは、日本は終わりです。諸外国の状況など無視して、質を重視することを願いたい。

- しがたい修士課程の学生ですら、現在の国内研究環境の劣悪さを起因とした科学力の低下を日々感じております。博士後期課程への進学者が増加するような魅力的な環境改善策を期待しております。大学等での勤務で嫌なことを挙げるとすれば、年々、大学等内の環境が悪化していること。旧帝大はまだ大丈夫ではあるが、地方の大学等では急速な就職予備校化が起こり、教員の負担(研究以外)が増えている。このしわ寄せは研究室の博士課程学生や研究員にのしかかる。
- 大学教員に任される研究以外の仕事が多すぎる。
- 大学教員の社会性・倫理観の改善を求める。
- 目先の成果にとらわれず、長い目で日本の国力が向上する研究が盛んになるようになってほしいです。
- いち早く研究者に対する待遇改善を願っております。
- 教授にもよります。教授が学内の仕事が忙しくなかなか指導を受けられなかったので、根本的に大学環境を改善しないと質は上がらないと思います。
- 研究とは無関係な業務への従事や、研究のために強いられる学生の経済的負担(調査の交通費・滞在費・ソフトウェアや PC の購入)、担当教員による威圧的・侮蔑的な態度などを見れば、自ずと博士課程への進学は選択肢から消えてしまうと考えます。
- Your system is not efficient at all, there is no guidance, no support and the academic level of courses given is very poor (less than undergraduate level), they just treat us like common employees and not like students. No learning at all.
- Japan is a wonderful place to study for international students, but I think for it to become desirable to international students, the following has to be done. 1)The English level of professors need to ameliorate. I have friends from other universities, and they all had the same complaints. Yes! A lot is being done to attract international students, but what do you learn from a professor that doesn't speak English in an English oriented program if the student doesn't speak Japanese either? 2) There needs to be some support for students without age boundaries or other restrictions. The Japanese working culture is age restrictive, and so is the academic environment. Also, there needs to be some financial assistance to international students. Japan is comparatively cheaper in terms of education to other developed countries, but most people I have interacted with in different countries had some concerns. For example, the application fee to schools. It is absurd to pay over \$300 for application fee when there is no guarantee you will be accepted. Since there is no certainty of admission, how much will that be if a student wants to apply to three schools? Doctoral students can benefit from some aid. I had to work part-time, and it wasn't easy. I had to sacrifice internships and other activities.

【リカレント教育】

- 修士課程や博士課程は、社会人になってからでも特に欧米では可能である。学部学生への影響も少なからずあるので、今後より多くの社会人が学びを深め、再度復職可能なシステム作りをしてほしい。
- 社会人院生として学んでいるが、企業内で修士課程や博士課程取得に対して、インセンティブや情緒的に評価されることが少ない為、努力や学費を鑑みた際に積極的に学ぼうという選択を取る人が少なくなっていると思う。企業においてリカレント教育(大学院進学)休暇の拡充と、その期間の収入補助の両輪があれば、皆、積極的に学びたいという意思が芽生えると思う。
- 勤務しながら学ぶことに、時間の確保や金銭的な支援について保障があると、人材の確保につながると考えます。
- 職場で進学の理解を得ることは大変苦難でした。私は子育てをしながら大学でもお世話になっています。いつか、仕事と学業を両立するのが普通になる世の中になると信じて、後輩のためにも励む毎日です。専門的な知識を得る、深める人材育成が大切であることが、社会の共通認識になる日を願っています。そのことで、博士課程への進学率が上がるのではと考えます。
- 私はマスメディアで総合職として働きながら大学院通っています。ただ、企業内でも大学院に通っているという「変わり者」の烙印を押されがちです。世の中、もっと知性主義が根付くといいなと思います。そのためにも博士号を取得した者に対するインセンティブ(在籍中からの給与支給など)や、安定的なポストの供給などを整えていただけましたら幸いです。
- 自分にとって博士課程は雲の上の存在であったが、修士課程で学ぶうちにさらに学びたいと思うようになった。60歳以上のシニア族であるが、こういうシニアは現在潜在的に多数いると思う。
- 大学院進学者に対する社会的地位の向上をしていただきたいです。社内では無理解で、無駄なことをしに行くと思われ受け取られる傾向が根強くあります。

【社会からの目】

- 個人的意見ではありますが、博士進学をしたくとも、世間一般の考え(特に大学院経験がない場合。私の場合は親にあたる)では、文系の院進学自体が批判的な目で捉えられやすく、私の場合は学歴を上げるために許された面が大きかったと言えます。修士ももちろんですが、博士進学するためには、親の経済的支援が必須であり、しかし親の定年が近づくとともにその余裕もなく、手段として学振を申請するも力不足と共に文系分野の採用数は非常に少なく、諦めざるを得ませんでした。一方で、博士進学したとしても定職に就ける人々はほんの一部であることも事実です。(親が心配するのもこの点にある)両親からは女性であるがために家庭を持つことも考えて、就職するよう言われました。もちろん全てうまくこなすことのできる人々もいることと思いますが、文系だからこその悩み・博士課程進学者の経済面と将来性・院進学者の周り

からの評価・性別による不自由など問題は一樣ではありません。今後、より良い環境下で学ぶ自由を手にする人が増えるよう願っています。現環境である修士課程での研究環境自体は非常に充実したものであり、研究に全力を注ぐことの楽しさをこの1年半余りで経験できました。修士から博士という壁を取り払えるような対策ができますことを願います。

- 現状でも研究がやりたい人は博士課程へ進学しています。研究環境の良し悪しに関わらず研究がやりたい人はやります。そうではなく、今回の趣旨が博士課程に進学しない優秀な人材を広く進学させたいということならば、問題は企業の技術レベルが低く過ぎることです。これは世間的にも大手と言われるような企業との共同研究の経験から感じました。研究開発に力を入れていてもそれが現場の商品には必要とされていない。これが現状です。また就活生目線で言うと、企業における処遇は能力ではなく、学位で決まる傾向が強く、また学士と修士の差はあれど修士と博士の差は就活生には分かりません(明記はない)。よって、最終的に就職したいと考えている人にとっては博士課程に進学するモチベーションがありません。以上より、政府の方から学生に対して直接的な政策をとっても意味は薄いと思います。したがって、まずは企業に「なぜ博士を求めないのか」についてアンケートを取るべきだと思います。
- 論文という形で結実するのに、時間のかかる研究があります。加えてお金も時間もかかる訳です。世の評価基準にはそぐわない様子なので、私は博士課程進学を辞めました。とはいえ、研究は好きなので、社会人進学・アカデミアへの復帰を視野に入れています。この調査で、博士課程の環境が変わる事は期待していない。日本は本当に痛い目をみないと、本当には変わらない
- 就職活動と大学、または大学院への進学の結び付きは大きいと考えています。就活活動における大学のブランドの習得のために大学に進学する方々も大勢いると思います。博士課程への進学が減っている事実は就活の大学のブランド獲得のためが強く、大学で研究の能力を上げることはあまり重視されていないことを示唆しているのではないのでしょうか。
- 多くの人が博士課程に進学しない理由は、日本の企業において修士卒と博士卒がそれほど差別化されていないからだだと思います。アメリカのように、全く扱いが違うのであれば、私は博士課程に進学しました。「なんで3、4年追加でがんばったのに扱いが修士卒と変わらないんだろう」という不公平感が一番の問題点です。
- 博士後期課程へと進学すると就職にくいイメージが強いです
- 海外と比べて、日本の博士課程への進学はとても風当たりが強いです。人生100年という時代になってきている今、同世代や親の世代、さらにその上の世代に渡る意識改革が起こるといいなと感じています。
- 博士への学生を増加させたいのであれば、博士過程に行きたくなるように社会全体が変わるべき(民間企業で博士過程修了者の処遇を改善する等)。国を上げて現在の博士過程の人たちを支援し、修士過程の者に対する博士過程に進学するメリットのPR・支援等を行うべき。
- 個人的に、近年の日本の研究力低下に強い焦りを感じていますし、改善がなければ将来的にはもっと悪くなるだろうと考えます。そういった意味で、非常に意義深いアンケートだと思います。

ました。私は研究者の待遇の低さや将来のキャリアの選択肢の狭さなどを考慮して、研究職以外の就職を選択しました。周囲の学生からも、研究職に待遇面をはじめとした魅力が少ないという声を聞きます。これが、博士課程進学者減少の一要因でもあると思います。また終身雇用制度の恩恵を信じていて、大企業に入れば実力を伸ばさなくても生きていけると考える学生もまだ多いと思います。研究者の待遇見直しやジョブ型雇用を国主導で促進し、個々人の稼ぐ力を大きくして欲しいと強く願います。

- まず、博士課程へ進学すること魅力を大きく作らないと民間企業も採用を増やさないし処遇も改善されず、結果博士課程進学者が減る事になるので早急な対応をしないと日本という国の基礎レベルが下がっていつてしまう危険性を大いに孕んでいる。
- 博士課程への進学率が低いのは学校側の問題ではなく、社会的な問題だと感じています。世の中が博士課程修了者をもっと重要視するようになれば進学者は増えると思います。
- 研究者を排斥するのではなく、育てる社会にしてください。大学全入時代ですが、研究の重要性への理解が社会的に浸透しきれてないと思います。
- 実際に博士になった人、SNS 上での評判、どれをとっても博士課程に批判的な意見しかない。研究における環境(メンタル面、時間管理)などを優先して改善する必要があると考えられる。
- 同じ修士課程でも理系出身であれば優遇され、文系出身だと就活の土俵にすら立てない場合が非常に多い。文系の場合確かに成果は理系と比較してはつきりとは分らないが、せめて話を聞いてくれればと思う。少数派ではあるが、文系修士課程進学者の立場向上に向けた取組みの実施を欧米ほどは求めないが、少しでも実現していただきたい。
- 修士課程も含め、博士課程取得者ですら給与が低いなどコスパの悪さを感じます。手間を惜しまずお金を出して勉強しているのに...と思います。
- 進学か就職で迷っている学生は、就職面接時に進学を匂わせる発言をすることで、選考が不利になる傾向があります(私もこれで 1 社内定が出ませんでした)。そのため、内定をもらうために進学をしないことを明言せざるをえず、結果的に博士進学 of 選択肢を取らなかった学生も少なくありません。こんな就職と進学で迷っている修士学生に対しても柔軟な採用基準や、社会的な環境があれば検討しやすいと思います。
- 世間的な大学院への偏見(お金の無駄や勉強しに進学するなど)であったり、修了後の企業による待遇など、博士課程への進学を躊躇する問題は多くあると思います。
- 修士課程を取ることに by 人生の選択肢の広がり to 比べ、博士課程を取ることに by 人生の選択肢の増加数が少ない to 思います。研究すること by 社会貢献は非常に重要ですが、その成果が直接、社会に貢献しないことが少なくありません。
- 40 歳を超えてから大学院進学を決意しましたが、色々進学先を検討する中で、学部からストレートに進学する若い方たちが優先され、歓迎されない雰囲気をあちこちで感じました。少子化問題が叫ばれるなか、子育てや社会人経験の後に大学院で学んでも良い、という「多様な学び方」が尊重される社会になってほしいと願っております。
- 研究に対して給与が支払われない現状で、博士に行けば親の脛を齧り続けるし生活も困難。

20 後半でアルバイト学生は流石に世間の目も辛い。研究に関してもボランティアに過ぎない。何も得られない。研究が活かされる企業に就く人間など殆どいない。博士に行けば就職に優遇される保証がない。正直今の生活は、生活保護受給者よりも生活の質が悪い。その現実を知っているか？世のための研究を無償でボランティアとしてやって、報われないのなら学部で就職するべきだし、そう後輩にも伝え続ける。簡単に言えば博士で研究しながら生活できるほど金がない。あれば博士にだって行く。

- 本来修士、博士号は、若い人だけが取得するものでは無いにも拘わらず、公務員にしても博士課程の求人は 29 歳までとなっており、大学からストレートに大学院へ進んだ場合しか想定されていない。折角職場での知識をより専門的にすべく進学をしたにも拘らず、手当も就職の口も無い中年の特に就職氷河期の人たちは兎に角仕事がありません。優秀な成績を収めようと 40 歳ともなると、就職活動が難しく、結局学位をもらっただけで精一杯のままワーキングプアになっていくだけです。若手にばかり力を入れず、人生をいつでも自分の意気込みで変化できることを期待し大学院へ進む人たちにも未来の夢が描けるような社会的仕組みを早く作ってほしいです。
- 博士課程に進学すれば、同期で修士卒のまま就職した人と同じくらいの給料をもらいながらスキルアップが出来るという環境を構築しない限り、博士課程進学者は増えないと思います。またアカデミックのポストや民間企業の博士課程修了者への理解が向上し、博士課程修了後の進路への心配が完全に取り除かれられない限り、30 歳近くまで大学院に在籍しようという雰囲気は高まらないのではないのでしょうか。
- 博士進学を選択が、一般企業に勝っている点がひとつも見当たらない。多くの学生にとって博士進学がそもそも選択肢のひとつにすら入っていないことを自覚し、博士進学することの魅力を作っていけないことには現状は変わりません。そもそも、博士進学に魅力を感じなかった人が一般企業にいたので、一般企業からすれば博士号取得者を採用することに魅力を感じないのは当たり前。修了が 27 歳ということを見ると、ある程度経済的な余裕を持てるくらいの支援が必要。また、そこから一般企業ないし教員を目指すうえではその後の待遇改善が必須。本来は優秀な研究者の進路であるはずの博士課程だが、それを選択したのために生活が困窮するような状況は、異常と言わざるを得ない。
- この調査を通じ、博士課程進学に対する意識の変化(一部の物好きしか進学しないと思われる、まだ働かないの？と言われる)や研究環境(そもそも研究室の財政状況が厳しい)の改善につなげて頂きたいと思います。
- 私は、研究者を目指し、博士課程への進学を検討したいと考えておりました。しかし、博士課程進学後の就職難、博士課程在学中の経済的不安、博士課程から他大学他研究室へ進学することへの不安、博士課程の教育・研究の不透明への不安、20 代後半で学生であり社会人未経験であることに対する世間とのギャップなど、多くの困難があり、進学を諦めたうえで、社会に出る方が良くであろうという結論に至りました。機会があれば社会人ドクターとして学術の世界に身を置きたいとも考えているため、修士課程から博士課程への進学に加え、産学の深

い交流と透明化には不可欠と思われる社会人ドクターへの対応に関しても、今後対策を講じてい頂けますと幸いです。

- 新卒一括採用・企業での年功序列・メンバーシップ型の仕事の仕方などの旧来の雇用慣行(就社という考え方)が博士課程進学者の減少の原因の一つだと思います。博士課程卒業後の進路の一つに民間企業への就職があると思いますが、日本企業は旧来のやり方を中々変えようとはせず、その企業文化に合わせることを強く求められます。このような状況の中、特に新卒で入社する時には、研究職を除き、企業は個人の専門性を全く求めていないと感じております。そのため、博士の価値が低く逆に博士課程進学がその後の就職の足かせにしかかっていないと思います。雇用慣行を変えない限りは博士を目指そうとはなりにくいと思います。
- 日本では、修士課程、博士課程の重みが全然ない。特に社会開発の分野では、学位取得しても、給与が上がる訳でもない。博士課程に進学したいという思いもあったが、経済的余裕がなく、学費を払い相当な時間を費やして博士号取得することに意義を見出せないと感じました。
- 日本ではマイノリティであるために修士課程や博士課程に進学していることを後ろめたく感じている人は多くいると思われます。就職の際には同期と年齢が離れてしまう等、一括採用であることも引け目に感じてしまう要因なのではと考えます。
- 現状の日本では博士課程進学によるメリットよりもコスト面などのデメリットの方が大きいと感じてしまいます。私より若い、今後の日本の未来を担う人材が博士課程進学を前向きに検討できるよう、コスト面、環境面、処遇面が改善されていくことを望みます。
- 博士課程の進学率の低さは、日本企業の博士学生採用の抵抗からくるものであると個人的に就活を通して思いました。
- 修士以上の学位を持つ人間が世間的に「役立たず」というレッテルを貼られている日本の現状は、日本の学術的競争力を著しく低下させるものである。官民間問わず学位に応じた待遇が約束されるようになることを望む。
- インターンシップや採用面接でもあった『そんな研究して何の意味があるの?』といった基礎研究への無理解が企業には蔓延していますので、そこの改善をしない限り日本のアカデミックは没落を避けれないと思います。
- As an international student job hunting is also problematic. The companies usually expect years of work experience and do not put any value on the years of research and first-hand experience with high-end technology that I have. If said mentality does not change, I am afraid the number of Doctoral students and international Doctor students will just keep decreasing.

【将来のキャリアパス】

- もともと博士課程への進学を考えていましたが、一緒に研究活動をするポスドクの方々や助教

の方々が、日々抱えている先行きの不透明さを学生時代から強く感じていました。自身の所属する研究室に限らずあらゆる研究室で聞く問題であり、博士課程に進学することで自分が今後の人生においてより大きな苦労を体験することになると考え、博士課程への進学を断念しました。

- 指導教官が 50 歳前後でまだ任期つき教員で、私の学士～修士在学期間中に新しい赴任先を手に入れるのに非常に苦戦していました。アカデミックポストが拡充されれば任期つき教員の先生方も学生の指導をする時間が多少は確保でき、博士に進む意欲をもつ学生も増えるのではないかと思います。
- 博士課程進学者を増やすためにはポストクの待遇を改善するべきだと考えます。
- 日本の経済力の低下に博士課程への進学者減少による研究力低下があると考えています。今後世界での競争に勝つ残るためにも研究者の雇用条件や給与形体改善が進めばいいと思っています。研究を続けたいと思っても金銭面、将来面を考えることで、その道をあきらめる人が少しでも減っていくといいです。
- 博士課程に進学を希望しておりますが、やはりその後の就職に関しては大きな不安があります。海外に比べると、日本では特に経済的な面では、博士に行くメリットはかなり低いのではないかと思います。ポストも保証されていませんし、報道されている自殺の例を見ると、かなり不安になる部分もあると思います。また、博士を卒業すると殆どは 20 代後半になることから、その後の就職支援、アカデミックポスト等のサポートも改善されると、進学率も上がるのではないかと感じます。
- 知り合いには、研究者としての将来を考えるなら日本にいないほうが良いと強く勧めています。大学機関などに向けた予算割合が海外に比べても十分少なく(研究者が自分の使命をまっとうするための心身の安定が保てない)、文系の学科を減らしては日本人の悟性の豊かさに向けた機会を損なうような現状で国際的に日本が生き残っていける基盤が整っているとは思えません。
- 博士課程やその後に進むであろうアカデミックの待遇が悪く、魅力を感じていない学生が大勢いるため、博士課程進学者数増加を望むならば、待遇改善が必須だと思う。また、海外と比較して日本は国からの研究費が少ないので、研究者にとって難しい環境だと感じている。
- 博士課程進学者数を増やすためには、進学者・将来のキャリア(大学教員・研究期間の研究員)における待遇(特に給与面)を大幅に改善する必要がある。
- 私が優秀だと思った友人の多くは外資系コンサルやベンチャーに就職して行った。彼らは日本が必要とする優秀な理系人材であったはずだ。私はこのような状況が日本の科学技術の根底を脆弱にしていると考えている。しかしながら、問題はそのような企業ではなく、魅力を示せない大学や国内企業にある。成果を出していない学生と同じ給与からスタートする、あるいは経済的不安の拭えない博士過程に進学することは、研究に適性のあり、努力してきた学生の選ぶ道ではない。また、このような調査を目にするたびに、環境改善を実行していく行政側にどれほどの研究者が携わっているのだろうかと思う。日本では年齢制限によって博士が官僚に

なることは難しい。せめて、国だけでも博士を活用しようとする姿勢を見せてほしい。

- 博士課程進学ハードルの高さはもちろん大きな問題であると考えられますが、それ以前に、進路選択に重要となる研究職を含めた「より多様な各職業の存在、および雇用形態や所得・勤務時間などの実態に関する情報」の情報を入手する手段の少なさ・複雑さも問題であると感じます。
- 修士課程の学生が、博士課程に興味がないのは、博士課程に進んでも経済的な面で魅力がなく、民間企業での業務に従事した方がいいからだと考えています。お金を稼いで裕福に暮らしたいと考える人がほとんどである世の中で、民間企業より薄給で、業務時間外であっても教授からの指示があるような業務体系は、アカデミア以外ではブラック企業と呼ばれています。もし仮に、博士課程で一般企業並みの給与が支払われる(TA や RA, 共同研究などの委託金による給与, 大学からの給与等)のであれば、研究を続けたいが、経済的な面で就職しなければいけないと考える学生は減ると思います。また、博士課程から教員(アカデミアの研究者)になる時に、年齢に見合った(この場合で言えば、大学教員の年齢に見合ったではなく、一般企業の同年代の年齢に見合った)給料が保証されていればさらに増えると考えています。学生であるので、1 年間の学費を研究を片手に自分で生計を立てながら支払うなどは現実的ではありません。27 歳になっても学費を親が援助してくれるような裕福な家庭でなければ研究に没頭することはできません。奨学金制度があると反論されますが、奨学金は借金です。借金をせずに給料をもえらえるような一般企業に勤めるのは当然のことだと考えています。国の政策で大学の研究者を増やしたい、論文数をあげたいなど考えるのでありましたら、まずは経済面での安定性を保証しなければ永遠に実現しません。アメリカでは博士課程の学生の変化は微々たるものであると伺っています。それはアメリカでの博士号取得者は高待遇で企業に入社できるためです。日本ではこのようなことはあり得ません。私が就活中に企業の収入について調べましたが、博士号取得者と学部卒の初任給の差は 4 万円のところがありました。このような状況では修士号で、一般企業に就職する以外、道がありません。国による経済面の補助と、一般企業の待遇改善なしでは永遠に増えないと思いました。

13. 課題と展望

本調査は、調査期間を当初の予定よりも延長して実施したが、回収率は、13.0%であった。自由記述に『大学からメールが来て本調査を知ったが、もう少し学会や諸々の方法で調査へのアクセスを広げるべき(中略)。大学院生に対する調査は昨今の状態を考えると簡易的なものでも積極的に行わないと国内の学術従事者が少なくなったり、質の低下を招く』とのご意見には、全く同意できる。同時期に実施した 2018 年度博士課程修了者を対象とした「博士人材追跡調査」も同様に回収率が上がらなかった。「博士人材追跡調査第 3 次報告書」の「課題と展望」でも述べたが、修士課程に調査対象を広げただけでは、追跡可能な博士人材の人数や回答数を増やす解決策にはならないため、現在、回答者に負荷をかけず全体像が把握可能な方法について検討を進めている。

自由記述の中で、『回答目安時間、質問数などの記載』『性別入力欄が男性及び女性の選択のみでなく用意すべき』『本アンケートに対するインセンティブの付与』『1 問1答形式でのページ遷移ではない設計』『質問項目が多い』『途中での保存機能』『自由記述欄が少なすぎる』『数値の入力については幅を持たせる』『選択肢があれば極力近いものを選ぶのが普通で、少しのズレでわざわざ「その他」を選んで具体的に記入することは稀で(中略)それぞれの背景が平均化され、丸め誤差が生じます。(中略)もう少し自由度の高い調査(パブリックコメントなど)をしたほうが、調査の解像度が上がり、根本的な解決につながるのではないのでしょうか。』等、具体的な調査研究の設計に関するご提案を多数いただいた。これらについては、次回調査の設計や別途深掘り調査を行うといった対応を検討していきたい。また、『研究者倫理、国際的な日本の研究力を学生から判断する項目』『学習環境等に関しての質問項目』等、質問項目に関しても多数のご示唆をいただいた。これらについても、質問項目の見直しを検討する際の参考としたい。さらに、『6 年制大学、専門職大学院の回答者には回答しにくかった』とのご指摘もいただいたところであり、所属の多様性を考慮した調査となるように改善に努めたい。

本報告書は悉皆調査としては初めて修士課程の在籍者を対象として行った結果をとりまとめたものであり、まずは現状の全体を俯瞰することに重きを置いた。同様の調査を改善しつつ継続することで、在籍中における経済的支援状況や進路状況等に関する変化が読み取れ、より深掘りした分析が可能となることが期待される。

2020 年 1 月に「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」が策定され、2021 年度からは「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」の開始や、10 兆円規模の「大学ファンド」の運用益を活用した優秀な若手研究者の育成及び活躍の推進に資する活動への助成等も動き出し、日本の科学技術イノベーション人材の育成及び活躍促進に向けた諸施策が本格化しつつある。しかしながら、本調査の回答者が、未だ切々と経済的支援の充実を訴えていることからわかるように、日本の科学技術イノベーション力が世界に伍していくものであり続けるためには、さらなる施策の充実が求められている。本報告書が、科学技術イノベーションに携わる政策当局者等に有効活用され、日本の科学技術・イノベーション力を一層強化する一助となることを強く願っている。

謝 辞

本調査の実施に際し、多数の質問に対して回答にご協力いただき、本当に感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた大学等の皆様に、心よりお礼申し上げます。多くの皆さまのご協力・ご助力があって、本報告書の公表に至りましたこと、重ねてお礼申し上げます。

ご協力いただいた皆様に報いるためにも、本報告書が政策当局に有効活用され、科学技術・イノベーション政策の立案及び関連諸施策の遂行等に資することを切に願っています。

最後に本調査は今後追跡調査も実施する予定でありますため、皆様から個人情報をお聞きしております。自由記述において『個人情報の取り扱いについてくれぐれも注意してほしい』由、承っております。個人情報の取り扱いには十分注意致しますので、引き続き追跡調査へのご協力も何卒宜しくお願い致します。

参考資料

- ウェイト作成について
- 調査票

1 修士課程修了者追跡調査【2020 年度修士課程修了予定者】

1.1 ウェイト作成の方法

修士課程修了者追跡調査【2020 年度修士課程修了予定者】(以下、修士追跡調査) は、2020 年度 (2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日) に修士課程を修了する予定の全員を対象にした調査である。令和 2 年度学校基本調査における在籍者数は、修士課程等 2 年生と 6 年制学部 6 年生を合わせて 125,418 人であり、本調査における回収数は 16,311 人であるため、学校基本調査における在籍者数に対する回収率は 13.0 % となっている。そこで博士追跡調査と同様に、未回収バイアスの補正を目的として、母集団情報を利用したキャリブレーションによるウェイト作成を行った。

母集団情報として用いたのは、令和 2 年度学校基本調査 (以下、学校基本調査) である。修士追跡調査と変数の定義が同じと考えられる以下の 5 つの変数に関してキャリブレーションを行った。各変数の、修士追跡調査と母集団情報との対応の詳細は後述のとおりである。

- 性別×研究分野
- 年齢層
- 学生種別
- 大学グループ
- 大学規模区分

キャリブレーション前のウェイトは、どの回収票についても $w_i = 125,418/16,311 = 7.689$ ($i = 1, \dots, 16,311$) とし、乗法関数を用いてキャリブレーションウェイト $w_i^c = w_i g_i$ を求めた。

- 乗法関数

$$\sum_{i \in s} w_i \{g_i \log g_i - g_i + 1\} \quad (4)$$

得られたキャリブレーションウェイトの分布は図 3 の上の箱ひげ図のとおりであり、極端に大きなキャリブレーションウェイトが得られてしまっている。

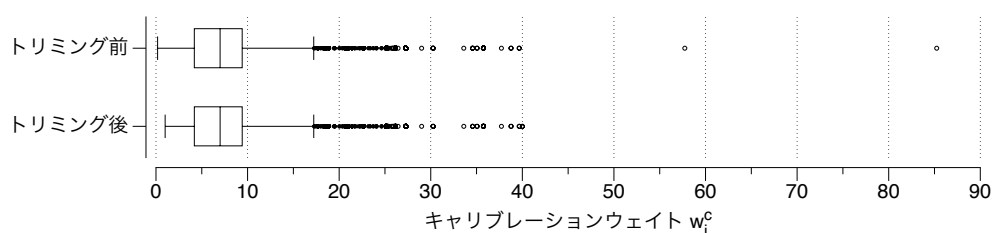


図 1: キャリブレーションウェイトの分布

そこで、 $w_i^c < 1$ のときには $w_i^c = 1$ 、 $w_i^c > 40$ のときには $w_i^c = 40$ とトリミングした上で、全体が $\sum_s w_i^c = 125,418$ となるよう、トリミングしなかったウェイトについては調整を行った。トリミング後のキャリブレーションウェイトの分布が図 3 の下である。なお、トリミング後の不等加重効果は $UWE = 1.359799$ である。

1.2 ウェイト作成の結果

キャリアブレーションに用いた変数のカテゴリごとの、キャリアブレーション前のウェイト w_i 合計とキャリアブレーションウェイト w_i^c 合計は以下の表のとおりである。

表 1: 性別×研究分野

	人文 男性	社会 男性	理学 男性	工学 男性	農学 男性	医学 男性	保健 男性	家政 男性	教育 男性	芸術 男性	不明 男性	
キャリアブレーション前	3,622	7,889	18,508	30,495	3,253	3,729	5,813	8	3,153	930	469	
キャリアブレーション後	3,129	11,018	8,165	31,332	3,459	9,937	9,751	40	3,161	869	73	

	人文 女性	社会 女性	理学 女性	工学 女性	農学 女性	医学 女性	保健 女性	家政 女性	教育 女性	芸術 女性	不明 女性	合計
キャリアブレーション前	6,590	7,112	7,197	5,521	2,937	2,414	9,765	277	3,514	1,722	500	125,418
キャリアブレーション後	4,754	6,838	2,727	4,966	2,414	4,873	12,842	395	2,828	1,773	75	125,418

表 2: 年齢層

	24歳以下 男性	25歳～29歳 男性	30歳以上 男性	24歳以下 女性	25歳～29歳 女性	30歳以上 女性	6年制	合計
キャリアブレーション前	59,045	4,683	7,343	28,596	4,060	6,805	14,886	125,418
キャリアブレーション後	59,443	4,491	4,046	24,149	3,690	4,445	25,155	125,418

表 3: 学生種別

	課程学生	社会人	留学生	6年制	合計
キャリアブレーション前	79,775	11,503	19,254	14,886	125,418
キャリアブレーション後	75,939	10,161	14,164	25,155	125,418

表 4: 大学グループ

	グループ1	グループ2 国公立	グループ2 私立	グループ3 修士	グループ3 6年制	合計
キャリアブレーション前	14,740	15,140	5,605	77,092	12,841	125,418
キャリアブレーション後	14,106	19,303	7,750	62,435	21,823	125,418

表 5: 大学規模区分

	国立 重点支援①	国立 重点支援②	国立 重点支援③	公立	私立 100人未満	私立 500人未満	私立 1,500人未満	私立 1,500人以上	合計
キャリアブレーション前	32,064	5,913	26,159	7,697	21,930	14,963	12,856	3,837	125,418
キャリアブレーション後	34,916	4,591	24,131	7,649	22,619	12,794	12,940	5,778	125,418

キャリブレーションに用いた変数ごとの、最終的なキャリブレーションウェイトの分布は図4のとおりである。特に6年制学部 of 6年生の回収が少なかったことが分かる。

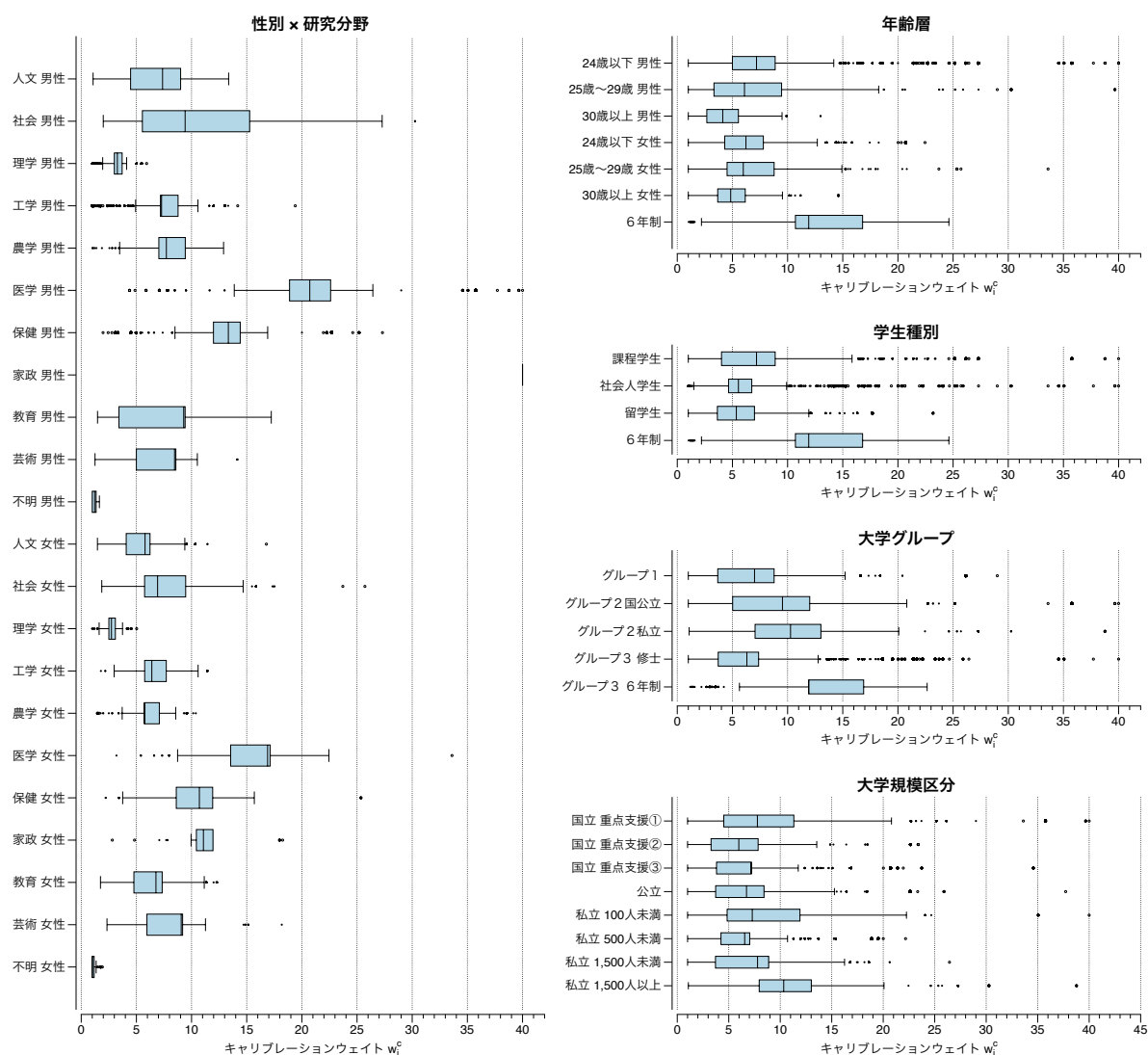


図 2: キャリブレーションウェイトの分布

1.3 各変数の定義

1.3.1 性別×研究分野

修士追跡調査の性別は Q3 による。また、修士追跡調査の研究分野は Q12 による。追跡調査における研究分野と学校基本調査における研究分野の対応は、第 3 節の表 11 のとおりである。

1.3.2 年齢層

修士追跡調査の年齢層は、2018 から Q4 の生年を引いて求める。学校基本調査の年齢層は、令和元年度学校基本調査における入学者の入学時の年齢を用いる。

1.3.3 学生種別

修士追跡調査の Q10 が「6 年制学科」は「6 年制」とする。Q5 国籍が「日本」以外は「留学生」とする。Q16 社会人経験が「ある」は「社会人」とする。残りは「課程学生」とする。

1.3.4 大学グループ

グループ 1： 東京大学、京都大学、大阪大学、東北大学

グループ 2 国公立： 北海道大学、筑波大学、千葉大学、東京工業大学、金沢大学、名古屋大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学

グループ 2 私立： 慶應義塾大学、早稲田大学、日本大学

グループ 3 修士： 上記以外の全ての大学、不明の修士課程等

グループ 3 6 年制： 上記以外の全ての大学、不明の 6 年制学部

1.3.5 大学規模区分

国立 重点支援①： 北海道大学、東北大学、筑波大学、千葉大学、東京大学、東京農工大学、東京工業大学、一橋大学、金沢大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学

国立 重点支援②： 筑波技術大学、東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京学芸大学、東京芸術大学、東京海洋大学、お茶の水女子大学、電気通信大学、奈良女子大学、九州工業大学、鹿屋体育大学、政策研究大学院大学、総合研究大学院大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学

国立 重点支援③： 上記以外の国立大学

公立： 公立大学

私立 100 人未満： 修士課程在籍者数が 100 人未満の私立大学

私立 500 人未満： 修士課程在籍者数が 100 人以上 500 人未満の私立大学

私立 1,500 人未満： 修士課程在籍者数が 500 人以上 1,500 人未満の私立大学

私立 1,500 人以上： 修士課程在籍者数が 1,500 人以上の私立大学

2 資料

以下の表 11 は、追跡調査における分野と学校基本調査における分野の対応表である。

表 2: 分野の対応表

追跡調査		学校基本調査	
対応のためのコード		対応のためのコード	
C	1 [理学] 数学		人 文 科 学
C	2 [理学] 情報科学	A	文学
C	3 [理学] 物理	A	史学
C	4 [理学] 化学	A	哲学
C	5 [理学] 生物	A	その他
C	6 [理学] 地学		社 会 科 学
C	7 [理学] その他（分類不能を含む）	B	法学・政治学
D	8 [工学] 機械・船舶	B	商学・経済学
D	9 [工学] 電気・通信	B	社会学
D	10 [工学] 土木・建築	B	その他
D	11 [工学] 応用化学		理 学
D	12 [工学] 応用理学	C	数学
D	13 [工学] 原子力	C	物理学
D	14 [工学] 材料	C	化学
D	15 [工学] 繊維	C	生物
D	16 [工学] 航空	C	地学
D	17 [工学] 経営工学	C	原子力理学
D	18 [工学] その他（分類不能を含む）	C	その他
E	19 [農学] 農学		工 学
E	20 [農学] 農芸化学	D	機械工学
E	21 [農学] 農業工学	D	電気通信工学
E	22 [農学] 農業経済	D	土木・建築工学
E	23 [農学] 林学	D	応用化学
E	24 [農学] 林産学	D	応用理学
E	25 [農学] 獣医・畜産	D	原子力工学
E	26 [農学] 水産	D	鉱山学
E	27 [農学] その他（分類不能を含む）	D	金属工学
F	28 [保健] 医学	D	繊維工学
G	29 [保健] 歯学	D	船舶工学
G	30 [保健] 薬学	D	航空工学
G	31 [保健] 看護	D	経営工学
G	32 [保健] その他（分類不能を含む）	D	工芸学
A	33 [人文] 文学	D	その他
A	34 [人文] 史学		農 学
A	35 [人文] 哲学	E	農学
A	36 [人文] その他（分類不能を含む）	E	農芸化学
B	37 [社会] 法学・政治	E	農業工学
B	38 [社会] 商学・経済	E	農業経済学
B	39 [社会] 社会学	E	林学
B	40 [社会] その他（分類不能を含む）	E	林産学
A	41 [その他] 心理学	E	獣医学畜産学
H	42 [その他] 家政	E	水産学
I	43 [その他] 教育	E	その他
J	44 [その他] 芸術・その他		
K	45 [不明] 不明		
K	99		

対応のためのコード	
	保 健
F	医学
G	歯学
G	薬学
G	その他
	商 船
非割当	商船学
	家 政
H	家政学
H	食物学
H	被服学
H	住居学
H	児童学
H	その他
	教 育
I	教育学
I	教員養成
I	体育学
I	その他
	芸 術
J	美術
J	デザイン
J	音楽
J	その他
	そ の 他
C	自然科学
B	社会・自然科学
A	人文・社会科学
非割当	その他

修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査

(令和2年度修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)及び修了(卒業)予定者)



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



***** 本調査のねらいと概要 *****

科学技術イノベーションの重要な担い手である若手研究者の安定的なポストの不足やキャリアパスの多様性の欠如など、若手研究者を取り巻く環境は厳しく、これが博士課程への進学率の低下や研究者の魅力の低下の一つの要因となっています。このような現状を踏まえると、大学院修了者の社会での活躍状況の変化を継続的に把握することによって、大学院における学生の処遇改善、大学院修了者の産業界を含めた多様なキャリアパスと流動の拡大等、若手研究者を取り巻く状況の改善と魅力の抜本的な向上を図るための支援策に繋げる必要があります。そのため、文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)では、博士人材のキャリアパスの透明化を目指し、客観的根拠に基づく政策形成の実現に向けたエビデンスを構築するために、「博士人材追跡調査」を実施しておりますが、今回、本調査は、令和2年度(2020年4月1日～2021年3月31日)に修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)予定者全員を対象にしており、修士課程(6年制学科を含む)在籍時における経済状況や教育研究上での経験が、その後の進路決定プロセス、キャリア形成、研究・生活状況等に与える影響を継続的に把握することを目的としております。調査の負荷軽減の工夫、個人情報の保護には万全を期すよう努めておりますので、御協力戴きます様、宜しくお願い申し上げます。なお、本調査結果については、報告書の刊行と同時にNISTEPのホームページに掲載する予定です。

調査に対して、ご意見やご提案がありましたら、最後の設問にご入力ください。
12月14日(月曜日)までに御回答ください。
一貫制博士課程、区分制博士課程、専門職学位課程の方は、設問の「修士課程」をご自身の在籍する課程と読み替えてご回答下さい。

次へ

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。
回答は、各ページ60分以内に送信をしてください。
JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

-----<改ページ>-----

Q1	以下の説明等をお読み戴き、本調査の趣旨及び個人情報の取り扱いにご同意戴ける場合は「同意する」ボタンをクリックして、回答画面へ進んでください。 ご同意戴けない場合は「同意しない」ボタンをクリックして、調査を終了してください。
----	--

「修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査」とは

科学技術イノベーションの重要な担い手である若手研究者の安定的なポストの不足やキャリアパスの多様性の欠如など、若手研究者を取り巻く環境は厳しく、これが博士課程への進学率の低下や研究者の魅力の低下の一つの要因となっています。このような現状を踏まえると、大学院修了者の社会での活躍状況の変化を継続的に把握することによって、大学院における学生の処遇改善、大学院修了者の産業界を含めた多様なキャリアパスと流動の拡大等、若手研究者を取り巻く状況の改善と魅力の抜本的な向上を図るための支援策に繋げる必要があります。そのため、文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)では、博士人材のキャリアパスの透明化を目指し、客観的根拠に基づく政策形成の実現に向けたエビデンスを構築するために、「博士人材追跡調査」を実施しておりますが、今回、令和2年度(2020年4月1日～2021年3月31日)に修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)予定者全員を対象とした「修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査」を実施します。本調査は、令和2年度(2020年4月1日～2021年3月31日)に修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)予定者全員を対象にしており、修士課程(6年制学科を含む)在籍時における経済状況や教育研究上での経験が、その後の進路決定プロセス、キャリア形成、研究・生活状況等に与える影響を継続的に把握することを目的としております。調査の負荷軽減の工夫、個人情報の保護には万全を期すよう努めておりますので、御協力戴きます様、宜しくお願い申し上げます。なお、本調査結果については、報告書の刊行と同時にNISTEPのホームページに掲載する予定です。

- 個人情報の取り扱いについて
- (1) 利用目的
本調査により回答いただいた個人情報を、以下のために利用します。
i. 大学院(6年制学科)修了後のキャリアの追跡

- ii. 大学院(6年制学科)における活動及び職業等の状況に関する調査・分析・学術研究
 - iii. 大学院(6年制学科)における活動及び職業等の状況に関する統計の作成
 - iv. 大学院(6年制学科)修了者が活躍するための政策立案
 - v. i からivに関する各種調査、依頼、情報提供のための通信・連絡
- ※収集したデータは統計的に処理され、個人が特定されるような情報は一切公開されません。

(2)安全のための措置

文部科学省は、個人情報について、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律、その他関係する法令に基づき、適切に取り扱うものとし、登録情報の漏えい、滅失又はき損の防止その他の登録情報の適切な管理のために必要な措置を講じるものとします。

(文部科学省 科学技術・学術政策研究所)

☐ 同意する

☐ 同意しない

-----<改ページ>-----

【終了(END2)】

ご協力ありがとうございました。
これでアンケートは終了です。ご回答ありがとうございました

【条件】

Q1の選択肢『2.同意しない』を選択した

-----<改ページ>-----

Q2 あなたのお名前を漢字、及び英字で入力してください。

氏名(漢字)

姓:

名:

氏名(英字)

First name:

Middle name:

Family name:

-----<改ページ>-----

Q3 あなたの性別を選択してください。
(回答は1つ)

☐ 男性

☐ 女性

-----<改ページ>-----

Q4 あなたの生まれた年を西暦でお答えください。
(回答は半角数字で入力)

西暦 年

-----<改ページ>-----

Q5

あなたの国籍・地域を選択してください。
(回答は1つ)

☐ 日本

<北・中・南米>

☐ アメリカ合衆国

☐ カナダ

☐ ブラジル

<欧州(ヨーロッパ)>

☐ フランス

☐ ロシア

☐ ドイツ

☐ イギリス

<アジア>

☐ 中国

☐ 台湾

☐ 韓国

☐ タイ

☐ インドネシア

☐ ベトナム

☐ バングラディッシュ

☐ マレーシア

☐ インド

<オセアニア>

☐ オーストラリア

<アフリカ>

☐ エジプト

☐ ケニア

<その他>

☐ その他 国名:

-----<改ページ>-----

Q6	現在のお住まいの都道府県を選択してください。 (回答は1つ)		
<input type="radio"/> 北海道	<input type="radio"/> 石川県	<input type="radio"/> 岡山県	
<input type="radio"/> 青森県	<input type="radio"/> 福井県	<input type="radio"/> 広島県	
<input type="radio"/> 岩手県	<input type="radio"/> 山梨県	<input type="radio"/> 山口県	
<input type="radio"/> 宮城県	<input type="radio"/> 長野県	<input type="radio"/> 徳島県	
<input type="radio"/> 秋田県	<input type="radio"/> 岐阜県	<input type="radio"/> 香川県	
<input type="radio"/> 山形県	<input type="radio"/> 静岡県	<input type="radio"/> 愛媛県	
<input type="radio"/> 福島県	<input type="radio"/> 愛知県	<input type="radio"/> 高知県	
<input type="radio"/> 茨城県	<input type="radio"/> 三重県	<input type="radio"/> 福岡県	
<input type="radio"/> 栃木県	<input type="radio"/> 滋賀県	<input type="radio"/> 佐賀県	
<input type="radio"/> 群馬県	<input type="radio"/> 京都府	<input type="radio"/> 長崎県	
<input type="radio"/> 埼玉県	<input type="radio"/> 大阪府	<input type="radio"/> 熊本県	
<input type="radio"/> 千葉県	<input type="radio"/> 兵庫県	<input type="radio"/> 大分県	
<input type="radio"/> 東京都	<input type="radio"/> 奈良県	<input type="radio"/> 宮崎県	
<input type="radio"/> 神奈川県	<input type="radio"/> 和歌山県	<input type="radio"/> 鹿児島県	
<input type="radio"/> 新潟県	<input type="radio"/> 鳥取県	<input type="radio"/> 沖縄県	
<input type="radio"/> 富山県	<input type="radio"/> 島根県	<input type="radio"/> 日本国外	

-----<改ページ>-----

Q7	<p>あなたが最もよく利用し、将来にわたり連絡可能なEメールアドレスをご入力ください。 (回答は半角英数字で入力)</p> <p>※所属機関が変わった場合にも連絡できるEメールアドレスをご入力いただけますと幸いです。</p>
-----------	--

Eメールアドレス:

確認のため、再度Eメールアドレスをご入力ください。

Eメールアドレス:

-----<改ページ>-----

Q8	あなたが在籍している大学(6年制学科)及び大学院(修士課程)の種別を選択してください。 (回答は1つ)
<input type="radio"/> 国立	
<input type="radio"/> 公立	
<input type="radio"/> 私立	

-----<改ページ>-----

Q9

あなたが在籍している大学(6年制学科)及び大学院(修士課程)をお答えください。
(回答は1つ)

※選択肢にない場合は、その他の大学に直接ご入力ください。

<div><div></div>北海道大学</div>	<div><div></div>九州大学</div>	<div><div></div>新見公立大学</div>
<div><div></div>北海道教育大学</div>	<div><div></div>九州工業大学</div>	<div><div></div>尾道市立大学</div>
<div><div></div>室蘭工業大学</div>	<div><div></div>佐賀大学</div>	<div><div></div>県立広島大学</div>
<div><div></div>小樽商科大学</div>	<div><div></div>長崎大学</div>	<div><div></div>広島市立大学</div>
<div><div></div>帯広畜産大学</div>	<div><div></div>熊本大学</div>	<div><div></div>福山市立大学</div>
<div><div></div>旭川医科大学</div>	<div><div></div>大分大学</div>	<div><div></div>下関市立大学</div>
<div><div></div>北見工業大学</div>	<div><div></div>宮崎大学</div>	<div><div></div>山口県立大学</div>
<div><div></div>弘前大学</div>	<div><div></div>鹿児島大学</div>	<div><div></div>山陽小野田市立山口東京理科大学</div>
<div><div></div>岩手大学</div>	<div><div></div>鹿屋体育大学</div>	<div><div></div>香川県立保健医療大学</div>
<div><div></div>東北大学</div>	<div><div></div>琉球大学</div>	<div><div></div>愛媛県立医療技術大学</div>
<div><div></div>宮城教育大学</div>	<div><div></div>政策研究大学院大学</div>	<div><div></div>高知県立大学</div>
<div><div></div>秋田大学</div>	<div><div></div>総合研究大学院大学</div>	<div><div></div>高知工科大学</div>
<div><div></div>山形大学</div>	<div><div></div>北陸先端科学技術大学院大学</div>	<div><div></div>北九州市立大学</div>
<div><div></div>福島大学</div>	<div><div></div>奈良先端科学技術大学院大学</div>	<div><div></div>九州歯科大学</div>
<div><div></div>茨城大学</div>	<div><div></div>公立はこだて未来大学</div>	<div><div></div>福岡県立大学</div>
<div><div></div>筑波大学</div>	<div><div></div>札幌医科大学</div>	<div><div></div>福岡女子大学</div>
<div><div></div>筑波技術大学</div>	<div><div></div>札幌市立大学</div>	<div><div></div>長崎県立大学</div>
<div><div></div>宇都宮大学</div>	<div><div></div>公立千歳科学技術大学</div>	<div><div></div>熊本県立大学</div>
<div><div></div>群馬大学</div>	<div><div></div>青森県立保健大学</div>	<div><div></div>大分県立看護科学大学</div>
<div><div></div>埼玉大学</div>	<div><div></div>青森公立大学</div>	<div><div></div>宮崎県立看護大学</div>
<div><div></div>千葉大学</div>	<div><div></div>岩手県立大学</div>	<div><div></div>沖縄県立看護大学</div>
<div><div></div>東京大学</div>	<div><div></div>宮城大学</div>	<div><div></div>沖縄県立芸術大学</div>
<div><div></div>東京医科歯科大学</div>	<div><div></div>秋田県立大学</div>	<div><div></div>名桜大学</div>
<div><div></div>東京外国語大学</div>	<div><div></div>国際教養大学</div>	<div><div></div>愛知医科大学</div>
<div><div></div>東京学芸大学</div>	<div><div></div>山形県立保健医療大学</div>	<div><div></div>愛知学院大学</div>
<div><div></div>東京農工大学</div>	<div><div></div>会津大学</div>	<div><div></div>青山学院大学</div>
<div><div></div>東京芸術大学</div>	<div><div></div>福島県立医科大学</div>	<div><div></div>麻布大学</div>
<div><div></div>東京工業大学</div>	<div><div></div>茨城県立医療大学</div>	<div><div></div>岩手医科大学</div>
<div><div></div>東京海洋大学</div>	<div><div></div>群馬県立県民健康科学大学</div>	<div><div></div>大阪医科大学</div>
<div><div></div>お茶の水女子大学</div>	<div><div></div>群馬県立女子大学</div>	<div><div></div>学習院大学</div>
<div><div></div>電気通信大学</div>	<div><div></div>高崎経済大学</div>	<div><div></div>関西大学</div>
<div><div></div>一橋大学</div>	<div><div></div>前橋工科大学</div>	<div><div></div>関西医科大学</div>
<div><div></div>横浜国立大学</div>	<div><div></div>埼玉県立大学</div>	<div><div></div>関西学院大学</div>
<div><div></div>新潟大学</div>	<div><div></div>産業技術大学院大学</div>	<div><div></div>北里大学</div>
<div><div></div>長岡技術科学大学</div>	<div><div></div>東京都立東京(2020.4.1以前は首都大学東京)</div>	<div><div></div>京都女子大学</div>
<div><div></div>上越教育大学</div>	<div><div></div>神奈川県立保健福祉大学</div>	<div><div></div>近畿大学</div>
<div><div></div>富山大学</div>	<div><div></div>横浜市立大学</div>	<div><div></div>久留米大学</div>
<div><div></div>金沢大学</div>	<div><div></div>長岡造形大学</div>	<div><div></div>慶應義塾大学</div>
<div><div></div>福井大学</div>	<div><div></div>新潟県立大学</div>	<div><div></div>國學院大學</div>
<div><div></div></div>	<div><div></div></div>	<div><div></div></div>

参考資料

<input type="checkbox"/> 山梨大学	<input type="checkbox"/> 新潟県立看護大学	<input type="checkbox"/> 国際医療福祉大学
<input type="checkbox"/> 信州大学	<input type="checkbox"/> 富山県立大学	<input type="checkbox"/> 駒澤大学
<input type="checkbox"/> 岐阜大学	<input type="checkbox"/> 石川県立大学	<input type="checkbox"/> 産業医科大学
<input type="checkbox"/> 静岡大学	<input type="checkbox"/> 石川県立看護大学	<input type="checkbox"/> 自治医科大学
<input type="checkbox"/> 浜松医科大学	<input type="checkbox"/> 金沢美術工芸大学	<input type="checkbox"/> 順天堂大学
<input type="checkbox"/> 名古屋大学	<input type="checkbox"/> 福井県立大学	<input type="checkbox"/> 昭和大学
<input type="checkbox"/> 愛知教育大学	<input type="checkbox"/> 都留文科大学	<input type="checkbox"/> 聖マリアンナ医科大学
<input type="checkbox"/> 名古屋工業大学	<input type="checkbox"/> 山梨県立大学	<input type="checkbox"/> 大正大学
<input type="checkbox"/> 豊橋技術科学大学	<input type="checkbox"/> 長野県看護大学	<input type="checkbox"/> 中京大学
<input type="checkbox"/> 三重大学	<input type="checkbox"/> 公立諏訪東京理科大学	<input type="checkbox"/> 帝京大学
<input type="checkbox"/> 滋賀大学	<input type="checkbox"/> 岐阜県立看護大学	<input type="checkbox"/> 東海大学
<input type="checkbox"/> 滋賀医科大学	<input type="checkbox"/> 岐阜薬科大学	<input type="checkbox"/> 東京慈恵会医科大学
<input type="checkbox"/> 京都大学	<input type="checkbox"/> 情報科学芸術大学院大学	<input type="checkbox"/> 東京女子医科大学
<input type="checkbox"/> 京都教育大学	<input type="checkbox"/> 静岡県立大学	<input type="checkbox"/> 東京電機大学
<input type="checkbox"/> 京都工芸繊維大学	<input type="checkbox"/> 静岡文化芸術大学	<input type="checkbox"/> 東京農業大学
<input type="checkbox"/> 大阪大学	<input type="checkbox"/> 愛知県立大学	<input type="checkbox"/> 東京理科大学
<input type="checkbox"/> 大阪教育大学	<input type="checkbox"/> 愛知県立芸術大学	<input type="checkbox"/> 同志社大学
<input type="checkbox"/> 兵庫教育大学	<input type="checkbox"/> 名古屋市立大学	<input type="checkbox"/> 東邦大学
<input type="checkbox"/> 神戸大学	<input type="checkbox"/> 三重県立看護大学	<input type="checkbox"/> 東北学院大学
<input type="checkbox"/> 奈良教育大学	<input type="checkbox"/> 滋賀県立大学	<input type="checkbox"/> 東洋大学
<input type="checkbox"/> 奈良女子大学	<input type="checkbox"/> 京都市立芸術大学	<input type="checkbox"/> 日本医科大学
<input type="checkbox"/> 和歌山大学	<input type="checkbox"/> 京都府立大学	<input type="checkbox"/> 日本女子大学
<input type="checkbox"/> 鳥取大学	<input type="checkbox"/> 京都府立医科大学	<input type="checkbox"/> 日本大学
<input type="checkbox"/> 島根大学	<input type="checkbox"/> 大阪市立大学	<input type="checkbox"/> 福岡大学
<input type="checkbox"/> 岡山大学	<input type="checkbox"/> 大阪府立大学	<input type="checkbox"/> 藤田医科大学
<input type="checkbox"/> 広島大学	<input type="checkbox"/> 神戸市外国語大学	<input type="checkbox"/> 佛教大学
<input type="checkbox"/> 山口大学	<input type="checkbox"/> 神戸市看護大学	<input type="checkbox"/> 法政大学
<input type="checkbox"/> 徳島大学	<input type="checkbox"/> 兵庫県立大学	<input type="checkbox"/> 明治大学
<input type="checkbox"/> 鳴門教育大学	<input type="checkbox"/> 奈良県立医科大学	<input type="checkbox"/> 立命館大学
<input type="checkbox"/> 香川大学	<input type="checkbox"/> 和歌山県立医科大学	<input type="checkbox"/> 龍谷大学
<input type="checkbox"/> 愛媛大学	<input type="checkbox"/> 公立鳥取環境大学	<input type="checkbox"/> 早稲田大学
<input type="checkbox"/> 高知大学	<input type="checkbox"/> 島根県立大学	<input type="checkbox"/> その他の大学 大学名: <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 福岡教育大学	<input type="checkbox"/> 岡山県立大学	

-----<改ページ>-----

Q10 あなたが在籍している学部(6年制学科)・研究科(修士課程)を選択・ご入力ください。

<input type="checkbox"/> 6年制学科 学科名:	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 修士課程 研究科名:	<input type="text"/>

-----<改ページ>-----

【条件】

Q10の選択肢『2.修士課程 研究科名:』を選択した

Q10_2

あなたが在籍している大学院の課程を選択してください。
(回答は1つ)☐ 修士課程☐ 一貫制博士課程☐ 区分制博士課程☐ 専門職学位課程

-----<改ページ>-----

【条件】

Q10の選択肢『2.修士課程 研究科名:』を選択した

Q11

あなたの出身大学(学部)についてお答えください。
(回答は1つ)☐ 修士課程と同じ大学☐ 修士課程とは違う国内の大学☐ 修士課程とは違う国外の大学☐ その他 具体的に:

-----<改ページ>-----

Q12

修士課程在籍(6年制学科)時のあなたの研究分野に最も近いものを、以下から選択してください。
(回答は1つ)

<分類:理学>

☐ 数学☐ 情報科学☐ 物理☐ 化学☐ 生物☐ 地学☐ その他理学(分類不能を含む)

<分類:工学>

☐ 機械・船舶☐ 電気・通信☐ 土木・建築☐ 応用化学☐ 応用理学☐ 原子力☐ 材料☐ 繊維☐ 航空☐ 経営工学☐ その他工学(分類不能を含む)

<分類:農学>

<input type="radio"/> 農学	<input type="radio"/> 林産学
<input type="radio"/> 農芸化学	<input type="radio"/> 獣医・畜産
<input type="radio"/> 農業工学	<input type="radio"/> 水産
<input type="radio"/> 農業経済	<input type="radio"/> その他農学(分類不能を含む)
<input type="radio"/> 林学	

<分類:保健>

<input type="radio"/> 医学	<input type="radio"/> 看護
<input type="radio"/> 歯学	<input type="radio"/> その他保健(分類不能を含む)
<input type="radio"/> 薬学	

<分類:人文>

<input type="radio"/> 文学	<input type="radio"/> 哲学
<input type="radio"/> 史学	<input type="radio"/> その他人文(分類不能を含む)

<分類:社会>

<input type="radio"/> 法学・政治	<input type="radio"/> 社会学
<input type="radio"/> 商学・経済	<input type="radio"/> その他社会(分類不能を含む)

<分類:その他>

<input type="radio"/> 心理学	<input type="radio"/> 教育
<input type="radio"/> 家政	<input type="radio"/> 芸術・その他

<不明>

<input type="radio"/> 不明

-----<改ページ>-----

【条件】
!Q10_2の選択肢『2.一貫制博士課程』を選択した

Q13	修士課程(6年制学科)の入学年月及び修了予定年月を西暦でご入力ください。 (回答は半角数字で入力)
------------	--

西暦 年

月から

西暦 年

月まで

-----<改ページ>-----

【条件】
Q10の選択肢『2.修士課程 研究科名:』を選択した

Q14	あなたが修士課程に進むことを決めたのはいつ頃でしたか。 (回答は1つ)
------------	--

☐ 学部入学前
 ☐ 学部1回生(1年生)の時
 ☐ 学部2回生(2年生)の時
 ☐ 学部3回生(3年生)の時
 ☐ 学部4回生(4年生)の時
 ☐ 大学卒業後、社会に出てから
 ☐ その他 具体的に:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q10の選択肢『2.修士課程 研究科名:』を選択した

Q15	修士課程に進学した理由は何ですか。該当する項目すべてを選択してください。 (回答はいくつでも)
------------	--

☐ 研究したい課題や問題意識があった
 ☐ 研究することに興味・関心があった
 ☐ 自分自身の能力や技能を高めることに関心があった
 ☐ 大学教員や研究者になるために必須だった
 ☐ フェローシップ等が得られた
 ☐ 雇用先で勧められた、または雇用先で学位が必要だった
 ☐ 修士号を取れば、良い仕事や良い収入が期待できるから
 ☐ 尊敬している先輩や、目標となる人が進学しているから
 ☐ 親や指導教授等から進学をすすめられた
 ☐ 学生でいたかった、または学生という身分が必要であった
 ☐ その他 具体的に:

-----<改ページ>-----

Q16	修士課程(6年制学科)に在籍する前に、社会人経験がありましたか。 (回答は1つ) ※「社会人経験」とは、学校教育機関を一旦離れ、経常的な収入を得る仕事の経験等を指します。
------------	---

☐ ある
 ☐ ない

-----<改ページ>-----

【条件】
Q16の選択肢『1.ある』を選択した

Q17	<p>あなたが修士課程(6年制学科)在籍中、その仕事は継続していましたか。 (回答は1つ)</p> <p>%%#HQ17[1]%%</p>
------------	---

- ☐ 在職していた
- ☐ 休職していた
- ☐ 辞めていた
- ☐ 上記には当てはまらない

-----<改ページ>-----

【条件】
Q16の選択肢『1.ある』を選択した

Q18	<p>修士課程(6年制学科)在籍までの最も主な社会人経験について、雇用先の経営組織を選択してください。 (回答は1つ)</p> <p>%%#HQ17[2]%%</p>
------------	---

- ☐ 大学等
- ☐ 公的研究機関
- ☐ 民間企業
- ☐ 非営利団体(学校・行政等の公的機関等含む)
- ☐ 個人事業主
- ☐ その他・無所属

-----<改ページ>-----

Q19	<p>修士課程(6年制学科)在籍中、ティーチング・アシスタント(TA)の経験はありますか。 (回答は1つ)</p> <p>※経験がある方は、1年間のTAへの従事時間を整数で入力してください。入力できない場合(裁量労働制の場合等)には、空欄のままにしてください。</p> <p>%%#HQ17[3]%%</p>
------------	--

- ☐ ある 1年間の従事時間：
 時間
- ☐ ない

-----<改ページ>-----

【条件】
Q19の選択肢『1.ある 1年間の従事...』を選択した

Q20	<p>あなたのTA業務の内容について以下の選択肢から該当するものをすべて選択してください。 (回答はいくつでも)</p>
------------	--

- ☐ 実験・実習の準備
- ☐ 実験・実習時の学生への指導・助言

<input type="checkbox"/>	学生への講義の実施
<input type="checkbox"/>	教育の講義のサポート
<input type="checkbox"/>	セミナーや演習などのコメント・指導
<input type="checkbox"/>	レポートや課題・試験などの採点
<input type="checkbox"/>	レポートや課題・試験などの評価
<input type="checkbox"/>	事業等への出席の記録
<input type="checkbox"/>	学生からの質問対応
<input type="checkbox"/>	その他 具体的に: <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

Q21	<p>修士課程(6年制学科)において、授業料減免措置を受けていましたか。受けていた場合は金額をお答えください。 (回答は1つ)</p> <p>%%#HQ17[4]%%</p>
------------	---

<input type="radio"/>	減免措置を受けていた 総額 <input type="text"/> 万円
<input type="radio"/>	減免措置を受けていなかった

-----<改ページ>-----

Q22	<p>修士課程(6年制学科)修了(卒業)時に、返済義務のある奨学金、借入金がありますか。ある場合は総額をお答えください。 (回答は半角数字で入力)</p> <p>%%#HQ17[5]%%</p>
------------	---

<input type="radio"/>	ある 総額 <input type="text"/> 万円
<input type="radio"/>	ない

-----<改ページ>-----

Q23	<p>修士課程(6年制学科)修了(卒業)直後の進路予定について入力してください。 (回答は1つ)</p> <p>%%#HQ17[6]%%</p>
------------	--

<input type="radio"/>	博士課程への進学
<input type="radio"/>	博士課程進学の準備
<input type="radio"/>	就職先が決定している(起業・現在の勤務先での就業継続を含む)
<input type="radio"/>	就職活動中
<input type="radio"/>	医師臨床研修
<input type="radio"/>	未定
<input type="radio"/>	その他 具体的に <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

【条件】

Q23の選択肢『5.医師臨床研修』を選択した

Q24

あなたは医師臨床研修の後に、いずれ博士課程へ進学したいと思いますか。
(回答は1つ)

☐ 進学したいと思う

☐ どちらともいえない

☐ 進学しないと思う

-----<改ページ>-----

【条件】

Q23の選択肢『1.博士課程への進学』、『2.博士課程進学の準備』の中でいずれかを選択した

Q25

博士課程への進学を決めた理由について、以下の項目の影響について当てはまるものを選択してください。
(回答はいくつでも)

☐ 研究したい課題や問題意識があった

☐ 研究することに興味・関心があった

☐ 自分自身の能力や技能を高めることに関心があった

☐ 大学教員や研究者になるために必須だった

☐ フェローシップ等が得られた

☐ 雇用先で勧められた、または雇用先で学位が必要だった

☐ 博士号を取れば、良い仕事や良い収入が期待できるから

☐ 尊敬している先輩や、目標となる人が進学しているから

☐ 親や指導教授等から進学をすすめられた

☐ 学生でいたかった、または学生という身分が必要であった

☐ その他 具体的に:

-----<改ページ>-----

【条件】

Q23の選択肢『3.就職先が決定して...』を選択した

Q26

就職先の事業内容として、最も当てはまるものを選択してください。
(回答は1つ)

☐ 農業、林業、漁業

☐ 鉱業、採石業、砂利採取業

☐ 建設業

☐ 製造業

☐ 電気・ガス・熱供給・水道業

☐ 情報通信業

<input type="radio"/> 運輸業、郵便業
<input type="radio"/> 卸売業
<input type="radio"/> 小売業
<input type="radio"/> 金融業、保険業
<input type="radio"/> 不動産業、物品賃貸業
<input type="radio"/> 学術研究、専門・技術サービス業
<input type="radio"/> 宿泊業、飲食サービス業
<input type="radio"/> 生活関連サービス業、娯楽業
<input type="radio"/> 教育、学習支援業
<input type="radio"/> 医療、福祉
<input type="radio"/> サービス業（他に分類されるものを除く）
<input type="radio"/> 公務（他に分類されるものを除く）
<input type="radio"/> その他 具体的に： <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.就職先が決定して...』を選択した

Q27	就職先の雇用人数はどのくらいですか。雇用主が管轄するすべての場所（支店、支部等）についてカウントして就業人数を選択してください。 （回答は1つ）
------------	---

<input type="radio"/> 5人以下
<input type="radio"/> 6人～20人
<input type="radio"/> 21人～50人
<input type="radio"/> 51人～100人
<input type="radio"/> 101人～200人
<input type="radio"/> 201人～300人
<input type="radio"/> 301人～1000人
<input type="radio"/> 1001人以上
<input type="radio"/> わからない

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.就職先が決定して...』を選択した

Q28	就職先の資本金を選択してください。 （回答は1つ）
------------	------------------------------

<input type="radio"/> 1000万円以下
<input type="radio"/> 1000万円超～3000万円以下
<input type="radio"/> 3000万円超～5000万円以下
<input type="radio"/> 5000万円超～1億円以下
<input type="radio"/> 1億円超～3億円未満

☐ 3億円超

☐ わからない

-----<改ページ>-----

【条件】

Q23の選択肢『3.就職先が決定して...』を選択した

Q29	就職先での、あなたの主な仕事は何ですか。最も当てはまるものを一つ選んでください。 (回答は1つ)		
<input type="radio"/> 管理的公務員	<input type="radio"/> 法務従事者(裁判官、弁護士、司法書士他)	<input type="radio"/> 外勤事務従事者(集金人、調査員)	
<input type="radio"/> 法人・団体役員	<input type="radio"/> 経営・金融・保健専門職業従事者(公認会計士、税理士、社会保険労務士等)	<input type="radio"/> 運輸・郵便事務従事者	
<input type="radio"/> 法人・団体管理職員	<input type="radio"/> 経営・業務コンサルタント	<input type="radio"/> 事務用機器操作員	
<input type="radio"/> その他の管理的職業従事者	<input type="radio"/> 学校教員(幼稚園) 特別支援等学校含む	<input type="radio"/> 商品販売・営業職・販売類似職業従事者(小売店主、販売員等)	
<input type="radio"/> 研究者(自然科学系)	<input type="radio"/> 学校教員(小・中学校) 特別支援等学校含む	<input type="radio"/> 家庭生活支援・介護サービス職業従事者	
<input type="radio"/> 研究者(人文科学系)	<input type="radio"/> 学校教員(高等学校) 特別支援等学校含む	<input type="radio"/> 保健医療・生活衛生サービス職業従事者	
<input type="radio"/> 農林水産技術者	<input type="radio"/> 学校教員(高専、短大)	<input type="radio"/> 飲食物調理、接客従事者	
<input type="radio"/> 製造技術者(開発)	<input type="radio"/> 学校教員(大学、大学院)	<input type="radio"/> 居住施設・ビル等管理人	
<input type="radio"/> 製造技術者(開発を除く)	<input type="radio"/> その他の教員	<input type="radio"/> その他サービス職業従事者	
<input type="radio"/> 建築・土木・測量技術者	<input type="radio"/> 宗教家	<input type="radio"/> 自衛官・司法警察職員、その他の保安職業従事者	
<input type="radio"/> 情報処理・通信等技術者(システム管理者、通信ネットワーク技術者)	<input type="radio"/> 著述家、記者、編集者	<input type="radio"/> 農・林・漁業技術者	
<input type="radio"/> 医師	<input type="radio"/> 美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	<input type="radio"/> 生産設備制御・機械組立設備制御・監視従事者	
<input type="radio"/> 歯科医師	<input type="radio"/> 音楽家、舞台芸術家、俳優等	<input type="radio"/> 製品製造・加工処理・機械組立・整備・修理従事者	
<input type="radio"/> 獣医師	<input type="radio"/> その他の専門的職業従事者(図書館司書、学芸員、カウンセラー等)	<input type="radio"/> 製品・機械検査・生産関連・生産類似作業従事者	
<input type="radio"/> 薬剤師	<input type="radio"/> 一般事務従事者(庶務事務員、人事事務員、受付、秘書)	<input type="radio"/> 鉄道・自動車・船舶・航空機運転・その他輸送事業者	
<input type="radio"/> 保健師、助産師、看護師	<input type="radio"/> 会計事務従事者(経理事務員等)	<input type="radio"/> 定置・建設機械運転・建設・電気・土木工事従事者	
<input type="radio"/> 医療技術・保健医療従事者(診療放射線技術師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、はり師等)	<input type="radio"/> 生産関連事務従事者	<input type="radio"/> その他	
<input type="radio"/> 社会福祉専門職業従事者(保育士、福祉相談指導等)	<input type="radio"/> 営業・販売事務従事者		

-----<改ページ>-----

Q30	あなたが、修士課程(6年制学科)在学中に希望していた(いる)仕事は何ですか。当てはまるものを選択してください。 (回答はいくつでも)		
<input type="checkbox"/> 管理的公務員	<input type="checkbox"/> 法務従事者(裁判官、弁護士、司法書士他)	<input type="checkbox"/> 外勤事務従事者(集金人、調査員)	

<input type="checkbox"/> 法人・団体役員	<input type="checkbox"/> 経営・金融・保健専門職業従事者（公認会計士、税理士、社会保険労務士等）	<input type="checkbox"/> 運輸・郵便事務従事者
<input type="checkbox"/> 法人・団体管理職員	<input type="checkbox"/> 経営・業務コンサルタント	<input type="checkbox"/> 事務用機器操作員
<input type="checkbox"/> その他の管理的職業従事者	<input type="checkbox"/> 学校教員（幼稚園）特別支援等学校含む	<input type="checkbox"/> 商品販売・営業職・販売類似職業従事者（小売店主、販売員等）
<input type="checkbox"/> 研究者（自然科学系）	<input type="checkbox"/> 学校教員（小・中学校）特別支援等学校含む	<input type="checkbox"/> 家庭生活支援・介護サービス職業従事者
<input type="checkbox"/> 研究者（人文科学系）	<input type="checkbox"/> 学校教員（高等学校）特別支援等学校含む	<input type="checkbox"/> 保健医療・生活衛生サービス職業従事者
<input type="checkbox"/> 農林水産技術者	<input type="checkbox"/> 学校教員（高専、短大）	<input type="checkbox"/> 飲食物調理、接客従事者
<input type="checkbox"/> 製造技術者（開発）	<input type="checkbox"/> 学校教員（大学、大学院）	<input type="checkbox"/> 居住施設・ビル等管理人
<input type="checkbox"/> 製造技術者（開発を除く）	<input type="checkbox"/> その他の教員	<input type="checkbox"/> その他サービス職業従事者
<input type="checkbox"/> 建築・土木・測量技術者	<input type="checkbox"/> 宗教家	<input type="checkbox"/> 自衛官・司法警察職員、その他の保安職業従事者
<input type="checkbox"/> 情報処理・通信等技術者（システム管理者、通信ネットワーク技術者）	<input type="checkbox"/> 著述家、記者、編集者	<input type="checkbox"/> 農・林・漁業技術者
<input type="checkbox"/> 医師	<input type="checkbox"/> 美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	<input type="checkbox"/> 生産設備制御・機械組立設備制御・監視従事者
<input type="checkbox"/> 歯科医師	<input type="checkbox"/> 音楽家、舞台芸術家、俳優等	<input type="checkbox"/> 製品製造・加工処理・機械組立・整備・修理従事者
<input type="checkbox"/> 獣医師	<input type="checkbox"/> その他の専門的職業従事者（図書館司書、学芸員、カウンセラー等）	<input type="checkbox"/> 製品・機械検査・生産関連・生産類似作業従事者
<input type="checkbox"/> 薬剤師	<input type="checkbox"/> 一般事務従事者（庶務事務員、人事事務員、受付、秘書）	<input type="checkbox"/> 鉄道・自動車・船舶・航空機運転・その他輸送事業者
<input type="checkbox"/> 保健師、助産師、看護師	<input type="checkbox"/> 会計事務従事者（経理事務員等）	<input type="checkbox"/> 定置・建設機械運転・建設・電気・土木工事従事者
<input type="checkbox"/> 医療技術・保健医療従事者（診療放射線技術師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、はり師等）	<input type="checkbox"/> 生産関連事務従事者	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 社会福祉専門職業従事者（保育士、福祉相談指導等）	<input type="checkbox"/> 営業・販売事務従事者	<input type="checkbox"/> 希望している（いた）仕事はない

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.就職先が決定して...』、『4.就職活動中』の中でいずれかを選択した

Q31	就職先を選ぶ際に、以下のうち重視した（重視する）事項を選んでください。 （回答はいくつでも）
<input type="checkbox"/>	自分の専門知識や技能を仕事に活かせる
<input type="checkbox"/>	研究職として働くことができる
<input type="checkbox"/>	自分の適性に合う仕事ができる
<input type="checkbox"/>	就職（起業）先に優秀な人材が集まっている
<input type="checkbox"/>	研修や留学などの教育制度が整っている
<input type="checkbox"/>	昇進の可能性がある
<input type="checkbox"/>	就職（起業）先機関が成長する可能性が高い
<input type="checkbox"/>	就職（起業）先機関の国際競争力が高い
<input type="checkbox"/>	仕事の社会的貢献度が大きい
<input type="checkbox"/>	従業員数や売上高など就職（起業）先機関の規模が大きい
<input type="checkbox"/>	定年まで働ける
<input type="checkbox"/>	

<input type="checkbox"/>	給与が高い
<input type="checkbox"/>	福利厚生が整備されている
<input type="checkbox"/>	就職(起業)先機関の立地がよい
<input type="checkbox"/>	仕事の拘束時間が短い
<input type="checkbox"/>	仕事上のストレスの程度が低い
<input type="checkbox"/>	その他 具体的に: <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.就職先が決定して...』を選択した

Q32	就職先をどのように見つけましたか。以下の中から、当てはまるものを選択してください。 (回答は1つ)
	※インターネットを利用したものも含まれます。

<input type="radio"/>	大学・大学院(指導教員からの紹介等)
<input type="radio"/>	縁故(友人・知人等を含む)
<input type="radio"/>	ハローワーク等の公的機関※
<input type="radio"/>	エージェント等の民間の職業紹介機関(大学・大学院を除く)※
<input type="radio"/>	就職情報サイト・求人情報専門誌・新聞・チラシ等
<input type="radio"/>	機関・企業のホームページ
<input type="radio"/>	機関・企業訪問
<input type="radio"/>	起業
<input type="radio"/>	その他 具体的に: <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.就職先が決定して...』、『4.就職活動中』の中でいずれかを選択した

Q33	博士課程への進学ではなく就職を選ぶ際に、以下の項目の影響について当てはまるものを選択してください。 (回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/>	社会に出て仕事がしたい
<input type="checkbox"/>	経済的に自立したい
<input type="checkbox"/>	大学より企業の研究環境の方がよい
<input type="checkbox"/>	社会人入学制度を利用すればいつでも博士課程に進学できる
<input type="checkbox"/>	大学教員などの仕事に魅力を感じない
<input type="checkbox"/>	研究室環境が好ましくない(競争が激しい、ストレスが多い、過酷等)
<input type="checkbox"/>	現在の成績では博士課程への編入学・進学は難しい
<input type="checkbox"/>	博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない
<input type="checkbox"/>	博士課程の進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪い
<input type="checkbox"/>	博士論文に値する研究テーマが見つけれない
<input type="checkbox"/>	博士課程に進学すると修了後の就職が心配である

☐ その他 具体的に:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.就職先が決定して...』～『7.その他 具体的に』の中でいずれかを選択した

Q34	<p>あなたは修士課程(6年制学科)在学中に博士課程への進学を検討したことはありますか。 (回答は1つ)</p> <p>%%#HQ34%%</p>
------------	---

☐ ある
☐ ない

-----<改ページ>-----

Q35	<p>日本国内の大学院博士課程への進学を検討する場合、どのような条件が整うことが重要ですか。重要だと思うものを3つまで選択してください。 (回答は3つまで選択)</p>
------------	--

☐ 進学や編入学が容易になる
☐ 博士課程在籍者に対する経済的支援が拡充する
☐ 博士課程に優秀な学生が集まる
☐ 自分の研究に直接関連しない学内業務が少なくなる
☐ 研究や実験設備などの研究環境が充実する
☐ 時に「侮辱的」「抑圧的」「敵対的」と語られる研究室の文化的環境がよくなる
☐ PI(研究室の主宰者)の指導力が向上する
☐ インターンシップや共同研究を通じて企業等とのつながりを持てるようになる
☐ 国際学会への参加や留学など国際的な経験を積む機会が多くなる
☐ 産業界で幅広く活躍できるようなスキルが身に付くようになる
☐ 博士課程修了者がアカデミックポストへ就職する可能性が広がる
☐ 任期制が見直されるなど、若手を対象としたアカデミックポストの雇用条件が改善する
☐ 民間企業などにおける博士課程修了者の雇用が増加する
☐ 賃金や昇進が優遇されるなど、博士課程修了者の民間企業などにおける雇用条件が改善する
☐ その他 具体的に:

-----<改ページ>-----

Q36	<p>政府が博士課程への進学者を増加させるための、学生にとって魅力ある政策を検討しています。政策として最も効果的であるものから順に3つ選択してください。 (回答はそれぞれ1つ)</p>
------------	--

1/3

1 番 目

<input type="radio"/>	大学教員数の拡充
<input type="radio"/>	大学教員における年齢構成等のバランスを取る
<input type="radio"/>	博士後期課程の教育カリキュラムの改善
<input type="radio"/>	若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善
<input type="radio"/>	産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善
<input type="radio"/>	産業界における博士取得者の採用増加
<input type="radio"/>	博士後期課程での給与支給
<input type="radio"/>	その他 具体的に: <input type="text"/>
<input type="radio"/>	特になし
<input type="radio"/> これ以上はない	

次を表示

-----<改ページ>-----

Q37	あなたは修士課程(6年制学科)在籍中にインターンシップの経験がありますか。 (回答は1つ) %%#HQ34%%
------------	---

☐ ある
☐ ない

-----<改ページ>-----

【条件】 Q37の選択肢『1.ある』を選択した

Q38	インターンシップ先の機関はどちらでしたか。 (回答は1つ) ※複数のインターンシップ経験がある場合は、最も長期間参加したインターンシップについてお答えください。
------------	--

☐ 大学等
☐ 公的研究機関
☐ 民間企業
☐ 非営利団体(学校・行政等の公的機関等含む)
☐ 個人事業主
☐ その他・無所属

-----<改ページ>-----

【条件】 Q37の選択肢『1.ある』を選択した

Q39	<p>インターンシップ先を決めた理由は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。 (回答はいくつでも)</p> <p>※複数のインターンシップ経験がある場合は、最も長期間参加したインターンシップについてお答えください。</p>
------------	---

- ☐ その企業・大学等に就職するのに有利だと思った
- ☐ 将来の仕事・職業として関心があった
- ☐ 楽しそうだと感じた
- ☐ 通勤しやすい
- ☐ 報酬がもらえることに魅力を感じた
- ☐ 指導教授、先輩、親など、人にすすめられた
- ☐ その他 具体的に:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q37の選択肢『1.ある』を選択した

Q40	<p>インターンシップ期間はおおよそのくらいでしたか。 (回答は1つ)</p> <p>※複数のインターンシップ経験がある場合は、最も長期間参加したインターンシップについてについてお答えください。</p>
------------	---

- ☐ 1日～1週間未満
- ☐ 1週間以上～1ヵ月未満
- ☐ 1ヵ月以上～3ヵ月未満
- ☐ 3ヵ月以上～半年未満
- ☐ 半年以上～1年未満
- ☐ 1年以上

-----<改ページ>-----

【条件】
Q37の選択肢『1.ある』を選択した

Q41	<p>経験したインターンシップは有給でしたか。 (回答は1つ)</p> <p>※複数のインターンシップ経験がある場合は、最も長期間参加したインターンシップについてについてお答えください。</p>
------------	---

- ☐ 無給
- ☐ 実費相当(交通費、昼食代、宿泊費等)の支給
- ☐ 給与相当(日給)の支給 具体的な金額【一日当たり】:
 円
- ☐ 給与相当(時給)の支給 具体的な金額【一時間当たり】:
 円
- ☒ 給与相当の支給(その他)具体的な待遇及び金額等を記載:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q41の選択肢『4.給与相当(時給)の...』を選択した

Q41_2

経験したインターンシップの平均的な1日当たりの勤務時間をお答えください。

※複数のインターンシップ経験がある場合は、最も長期間参加したインターンシップについてお答えください。

勤務時間： 時間【一日当たり】

-----<改ページ>-----

【条件】
Q37の選択肢『1.ある』を選択した

Q42

経験したインターンシップの主な内容はどのようなものでしたか。
(回答は1つ)

※複数のインターンシップ経験がある場合は、最も長期間参加したインターンシップについてお答えください。

☐ インターンシップ先の機関における研究開発業務に従事(研究インターンシップ)

☐ インターンシップ先の機関における研究開発以外の業務に従事

☐ インターンシップ先の機関における業務の補助、又は業務の説明や見学

☐ その他 具体的に:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q37の選択肢『1.ある』を選択した

Q43

インターンシップ先に就職が決まりましたか。
(回答は1つ)

☐ はい

☐ いいえ

-----<改ページ>-----

【条件】
Q43の選択肢『2.いいえ』を選択した

Q44

インターンシップ先に就職しなかった理由を教えてください。
(回答はいくつでも)

☐ もともと志望していた就職先ではなかった

☐ インターンシップ先と同じ業種の別企業等に就職した

☐ インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、研究内容があまり活かせないと感じ、志望が変わった

☐ インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、研究で身につけた能力があまり活かせないと感じ、志望が変わった

<input type="checkbox"/>	インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、自らのキャリアパスを考えた際に、自らの価値を高められないと感じ、志望が変わった
<input type="checkbox"/>	インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、処遇・待遇面で物足りなさを感じ、志望が変わった
<input type="checkbox"/>	インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、社員の雰囲気や社風に魅力を感じず、志望が変わった
<input type="checkbox"/>	インターンシップ参加前は当該企業を志望していたが、インターンシップ参加が当該企業への就職におけるインセンティブにならないと感じ、志望が変わった
<input type="checkbox"/>	選考に落ちた
<input type="checkbox"/>	その他 具体的に: <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

【条件】
Q37の選択肢『2.ない』を選択した

Q45	インターンシップに参加しなかった理由を教えてください。 (回答はいくつでも)
<input type="checkbox"/>	参加したいと思うテーマ等がなかった
<input type="checkbox"/>	研究で忙しく応募することが難しかった
<input type="checkbox"/>	興味・関心がなかった
<input type="checkbox"/>	応募したが、選に漏れた
<input type="checkbox"/>	その他 具体的に: <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

Q46	修士課程(6年制学科)在籍中に、3ヵ月以上、海外の大学の研究室に在籍していたことがありますか。 (回答は1つ) ※複数回の経験がある方は、合計した期間でお答えください。 %%#HQ46[1]%%
<input type="radio"/>	ある
<input type="radio"/>	ない

-----<改ページ>-----

【条件】
Q46の選択肢『1.ある』を選択した

Q46_2	海外大学研究室に在籍していた、具体的な期間をお答えください。 ※複数回の経験がある方は、合計した期間でお答えください。
--------------	--

在籍期間

年

ヶ月

-----<改ページ>-----

Q47	修士課程(6年制学科)で経験している教育・研究指導、その他のプログラムに関し、あなたはどのように感じますか。 (回答はそれぞれ1つ)
------------	---

1/5

教育・研究指導の質

- ☐ とても良い
- ☐ まあ良い
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり良くない
- ☐ 全く良くない

次を表示

-----<改ページ>-----

Q48	あなたが、修士課程(6年制学科)に在籍して得られていることで、今後役に立つと考えられるものを挙げてください。 (回答は3つまで選択) %%#HQ46[2]%%
------------	---

- ☐ 論理性や批判的思考力
- ☐ 文理の枠を超えた広い視野
- ☐ コミュニケーション能力
- ☐ 他者と共生する力
- ☐ 創造力
- ☐ 変化への適応力
- ☐ 主体性と責任感を備えた行動力
- ☐ データ処理、活用能力
- ☐ 最先端の知にアクセスする能力
- ☐ 自ら課題を発見し設定する力
- ☐ 自ら仮説を構築し、検証する力
- ☐ 社会的・経済的価値を判断・創出する能力
- ☐ 高度な英語力を含むグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力
- ☐ 倫理観
- ☐ 複雑化した社会における諸課題を様々な角度から理解し、解決する高度な専門的知識
- ☐ その他 具体的に:
- ☐ 特になし

-----<改ページ>-----

Q49	<p>前問で回答した項目について、主に修士課程(6年制学科)におけるどのような活動から身に付いたと考えますか。前問で回答したそれぞれの項目について最も寄与したものを1つずつ選択してください。 (回答はそれぞれ1つ)</p> <p>%%#HQ46[3]%%</p>
------------	---

1/16

論理性や批判的思考力

<input type="radio"/> 個人による研究活動(先行研究調査、実験及び解析と考察)
<input type="radio"/> グループによる研究活動(研究室内外の研究者や企業との共同研究等)
<input type="radio"/> 研究成果の対外的な発表(学会発表、論文執筆等)
<input type="radio"/> 所属する研究室内の室員との交流(研究進捗報告、指導教員含む室員とのディスカッション等)
<input type="radio"/> 所属する研究室外の研究者等との交流
<input type="radio"/> 所属する研究室内における研究補助活動(自身の研究に直接関係のない雑務、後輩指導、留学生のメンター等)
<input type="radio"/> 大学院の講義(カリキュラム)・プログラム
<input type="radio"/> 就職活動(インターンシップ、起業活動等を含む)
<input type="radio"/> 私生活(アルバイト、部活動、サークル等)
<input type="radio"/> その他 具体的に: <input type="text"/>

次を表示

-----<改ページ>-----

<p>【条件】 Q10の選択肢『2.修士課程 研究科名:』を選択した</p>
--

Q50	<p>修士課程在籍中における、平日の1日あたりの平均研究時間について、最も近いものを選択してください。 (回答は1つ)</p>
------------	---

<input type="radio"/> 1時間未満
<input type="radio"/> 1時間以上3時間未満
<input type="radio"/> 3時間以上5時間未満
<input type="radio"/> 5時間以上8時間未満
<input type="radio"/> 8時間以上12時間未満
<input type="radio"/> 12時間以上15時間未満
<input type="radio"/> 15時間以上

-----<改ページ>-----

Q51	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、研究時間に変化はありましたか。 (回答は1つ)</p>
------------	---

<input type="radio"/> とても増えた

☐ 増えた

☐ やや増えた

☐ 変わらない

☐ やや減った

☐ 減った

☐ とても減った

-----<改ページ>-----

【条件】

Q10の選択肢『2.修士課程 研究科名:』を選択した

Q52	修士課程在学中に、査読付きの論文は何本ありますか。またそのうち、国際共著論文は何本ありますか。 (回答は半角数字で入力) ※ない場合は、「0」を入力してください。
-----	---

査読付き論文 本

うち、国際共著論文 本

-----<改ページ>-----

Q53	ご協力、ありがとうございました。 本調査に関する意見を自由にお書きください。 (回答は具体的に)
-----	--

↑
↓

-----<改ページ>-----

これでアンケートは終了です。調査へのご協力ありがとうございました。

～NISTEP追跡調査へご回答いただいた皆様へ～
＼ 皆さんの研究のリアルを教えてください ／

私たちは文部科学省ガツガツ若手ワーキンググループ「AirBridge」です。

博士・修士卒の若手文科省職員を中心に、現役の若手研究者や学生の皆さんと研究現場の実態について当事者の目線で考え、議論・検討を進めているチームです。

国の政策ではなかなか取り上げられてこなかった研究へのモチベーション、研究室内の人間関係、研究指導のあり方などといった課題について、現役大学院生や若手研究者、大学職員、企業の方、博士・修士卒の若手文科省職員などの間で共有し、対話を通してアクションに繋げていきたいと考えています。

「こんなことで悩んでいるのは自分だけ?」「世の中で言われている博士と現実の博士ってこんなにも違うよね」などなど、等身大の疑問にフラットに向き合える場をこれから作っていく予定です。まずはワークショップやイベント、アンケートの実施などを企画しています。

この取組に少しでも興味がある方の参加を大募集しています。

来年4月から博士課程へ進学される方、就職される方、起業される方など様々な方がいらっしゃるとは思いますが、今後のキャリアに関係なく、皆さんの修士時代の一つ一つの経験がリアルな研究現場を掘り下げるヒントになります。

ご関心のある方には、随時ご案内させていただきますので、是非以下のURLからご登録ください。ご参加お待ちしております。

(登録フォーム) <https://pf.mext.go.jp/admission/13173-2-2.html>



【参考】

これまでの検討状況について、私たちは文部科学省の審議会などでも問題提起していますので是非ご覧ください。

○中央教育審議会大学分科会大学院部会(第98回)(令和2年9月9日)

資料5 科学技術ワクワク挑戦チーム博士進学ワーキンググループの活動報告及び省内若手有志からの問題提起について

https://www.mext.go.jp/content/20200924-mxt_daiyakuc03-000010089_7.pdf

Japan Masters Students Profiling (JM-Pro)

Students who expect to complete (graduate from) their master's course (including six-year courses) in FY2020



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



***** Purpose of this survey *****

Young researchers play an important role in science and technology innovation. However, the difficult environment that such researchers face, such as a shortage of stable positions and lack of diversity in the career path, is one of the causes behind the decline in the rate of enrollment in doctoral courses, as well as a factor that makes the occupation of a researcher seem less attractive. In light of this situation, there is a need to put in place support measures to radically improve the appeal and situation for young researchers, such as improving the treatment of students in graduate schools, and enhancing diverse career paths and flows including industries for graduate school leavers.

This can be achieved by continuously capturing and understanding information on the changes to the status of graduate school leavers in society. To that end, the National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP) implements the Japan Doctoral Human Resource Profiling (JD-Pro) survey with the aim of enhancing the transparency of career paths for doctoral human resources, and establishing objective evidence for the purpose of realizing policymaking based on such evidence. This year, NISTEP will be conducting the Japan Masters Students Profiling (JM-Pro) Survey, targeted at those who expect to complete (graduate from) their master's courses (including six-year courses) in FY2020 (April 1, 2020 - March 31, 2021).

It aims to continuously capture information and gain insight into the impact that their financial situation as well as education and research experiences during their master's courses (including six-year courses) have on the decision-making process for their future path after the course, career development, research and life, and other areas.

All possible measures have been taken to make taking the survey easier and to protect personal information, so we would appreciate your continued cooperation. The results of this survey will be published as a report and posted on NISTEP's website.

- If you have any comments about this survey, please fill in at the end.
- Please return the survey by Monday, December 14.
- If you are in an integrated doctoral program, a divisional doctoral program, or a professional degree program, please replace "master's program" in the question with the program you are enrolled in.

Next

Note

Do not use your browser's Back button while answering the survey.
You may not stay in one page for more than 60 minutes.
JavaScript and your Cookies settings must be enabled.

-----<改ページ>-----

Q1

Please read the following description of this survey and click the "Agree" button to indicate your acknowledgement of the terms of privacy policy and then proceed to this survey. If you do not agree to them please click the "Disagree" button and exit this survey.

About the Survey:

Sustainable development of science and technology research needs young generations. However, they have faced lack of stable positions and clear carrier path. That have caused declining doctoral course enrollments and less attractive research carriers. This survey conducted by NISTEP aims to contribute evidenced policy making; economic support in graduate course, promoting tenure positions and making diverse recruitments.

Response Unit:

all students who are graduating from Master's course (including six-year courses) in FY2020 (April 1, 2020 - March 31, 2021).

Results of the survey:

Results of the survey can be found on the NISTEP's web site at <https://www.nistep.go.jp>.

*The information you provide will be used for statistical purpose only.

*All information provided in this questionnaire complete confidentiality will be provided.

Under the the act on the protection of personal information held by administrative organs of 2003, your responses will be kept confidential.

(National Institute of Science and Technology Policy
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)

☐ Agree

☐ Disagree

-----<改ページ>-----

【終了(END2)】

This is the end of the survey. Thank you for your time.

【条件】
Q1の選択肢『2.Disagree』を選択した

-----<改ページ>-----

Q2 Please provide your name in Japanese or in English.

Name (Japanese)

Family name:

First name:

Name (English)

First name:

Middle name:

Family name:

-----<改ページ>-----

**Q3 Please indicate your sex.
(Mark one answer.)**

☐ Male

☐ Female

-----<改ページ>-----

**Q4 Which year were you born in? (Based on the Western calendar)
(Input your answer in single-byte characters.)**

Year :

-----<改ページ>-----

Q5	Please select your nationality/region. (Mark one answer.)
-----------	---

☐ Japan

North/Central/South America

☐ United States

☐ Canada

☐ Brazil

Europe

☐ France

☐ Russia

☐ Germany

☐ United Kingdom

Asia

☐ China

☐ Taiwan

☐ Republic of Korea

☐ Thailand

☐ Indonesia

☐ Vietnam

☐ Bangladesh

☐ Malaysia

☐ India

Oceania

☐ Australia

Africa

☐ Egypt

☐ Kenya

Other

☐ Name of country:

-----<改ページ>-----

Q6	Which prefecture do you currently live in? (Mark one answer.)
-----------	---

☐ Hokkaido

☐ Ishikawa

☐ Okayama

☐ Aomori

☐ Fukui

☐ Hiroshima

<input type="radio"/> Iwate	<input type="radio"/> Yamanashi	<input type="radio"/> Yamaguchi
<input type="radio"/> Miyagi	<input type="radio"/> Nagano	<input type="radio"/> Tokushima
<input type="radio"/> Akita	<input type="radio"/> Gifu	<input type="radio"/> Kagawa
<input type="radio"/> Yamagata	<input type="radio"/> Shizuoka	<input type="radio"/> Ehime
<input type="radio"/> Fukushima	<input type="radio"/> Aichi	<input type="radio"/> Kochi
<input type="radio"/> Ibaraki	<input type="radio"/> Mie	<input type="radio"/> Fukuoka
<input type="radio"/> Tochigi	<input type="radio"/> Shiga	<input type="radio"/> Saga
<input type="radio"/> Gunma	<input type="radio"/> Kyoto	<input type="radio"/> Nagasaki
<input type="radio"/> Saitama	<input type="radio"/> Osaka	<input type="radio"/> Kumamoto
<input type="radio"/> Chiba	<input type="radio"/> Hyogo	<input type="radio"/> Oita
<input type="radio"/> Tokyo	<input type="radio"/> Nara	<input type="radio"/> Miyazaki
<input type="radio"/> Kanagawa	<input type="radio"/> Wakayama	<input type="radio"/> Kagoshima
<input type="radio"/> Niigata	<input type="radio"/> Tottori	<input type="radio"/> Okinawa
<input type="radio"/> Toyama	<input type="radio"/> Shimane	<input type="radio"/> Outside Japan

-----<改ページ>-----

Q7	<p>Please provide the e-mail address that you use most frequently, and which you can be reached at in the future. (Input your answer in single-byte characters.)</p> <p>*Please provide an e-mail address that you can be reached at even if there are any changes in the institution you are affiliated with.</p>
-----------	--

E-mail address:

Please re-enter your e-mail address for verification.

E-mail address:

-----<改ページ>-----

Q8	<p>Please select the type of university (six-year course) and graduate school (master's course) that you are enrolled in. (Mark one answer.)</p>
-----------	---







































































































☐ National

☐ Public

☐ Private

-----<改ページ>-----

Q9	<p>Please select the university (six-year course) and graduate school (master's course) that you are enrolled in. (Mark one answer.)</p> <p>*If the graduate school you completed is not listed, please enter it directly in the for "Other university".</p>
-----------	--

 Hokkaido University	 Kyushu University	 Niimi College
 Hokkaido University of Education	 Kyushu Institute of Technology	 Onomichi City University
 Muroran Institute of Technology	 Saga University	 Prefectural University of Hiroshima
 Otaru University of Commerce	 Nagasaki University	 Hiroshima City University
 Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine	 Kumamoto University	 Fukuyama City University
 Asahikawa Medical University	 Oita University	 Shimonoseki City University
 Kitami Institute of Technology	 University of Miyazaki	 Yamaguchi Prefectural University
 Hirosaki University	 Kagoshima University	 Tokyo University of Science, Yamaguchi
 Iwate University	 National Institute of Fitness and Sports in Kanoya	 Kagawa Prefectural College of Health Sciences
 Tohoku University	 University of the Ryukyus	 Ehime Prefectural University of Health Sciences
 Miyagi University of Education	 National Graduate Institute for Policy Studies	 University of Kochi
 Akita University	 The Graduate University for Advanced Studies	 Kochi University of Technology
 Yamagata University	 Japan Advanced Institute of Science and Technology	 The University of Kitakyushu
 Fukushima University	 Nara Institute of Science and Technology	 Kyushu Dental University
 Ibaraki University	 FUTURE UNIVERSITY-HAKODATE	 Fukuoka Prefectural University
 University of Tsukuba	 Sapporo Medical University	 Fukuoka Women's University
 Tsukuba University of Technology	 Sapporo City University	 University of Nagasaki
 Utsunomiya University	 Chitose Institute of Science and Technology	 Prefectural University of Kumamoto
 Gunma University	 Aomori University of Health and Welfare	 Oita University of Nursing and Health Sciences
 Saitama University	 Aomori Public College	 Miyazaki Prefectural Nursing University
 Chiba University	 Iwate Prefectural University	 Okinawa Prefectural College of Nursing
 The University of Tokyo	 Miyagi University	 Okinawa Prefectural University of Arts
 Tokyo Medical and Dental University	 Akita Prefectural University	 Meio University
 Tokyo University of Foreign Studies	 Akita International University	 Aichi Medical University
 Tokyo Gakugei University	 Yamagata Prefectural University of Health Science	 Aichi Gakuin University
 Tokyo University of Agriculture and Technology	 The University of Aizu	 Aoyama Gakuin University
 Tokyo University of the Arts	 Fukushima Medical University	 Azabu University
 Tokyo Institute of Technology	 Ibaraki Prefectural University of Health Sciences	 Iwate Medical University
 Tokyo University of Marine Science and Technology	 Gunma Prefectural College of Health Sciences	 Osaka Medical College
 Ochanomizu University	 Gunma Prefectural Women's University	 Gakushuin University
 The University of Electro-Communications	 Takasaki City University of Economics	 Kansai University
 Hitotsubashi University	 Maebashi Institute of Technology	 Kansai Medical University
 Yokohama National University	 Saitama Prefectural University	 Kwansei Gakuin University
 Niigata University		 Kitasato University

	Advanced Institute of Industrial Technology	
<input type="checkbox"/> Nagaoka University of Technology	<input type="checkbox"/> Tokyo Metropolitan University	<input type="checkbox"/> Kyoto Women's University
<input type="checkbox"/> Joetsu University of Education	<input type="checkbox"/> Kanagawa University of Human Services	<input type="checkbox"/> Kindai University
<input type="checkbox"/> University of Toyama	<input type="checkbox"/> Yokohama City University	<input type="checkbox"/> Kurume University
<input type="checkbox"/> Kanazawa University	<input type="checkbox"/> Nagaoka Institute of Design	<input type="checkbox"/> Keio University
<input type="checkbox"/> University of Fukui	<input type="checkbox"/> University of Niigata Prefecture	<input type="checkbox"/> Kokugakuin University
<input type="checkbox"/> University of Yamanashi	<input type="checkbox"/> Niigata College of Nursing	<input type="checkbox"/> International University of Health and Welfare
<input type="checkbox"/> Shinshu University	<input type="checkbox"/> Toyama Prefectural University	<input type="checkbox"/> Komazawa University
<input type="checkbox"/> Gifu University	<input type="checkbox"/> Ishikawa Prefectural University	<input type="checkbox"/> University of Occupational and Environmental Health
<input type="checkbox"/> Shizuoka University	<input type="checkbox"/> Ishikawa Prefectural Nursing University	<input type="checkbox"/> Jichi Medical University
<input type="checkbox"/> Hamamatsu University School of Medicine	<input type="checkbox"/> Kanazawa college of Art	<input type="checkbox"/> Juntendo University
<input type="checkbox"/> Nagoya University	<input type="checkbox"/> Fukui Prefectural University	<input type="checkbox"/> Showa University
<input type="checkbox"/> Aichi University of Education	<input type="checkbox"/> Tsuru University	<input type="checkbox"/> St. Marianna University School of Medicine
<input type="checkbox"/> Nagoya Institute of Technology	<input type="checkbox"/> Yamanashi Prefectural University	<input type="checkbox"/> Taisho University
<input type="checkbox"/> Toyohashi University of Technology	<input type="checkbox"/> Nagano College of Nursing	<input type="checkbox"/> Chukyo University
<input type="checkbox"/> Mie University	<input type="checkbox"/> Suwa University of Science	<input type="checkbox"/> Teikyo University
<input type="checkbox"/> Shiga University	<input type="checkbox"/> Gifu College of Nursing	<input type="checkbox"/> TOKAI UNIVERSITY
<input type="checkbox"/> Shiga University of Medical Science	<input type="checkbox"/> Gifu Pharmaceutical University	<input type="checkbox"/> Jikei University
<input type="checkbox"/> Kyoto University	<input type="checkbox"/> Institute of Advanced Media Arts and Sciences	<input type="checkbox"/> Tokyo Women's Medical University
<input type="checkbox"/> Kyoto University of Education	<input type="checkbox"/> University of Shizuoka	<input type="checkbox"/> Tokyo Denki University
<input type="checkbox"/> Kyoto Institute of Technology	<input type="checkbox"/> Shizuoka University of Art and Culture	<input type="checkbox"/> Tokyo University of Agriculture
<input type="checkbox"/> Osaka University	<input type="checkbox"/> Aichi Prefectural University	<input type="checkbox"/> Tokyo University of Science
<input type="checkbox"/> Osaka Kyoiku University	<input type="checkbox"/> Aichi Prefectural University of Fine Arts and Music	<input type="checkbox"/> Doshisha University
<input type="checkbox"/> Hyogo University of Teacher Education	<input type="checkbox"/> Nagoya City University	<input type="checkbox"/> Toho University
<input type="checkbox"/> Kobe University	<input type="checkbox"/> Mie Prefectural College of Nursing	<input type="checkbox"/> Tohoku Gakuin University
<input type="checkbox"/> Nara University of Education	<input type="checkbox"/> The University of Shiga Prefecture	<input type="checkbox"/> Toyo University
<input type="checkbox"/> Nara Women's University	<input type="checkbox"/> Kyoto City University of Arts	<input type="checkbox"/> Nippon Medical School
<input type="checkbox"/> Wakayama University	<input type="checkbox"/> Kyoto Prefectural University	<input type="checkbox"/> Japan Women's University
<input type="checkbox"/> Tottori University	<input type="checkbox"/> Kyoto Prefectural University of Medicine	<input type="checkbox"/> Nihon University
<input type="checkbox"/> Shimane University	<input type="checkbox"/> Osaka City University	<input type="checkbox"/> Fukuoka University
<input type="checkbox"/> Okayama University	<input type="checkbox"/> Osaka Prefecture University	<input type="checkbox"/> Fujita Health University
<input type="checkbox"/> Hiroshima University	<input type="checkbox"/> Kobe City University of Foreign Studies	<input type="checkbox"/> Bukkyo University
<input type="checkbox"/> Yamaguchi University	<input type="checkbox"/> Kobe City College of Nursing	<input type="checkbox"/> Hosei University
<input type="checkbox"/> Tokushima University	<input type="checkbox"/> University of Hyogo	<input type="checkbox"/> Meiji University
<input type="checkbox"/> Naruto University of Education	<input type="checkbox"/> Nara Medical University	<input type="checkbox"/> Ritsumeikan University
<input type="checkbox"/> Kagawa University	<input type="checkbox"/> Wakayama Medical University	<input type="checkbox"/> Ryukoku University

<input type="radio"/> Ehime University	<input type="radio"/> Tottori University of Environmental Studies	<input type="radio"/> Waseda University
<input type="radio"/> Kochi University	<input type="radio"/> The University of Shimane	<input type="radio"/> Other university Name of institution: <input type="text"/>
<input type="radio"/> Fukuoka University of Education	<input type="radio"/> Okayama Prefectural University	

-----<改ページ>-----

Q10	Please select/fill in the faculty (six-year course)/graduate course (master's course) that you are enrolled.
------------	---

☐ Six-year course Undergraduate faculty:

☐ Master's course Graduate course:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q10の選択肢『2.Master's course ...』を選択した

Q10_2	Please select the graduate program you are enrolled in. (Mark one answer.)
--------------	---

☐ Master's program

☐ Integrated doctoral program(five-year Ph. D. course include both master and doctor courses)

☐ Divisional doctoral program(first semester)

☐ Professional degree program

-----<改ページ>-----

【条件】
Q10の選択肢『2.Master's course ...』を選択した

Q11	Please select/fill in the university that you graduated from (undergraduate). (Mark one answer.)
------------	---

☐ Same university as my master's course

☐ University in Japan that is different from my master's course

☐ University overseas that is different from my master's course

☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

Q12

**Please select from the list below the field that is closest to your field of research in your master's course (six-year course).
(Mark one answer.)**

Physical science

<input type="radio"/> Mathematics	<input type="radio"/> Biology
<input type="radio"/> Information science	<input type="radio"/> Earth sciences
<input type="radio"/> Physics	<input type="radio"/> Other Physical science (including unclassifiable)
<input type="radio"/> Chemistry	

Engineering

<input type="radio"/> Mechanical/Marine	<input type="radio"/> Material
<input type="radio"/> Electrical/Communications	<input type="radio"/> Textile
<input type="radio"/> Civil/Architecture	<input type="radio"/> Aeronautical
<input type="radio"/> Applied chemical	<input type="radio"/> Management
<input type="radio"/> Applied science	<input type="radio"/> Other Engineering (including unclassifiable)
<input type="radio"/> Nuclear	

Agricultural sciences

<input type="radio"/> Agricultural science	<input type="radio"/> Forestry
<input type="radio"/> Agrochemistry	<input type="radio"/> Veterinary/Animal Science
<input type="radio"/> Agricultural engineering	<input type="radio"/> Fisheries science
<input type="radio"/> Agricultural economics	<input type="radio"/> Other Agricultural sciences (including unclassifiable)
<input type="radio"/> Forest science	

Health

<input type="radio"/> Medicine	<input type="radio"/> Nursing
<input type="radio"/> Dentistry	<input type="radio"/> Other Health (including unclassifiable)
<input type="radio"/> Pharmaceutical science	

Humanities

<input type="radio"/> Literature	<input type="radio"/> Philosophy
<input type="radio"/> History	<input type="radio"/> Other Humanities (including unclassifiable)

Social sciences

<input type="radio"/> Law/Political science	<input type="radio"/> Sociology
<input type="radio"/> Commercial science/Economics	<input type="radio"/> Other Social sciences (including unclassifiable)

Other

<input type="radio"/> Psychology	<input type="radio"/> Education
<input type="radio"/> Home economics	<input type="radio"/> Art/Other

Unknown

<input type="radio"/> Unknown

-----<改ページ>-----

【条件】

!Q10_2の選択肢『2.Integrated doctor...』を選択した

Q13

Please fill in the month and year of your admission into the master's course (six-year course), and the month and year of your expected completion of the course (based on the Western calendar). (Input your answer in single-byte characters.)

From year

month

To year

month

-----<改ページ>-----

【条件】

Q10の選択肢『2.Master's course ...』を選択した

Q14

When did you decide to enroll in a master's course? (Mark one answer.)

- ☐ Before enrolling in the undergraduate course
- ☐ During the first year of the undergraduate course
- ☐ During the second year of the undergraduate course
- ☐ During the third year of the undergraduate course
- ☐ During the fourth year of the undergraduate course
- ☐ After I graduated from university and stepped out into society
- ☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

【条件】

Q10の選択肢『2.Master's course ...』を選択した

Q15

Why did you move on to a master's course? Please select all answers that apply. (Mark all applicable answers.)

- ☐ There was a topic or problem I wanted to research
- ☐ I was interested in research itself
- ☐ I was interested in improving my own skills and abilities
- ☐ It was necessary in order to become a professor or researcher
- ☐ I obtained a fellowship, etc.
- ☐ My employer recommended or required the degree
- ☐

With a master's degree, I can expect a good job or a good income

☐ A senior I respected or someone I wanted to become continued their studies

☐ A parent or advisor recommended it

☐ I wanted to be a student or I had to be a student

☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

Q16	<p>Before you enrolled in your master's course (six-year course), did you have experience living as a non-student working adult? (Mark one answer.)</p> <p>* Experience living as a non-student working adult means work experience separate from educational institutions and working regular hours for a salary.</p>
------------	--

☐ Yes

☐ No

-----<改ページ>-----

<p>【条件】 Q16の選択肢『1.Yes』を選択した</p>
--

Q17	<p>While enrolled in your master's course (six-year course), did you continue that job? (Mark one answer.)</p> <p>%%#HQ17[1]%%</p>
------------	---

☐ Remained in that employment

☐ Was on leave from that employment

☐ Left that employment

☐ None of the above

-----<改ページ>-----

<p>【条件】 Q16の選択肢『1.Yes』を選択した</p>
--

Q18	<p>Please select the answer that best applies to the management organization of your employer in the main job that you held before enrolling in the master's course (six-year course). (Mark one answer.)</p> <p>%%#HQ17[2]%%</p>
------------	--

☐ University, etc.

☐ Public research institution

☐ Private-sector corporation

☐ Non-profit organization (including schools, administrative agencies, etc.)

☐ Sole proprietor

Other/Independent

-----<改ページ>-----

Q19	Have you had any experience as a teaching assistant (TA) while enrolled in the master's course (six-year course)? (Mark one answer.) *If yes, please enter the number of hours (as a whole number) in a year that you work for as a TA. If you cannot provide the number of hours (for example, if you are on a flexible working hours system), please leave it blank. %%#HQ17[3]%%
------------	--

☐ Yes Number of working hours in a year:
 hours

☐ No

-----<改ページ>-----

【条件】
Q19の選択肢『1.Yes Number of wo...』を選択した

Q20	What are the contents of your work as a TA? Please select all applicable answers. (Mark all applicable answers.)
------------	---

☐ Preparation for experiments/practical exercises

☐ Guiding/advising students during experiments/practical exercises

☐ Conducting lectures for students

☐ Providing educational support in lectures

☐ Providing comments/guidance in seminars, exercises, etc.

☐ Grading reports, assignments, examinations, etc.

☐ Evaluating reports, assignments, examinations, etc.

☐ Recording students' attendance in classes, etc.

☐ Responding to students' questions

☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

Q21	Have you received any tuition fee reduction or waiver during your master's course (six-year course)? If yes, please enter the amount. (Mark one answer.) %%#HQ17[4]%%
------------	--

☐ I received a tuition fee reduction or waiver Total amount:
 0,000 yen

☐ I did not receive a tuition fee reduction or waiver

-----<改ページ>-----

Q22	<p>Have you received any grants or loans that you have to repay when you complete or graduate from your master's course (six-year course)? If yes, please enter the total amount. (Input your answer in single-byte characters.)</p> <p>%%#HQ17[5]%%</p>
------------	---

☐ Yes Total amount: 0,000 yen
☐ No

-----<改ページ>-----

Q23	<p>Please select/fill in your future plans immediately after completing or graduating from your master's course (six-year course). (Mark one answer.)</p> <p>%%#HQ17[6]%%</p>
------------	--

☐ Enroll in a doctoral course
☐ Prepare to enter a doctoral course
☐ I have a confirmed place of employment (including starting a business or continuing to work at your current employer)
☐ I am looking for employment
☐ Clinical resident training for doctors
☐ Undecided
☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『5.Clinical resident...』を選択した

Q24	<p>After completing your clinical resident training for doctors, do you intend to enroll in a doctoral course? (Mark one answer.)</p>
------------	--

☐ Yes, I intend to enroll in a doctoral course
☐ I cannot say either way
☐ No, I do not intend to enroll in a doctoral course

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『1.Enroll in a docto...』、『2.Prepare to enter ...』の中でいずれかを選択した

Q25	What are the factors that will influence your decision to enroll in a doctoral course? Please select all the applicable answers from the list below. (Mark all applicable answers.)
------------	--

☐ There was a topic or problem I wanted to research

☐ I was interested in research itself

☐ I was interested in improving my own skills and abilities

☐ It was necessary in order to become a professor or researcher

☐ I obtained a fellowship, etc.

☐ My employer recommended or required the degree

☐ With a doctoral degree, I can expect a good job or a good income

☐ A senior I respected or someone I wanted to become continued their studies

☐ A parent or advisor recommended it

☐ I wanted to be a student or I had to be a student

☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.I have a confime...』を選択した

Q26	What is the nature of your employer's business? Please select the most applicable answer. (Mark one answer.)
------------	---

☐ Agriculture, forestry and fishery

☐ Mining and quarrying of stone and gravel

☐ Construction

☐ Manufacturing

☐ Electricity/Gas/Heating/Water

☐ Information and communications

☐ Transportation/Postal services

☐ Wholesale

☐ Retail

☐ Finance/Insurance

☐ Real estate/Goods leasing

☐ Academic research/Specialty or technical services

☐ Accommodations/Food and beverage services

☐ Lifestyle-related services/Entertainment

☐ Education/Learning support

☐ Healthcare/Welfare

☐ Service industry (excluding services in other categories)

☐ Civil service (excluding services in other categories)

☐ Other Specifically:

☒

☐ ☒

☐ ☒

-----<改ページ>-----

【条件】

Q23の選択肢『3.I have a confirme...』を選択した

Q27

**Approximately how many people work for your employer? Please include the people employed in all places of employment under your employer (such as branch stores and offices), and select the number of employees from the list below.
(Mark one answer.)**

- ☐ 5 or fewer employees
- ☐ 6 – 20 employees
- ☐ 21 – 50 employees
- ☐ 51 – 100 employees
- ☐ 101 – 200 employees
- ☐ 201 – 300 employees
- ☐ 301 – 1,000 employees
- ☐ 1,001 or more employees
- ☐ I do not know

-----<改ページ>-----

【条件】

Q23の選択肢『3.I have a confirme...』を選択した

Q28

**What is the capital of your employer?
(Mark one answer.)**

- ☐ Less than 10 million yen
- ☐ 10 million yen – Less than 30 million yen
- ☐ 30 million yen – Less than 50 million yen
- ☐ 50 million yen – Less than 100 million yen
- ☐ 100 million yen – Less than 300 million yen
- ☐ 300 million yen or more
- ☐ I do not know

-----<改ページ>-----

【条件】

Q23の選択肢『3.I have a confirme...』を選択した

Q29

**What is your main job at your place of employment? Please select the most applicable answer.
(Mark one answer.)**

- | | | |
|---|--|---|
| <input type="radio"/> Management government official | <input type="radio"/> Legal workers (judges, attorneys, judicial scriveners etc.) | <input type="radio"/> Outdoor service workers (money collectors, investigators) |
| <input type="radio"/> Officers of companies and organizations | <input type="radio"/> Management, finance, and insurance professionals (certified public accountants, licensed tax accountants, certified social insurance and labor consultant, etc.) | <input type="radio"/> Transport and post clerical workers |

Management staff of companies and organizations	Management/business consultants	Office equipment operators
<input type="checkbox"/> Other administrative and managerial workers	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (kindergarten) including schools for students with special needs	<input type="checkbox"/> Merchandise sales, sales, and other sales-related workers (retailers, shop assistants, etc.)
<input type="checkbox"/> Natural science researchers	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (elementary/junior high school) including schools for students with special needs	<input type="checkbox"/> Domestic support service workers, care service workers
<input type="checkbox"/> Humanities, social science, and other researchers	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (high school) including schools for students with special needs	<input type="checkbox"/> Healthcare service workers, domestic hygiene service workers
<input type="checkbox"/> Agriculture, forestry, and fishery engineers	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (technical college, junior college)	<input type="checkbox"/> Food and drink preparatory workers, customer service workers
<input type="checkbox"/> Manufacturing engineers (development)	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (university, graduate school)	<input type="checkbox"/> Residential facilities, office buildings and other management personnel
<input type="checkbox"/> Manufacturing engineers (except development)	<input type="checkbox"/> Other type of teacher	<input type="checkbox"/> Other service workers
<input type="checkbox"/> Architects, civil engineers and surveyors	<input type="checkbox"/> Workers in religion	<input type="checkbox"/> Self-defense officials, judicial police staff, other public security workers
<input type="checkbox"/> Data processing and communication engineers (system administrator, Communication network engineers)	<input type="checkbox"/> Authors, journalists, editors	<input type="checkbox"/> Agriculture, forestry, and fishery workers
<input type="checkbox"/> Doctors	<input type="checkbox"/> Artists, designers, photographers, film operators	<input type="checkbox"/> Manufacturing facility control, machine assembly facility control and monitoring workers
<input type="checkbox"/> Dental surgeons	<input type="checkbox"/> Musicians, performers, actors, etc.	<input type="checkbox"/> Product manufacturing and processing workers, machine assembly workers, machine maintenance and repair workers
<input type="checkbox"/> Veterinary surgeons	<input type="checkbox"/> Other specialist professionals (librarians, curators, counselors, etc.)	<input type="checkbox"/> Workers engaged in product/machinery inspection, production related, or production type work
<input type="checkbox"/> Pharmacists	<input type="checkbox"/> General clerical workers (general affairs workers, human affairs workers, receptionists secretaries)	<input type="checkbox"/> Railway, motor vehicle, ship, aviation, and other transport workers
<input type="checkbox"/> Public health nurses, midwives, nurses	<input type="checkbox"/> Accountancy clerks (accountants business clerks etc.)	<input type="checkbox"/> Stationary and construction machinery operators, construction workers, electrical workers, and civil engineering worker
<input type="checkbox"/> Medical technicians (diagnostic radiographers, physiotherapists, dental hygienists, nutritionists, acupuncturists, etc.)	<input type="checkbox"/> Production-related clerical workers	<input type="checkbox"/> Other
<input type="checkbox"/> Social welfare specialist professionals (childcare workers, welfare counseling guidance professionals, etc.)	<input type="checkbox"/> Sales clerks	

-----<改ページ>-----

Q30	What job did (do) you hope to take up while you were enrolled in the master's course (six-year course)? Please select all applicable answers. (Mark all applicable answers.)	
<input type="checkbox"/> Management government official	<input type="checkbox"/> Legal workers (judges, attorneys, judicial scriveners etc.)	<input type="checkbox"/> Outdoor service workers (money collectors, investigators)
<input type="checkbox"/> Officers of companies and organizations	<input type="checkbox"/> Management, finance, and insurance professionals (certified public accountants, licensed tax accountants,	<input type="checkbox"/> Transport and post clerical workers

	certified social insurance and labor consultant, etc.)	
<input type="checkbox"/> Management staff of companies and organizations	<input type="checkbox"/> Management/business consultants	<input type="checkbox"/> Office equipment operators
<input type="checkbox"/> Other administrative and managerial workers	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (kindergarten) including schools for students with special needs	<input type="checkbox"/> Merchandise sales, sales, and other sales-related workers (retailers, shop assistants, etc.)
<input type="checkbox"/> Natural science researchers	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (elementary/junior high school) including schools for students with special needs	<input type="checkbox"/> Domestic support service workers, care service workers
<input type="checkbox"/> Humanities, social science, and other researchers	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (high school) including schools for students with special needs	<input type="checkbox"/> Healthcare service workers, domestic hygiene service workers
<input type="checkbox"/> Agriculture, forestry, and fishery engineers	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (technical college, junior college)	<input type="checkbox"/> Food and drink preparatory workers, customer service workers
<input type="checkbox"/> Manufacturing engineers (development)	<input type="checkbox"/> Schoolteacher (university, graduate school)	<input type="checkbox"/> Residential facilities, office buildings and other management personnel
<input type="checkbox"/> Manufacturing engineers (except development)	<input type="checkbox"/> Other type of teacher	<input type="checkbox"/> Other service workers
<input type="checkbox"/> Architects, civil engineers and surveyors	<input type="checkbox"/> Workers in religion	<input type="checkbox"/> Self-defense officials, judicial police staff, other public security workers
<input type="checkbox"/> Data processing and communication engineers (system administrator, Communication network engineers)	<input type="checkbox"/> Authors, journalists, editors	<input type="checkbox"/> Agriculture, forestry, and fishery workers
<input type="checkbox"/> Doctors	<input type="checkbox"/> Artists, designers, photographers, film operators	<input type="checkbox"/> Manufacturing facility control, machine assembly facility control and monitoring workers
<input type="checkbox"/> Dental surgeons	<input type="checkbox"/> Musicians, performers, actors, etc.	<input type="checkbox"/> Product manufacturing and processing workers, machine assembly workers, machine maintenance and repair workers
<input type="checkbox"/> Veterinary surgeons	<input type="checkbox"/> Other specialist professionals (librarians, curators, counselors, etc.)	<input type="checkbox"/> Workers engaged in product/machinery inspection, production related, or production type work
<input type="checkbox"/> Pharmacists	<input type="checkbox"/> General clerical workers (general affairs workers, human affairs workers, receptionists secretaries)	<input type="checkbox"/> Railway, motor vehicle, ship, aviation, and other transport workers
<input type="checkbox"/> Public health nurses, midwives, nurses	<input type="checkbox"/> Accountancy clerks (accountants business clerks etc.)	<input type="checkbox"/> Stationary and construction machinery operators, construction workers, electrical workers, and civil engineering worker
<input type="checkbox"/> Medical technicians (diagnostic radiographers, physiotherapists, dental hygienists, nutritionists, acupuncturists, etc.)	<input type="checkbox"/> Production-related clerical workers	<input type="checkbox"/> Other
<input type="checkbox"/> Social welfare specialist professionals (childcare workers, welfare counseling guidance professionals, etc.)	<input type="checkbox"/> Sales clerks	<input type="checkbox"/> None of the above

-----<改ページ>-----

【条件】

Q23の選択肢『3.I have a confirme...』、『4.I am looking for ...』の中でいずれかを選択した

Q31	When choosing a job, what did (do) you place importance on? Please select all applicable answers. (Mark all applicable answers.)
<input type="checkbox"/> The chance to apply my specialized knowledge and skills to the job	

<input type="checkbox"/> The chance to work in the research field
<input type="checkbox"/> The chance to work in a job that matches my aptitude
<input type="checkbox"/> There are many outstanding human resources at the place of employment (or start-up)
<input type="checkbox"/> A well-established education system such as training, study abroad, etc.
<input type="checkbox"/> Potential for promotions
<input type="checkbox"/> The employing organization (start-up) has strong potential for growth
<input type="checkbox"/> The employing organization (start-up) has strong international competitiveness
<input type="checkbox"/> Significant contribution to society through the job
<input type="checkbox"/> Large scale of employing organization (start-up), such as number of employees, sales, etc.
<input type="checkbox"/> The chance to work in the organization until retirement
<input type="checkbox"/> High salary
<input type="checkbox"/> A well-established welfare and benefits system
<input type="checkbox"/> Good location of employing organization (start-up)
<input type="checkbox"/> Short working hours
<input type="checkbox"/> There is little work stress
<input type="checkbox"/> Other Specifically: <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.I have a confirme...』を選択した

Q32	<p>How did you find your job? Please select the most applicable answer from the list below. (Mark one answer.)</p> <p>*Includes the use of Internet</p>
------------	---

<input type="radio"/> University / Graduate School (introduced by an adviser, etc.)
<input type="radio"/> Personal connections (including friends, acquaintances, etc.)
<input type="radio"/> Public organization such as Hello Work*
<input type="radio"/> Private-sector employment agency (excluding the University / Graduate School)*
<input type="radio"/> Employment information website, recruitment information magazine, newspapers, brochures, etc.
<input type="radio"/> Website of organization
<input type="radio"/> Visits to organization
<input type="radio"/> Start-up business
<input type="radio"/> Other Specifically: <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.I have a confirme...』、『4.I am looking for ...』の中でいずれかを選択した

Q33	<p>What are the factors that will influence your decision to find a job instead of enrolling in a doctoral course? Please select all the applicable answers from the list below. (Mark all applicable answers.)</p>
------------	--

<input type="checkbox"/> I want to step into society and work
<input type="checkbox"/> I want to be financially independent
<input type="checkbox"/> The research environment is better in a corporation than in a university
<input type="checkbox"/> I can enroll in a doctoral course anytime if I apply as a mature student
<input type="checkbox"/> Working as university faculty, etc. does not appeal to me
<input type="checkbox"/> The research laboratory environment is undesirable (intense competition, stressful, harsh, etc.)
<input type="checkbox"/> It is difficult to transfer or advance to a doctoral course with my current results
<input type="checkbox"/> The financial outlook for life would be uncertain if I were to enroll in a doctoral course
<input type="checkbox"/> Enrolling in a doctoral course has poor cost-performance for lifetime earnings, etc.
<input type="checkbox"/> I cannot find a research theme that is worthy of a doctoral dissertation
<input type="checkbox"/> I am worried about finding a job after completing the doctoral course
Other Specifically: <input type="checkbox"/> <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

【条件】
Q23の選択肢『3.I have a confirme...』～『7.Other Specifica...』の中でいずれかを選択した

Q34	<p>Have you considered advancing to a doctoral course while enrolled in your master's course (six-year course)? (Mark one answer.)</p> <p>%%#HQ34%%</p>
------------	--

☐ Yes
 ☐ No

-----<改ページ>-----

Q35	<p>When considering enrolling in a doctoral course at a graduate school in Japan, what are the factors that are important to you? Please select up to three important factors. (Mark up to three answers.)</p>
------------	---

☐ It is easy to advance or transfer to the course
 ☐ There is extensive financial support for students enrolled in doctoral courses
 ☐ There are many outstanding students in the doctoral course
 ☐ There is little on-campus work that is not directly related to my research
 ☐ Rich research environment, such as research and experiment facilities
 ☐ Improvements in the cultural environment of the research laboratory, which is sometimes said to be insulting, repressive, and hostile
 ☐ Improvements in the leadership of the PI (head of the research laboratory)
 ☐ The chance to develop relationships with corporations, etc. through internships and collaborative research
 ☐ Many chances to build up international experience, such as participation in international academic conferences and study abroad programs
 ☐ The chance to acquire skills that will enable me to engage in a wide range of roles in the industry
 ☐ Greater possibility for those who complete a doctoral course to find employment in academic positions
 ☐

<input type="checkbox"/>	Improvements in the employment conditions for academic positions for young researchers, such as review of the fixed-term appointment system
<input type="checkbox"/>	Increased employment of those who complete a doctoral course in the private sector
<input type="checkbox"/>	Improvements in the employment conditions in the private sector for those who complete a doctoral course, such as preferential wages and promotion chances
<input type="checkbox"/>	Other Specifically: <input type="text"/>

-----<改ページ>-----

Q36	The government is considering attractive policies for students, in order to increase the enrollment in doctoral courses. Please select up to three policies, in order from the policy that you consider the most effective. (Mark one answer for each.)
------------	--

1/3

First
<input type="radio"/> Increasing the number of university faculty
<input type="radio"/> Realizing a balanced university faculty with regard to age composition, etc.
<input type="radio"/> Improving the education curriculum for doctoral courses
<input type="radio"/> Improving the research environment for young researchers (including doctoral students)
<input type="radio"/> Improving the treatment of Ph.D. holders in the industry, such as salary
<input type="radio"/> Increasing the number of Ph.D. holders employed by the industry
<input type="radio"/> Paying a salary to students during their doctoral course
<input type="radio"/> Other Specifically: <input type="text"/>
<input type="radio"/> None in particular
None of the above
>>

-----<改ページ>-----

Q37	Did you participate in an internship while enrolled in the master's course (six-year course)? (Mark one answer.) %%#HQ34%%
------------	--

<input type="radio"/> Yes
<input type="radio"/> No

-----<改ページ>-----

【条件】 Q37の選択肢『1.Yes』を選択した

Q38	What kind of organization was your internship in? (Mark one answer.)
	*If you participated in more than one internship program, please answer with reference to the longest internship program.

- ☐ University, etc .
- ☐ Public research institution
- ☐ Private-sector corporation
- ☐ Non-profit organization (including schools, administrative agencies, etc.)
- ☐ Sole proprietor
- ☐ Other/Independent

-----<改ページ>-----

【条件】
Q37の選択肢『1.Yes』を選択した

Q39	What made you choose your internship? Please select all that apply. (Mark all applicable answers.)
	*If you participated in more than one internship program, please answer with reference to the longest internship program.

- ☐ I thought it would be beneficial even though I was to be employed at that company or university, etc.
- ☐ I was interested in it as future work or employment
- ☐ I felt that it would be interesting
- ☐ The commute was easy
- ☐ I was attracted by the fact I would be remunerated
- ☐ It was recommended by an academic advisor, senior, parent, etc.
- ☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q37の選択肢『1.Yes』を選択した

Q40	What was the duration of your internship? (Mark one answer.)
	*If you participated in more than one internship program, please answer with reference to the longest internship program.

- ☐ 1 day to less than 1 week
- ☐ 1 week to less than 1 month
- ☐ 1 month to less than 3 months
- ☐ 3 months to less than 6 months
- ☐ 6 months to less than 1 year
- ☐ 1 year or more

-----<改ページ>-----

【条件】
Q37の選択肢『1.Yes』を選択した

Q41	Was it a paid internship? (Mark one answer.)
	*If you participated in more than one internship program, please answer with reference to the longest internship program.

☐ Unpaid

☐ Reimbursement of costs (transportation, lunch, accommodation, etc.)

☐ Paid (daily) salary Specific amount [Per day]:
 yen

☐ Paid (hourly) salary Specific amount [Per hour]:
 yen

☐ Paid salary (Other) Describe the specific compensation and amount, etc.:

-----<改ページ>-----

【条件】
Q41の選択肢『4.Paid (hourly) sal...』を選択した

Q41_2	Please indicate the average number of hours per day of internship you have done.
	*If you participated in more than one internship program, please answer with reference to the longest internship program.

Average number of hours: per day

-----<改ページ>-----

【条件】
Q37の選択肢『1.Yes』を選択した

Q42	What were the main contents of your internship program? (Mark one answer.)
	*If you participated in more than one internship program, please answer with reference to the longest internship program.

☐ Research and development work at the internship organization (research internship)

☐ Work other than research and development at the internship organization

☐ Providing work support, explanations, or study tours at the internship organization

☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

【条件】

Q37の選択肢『1.Yes』を選択した

Q43

Did you get a job at your internship organization?
(Mark one answer.)

☐ Yes

☐ No

-----<改ページ>-----

【条件】

Q43の選択肢『2.No』を選択した

Q44

Why did you not get a job at your internship organization?
(Mark all applicable answers.)

☐ I did not want to work there to begin with

☐ I got a job at a different company in the same industry as my internship organization

☐ I wanted to work in the organization before the internship, but changed my mind as I felt that I would not be able to apply my research contents to the job

☐ I wanted to work in the organization before the internship, but changed my mind as I felt that I would not be able to apply my research skills to the job

☐ I wanted to work in the organization before the internship, but changed my mind when considering my career path, as I felt that I would not be able to enhance my value

☐ I wanted to work in the organization before the internship, but changed my mind as I felt that the compensation/benefits were not satisfactory

☐ I wanted to work in the organization before the internship, but changed my mind as the atmosphere and corporate culture did not appeal to me

☐ I wanted to work in the organization before the internship, but changed my mind as I felt that participating in the internship was not an incentive for getting a job in the organization

☐ I didn't get hired

☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

【条件】

Q37の選択肢『2.No』を選択した

Q45

Why did you not participate in an internship?
(Mark all applicable answers.)

☐ There were no themes, etc. that I wanted to participate in

☐ I was busy with research and it was difficult to apply

☐ I was not interested

☐ I applied but was not selected

☐ Other Specifically:

-----<改ページ>-----

Q46	While enrolled in your master's course (six-year course), did you spend more than 3 months at a research laboratory abroad? (Mark one answer.) * If you spent time at multiple laboratories, enter the combined time spent at the labs. %%#HQ46[1]%%
------------	--

☐ Yes

☐ No

-----<改ページ>-----

【条件】 Q46の選択肢『1.Yes』を選択した

Q46_2	Please enter the duration you spent at a research laboratory abroad. * If you spent time at multiple laboratories, enter the combined time spent at the labs.
--------------	---

Period:

years

months

-----<改ページ>-----

Q47	What are your impressions of the education/research guidance, and other programs, that you have experienced during your master's course (six-year course)? (Mark one answer.)
------------	---

1/5

Quality of academic/research guidance

☐ Very good

☐ Good

☐ Neither good nor bad

☐ Not very good

☐ Poor

>>

-----<改ページ>-----

Q48	<p>Please select the skills that you have acquired during your master's course (six-year course) that you feel will be useful to you in the future. (Mark up to three answers.)</p> <p>%%#HQ46[2]%%</p>
------------	--

<input type="checkbox"/> Logic and critical thinking skills
<input type="checkbox"/> A wide perspective that transcends the boundaries of the humanities and the sciences
<input type="checkbox"/> Communication skills
<input type="checkbox"/> Competencies of harmonious coexistence
<input type="checkbox"/> Creativity
<input type="checkbox"/> Adaptability
<input type="checkbox"/> Abilities to carry out with responsibility and independently
<input type="checkbox"/> Data handling skills
<input type="checkbox"/> Ability access cutting edge knowledge
<input type="checkbox"/> Ability to identify and set agenda
<input type="checkbox"/> Ability to formulate and verify a hypothesis
<input type="checkbox"/> Ability to evaluate and create societal and economic values
<input type="checkbox"/> Communication skills coping with globalization, including advanced English language proficiency
<input type="checkbox"/> Ethics
<input type="checkbox"/> Advanced specialized knowledge for understanding and solving various complex social issues from different angles
<input type="checkbox"/> Other Specifically: <input style="width: 100px;" type="text"/>
<input type="checkbox"/> None in particular

-----<改ページ>-----

Q49	<p>Of the skills that you selected in the previous question, through which activities do you think you acquired those skills during your master's course (six-year course)? Please select one activity that contributed most to the acquisition of each skill that you selected in the previous question. (Mark one answer for each.)</p> <p>%%#HQ46[3]%%</p>
------------	--

1/16

Logic and critical thinking skills
<input type="radio"/> Individual research activities (study of previous research, experiments, analysis, and examination)
<input type="radio"/> Group research activities (such as collaborative research with researchers/corporations within and outside your research laboratory, etc.)
<input type="radio"/> External presentation of research results (presentations at academic conferences, writing of papers, etc.)
<input type="radio"/> Exchanges with members of the same research laboratory (such as reports on research progress, discussions with other members including the supervising faculty, etc.)
<input type="radio"/> Exchanges with researchers, etc. from different research laboratories
<input type="radio"/> Research support activities in the same research laboratory (such as miscellaneous tasks that are not directly related to your research, supervising junior members, mentoring international students, etc.)
<input type="radio"/> Graduate school lectures (curriculum)/programs
<input type="radio"/> Job-hunting activities (including internships, business start-up activities, etc.)

☐ Personal life (part-time job, club activities, circles, etc.)

☐ Other Specifically:

>>

-----<改ページ>-----

【条件】
 Q10の選択肢『2.Master's course ...』を選択した

Q50	On the average, how many hours of research work do you do per weekday during your master's course? Please select the most applicable answer. (Mark one answer.)
<input type="radio"/>	Less than one hour
<input type="radio"/>	1 hour or more - Less than 3 hours
<input type="radio"/>	3 hours or more - Less than 5 hours
<input type="radio"/>	5 hours or more - Less than 8 hours
<input type="radio"/>	8 hours or more - Less than 12 hours
<input type="radio"/>	12 hours or more - Less than 15 hours
<input type="radio"/>	15 hours or more

-----<改ページ>-----

Q51	Have there been any changes to the number of hours of research work you do due to the impact of the novel coronavirus pandemic? (Mark one answer.)
<input type="radio"/>	Increased significantly
<input type="radio"/>	Increased
<input type="radio"/>	Increased somewhat
<input type="radio"/>	Unchanged
<input type="radio"/>	Decreased somewhat
<input type="radio"/>	Decreased
<input type="radio"/>	Decreased significantly

-----<改ページ>-----

【条件】
 Q10の選択肢『2.Master's course ...』を選択した

Q52	How many peer-reviewed papers have you published while enrolled in the master's course? Of these, how many were international co-authored papers? (Input your answer in single-byte characters.) * If none, please input "0."
------------	--

Number of peer-reviewed papers:

Of these, number of international co-authored papers:

-----<改ページ>-----

Q53	Thank you for your cooperation. Comments about this survey: (Please be specific in your response.)
------------	---

↑
↓

-----<改ページ>-----

This is the end of the survey. Thank you for your time.

調査資料-310

修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査
(2020年度修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者に関する報告)

2021年6月

文部科学省 科学技術・学術政策研究所
第1調査研究グループ

治部 眞里 星野 利彦

The 2020 Survey of Japan Master's Human Resource Profiling

June 2021

Mari JIBU and Toshihiko HOSHINO

1st Policy-Oriented Research Group,
National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT

<https://doi.org/10.15108/rm310>



<https://www.nistep.go.jp>